

A decorative arrangement of five overlapping circles in the top-left quadrant of the page. The circles vary in size and are rendered with a soft, glowing effect.

ニーズ調査の結果

A decorative arrangement of five overlapping circles in the bottom-left and bottom-right quadrants of the page. The circles vary in size and are rendered with a soft, glowing effect.

第1章 調査実施の概要

1 調査の目的

平成24年8月に、一人ひとりの子どもが健やかに成長することができる社会の実現に寄与することを目的とする「子ども・子育て支援法」が成立し、新しい「子ども・子育て支援制度」が施行されます。

新しい制度では、これまで以上に安心して子どもを生み育てられる環境を整備していくために「質の高い幼児期の学校教育・保育の一体的な提供」や「地域における子育て支援の充実」「保育の量的拡大」を図る必要があることから、幼児期の学校教育や保育、子育て支援などに関するニーズを把握し、適切なサービスの確保を行うことを目的とした事業計画の策定が自治体に義務化されました。

そのため、寒河江市においても他自治体と同様に、子ども・子育て支援法の基本理念や子ども・子育ての意義を踏まえて、今後5年間の事業計画を作成することになりました。このような状況により、事業計画の策定に必要な情報を得るため、子育て家庭ニーズの動向分析等を行い、市の現状と今後の子ども・子育て支援における課題を整理することを目的としたアンケート形式によるニーズ調査を実施しました。

2 調査の設計

調査票は調査対象者別に作成しており、2種類の調査票の趣旨は次のとおりです。

(1) 調査票の種類と調査対象者等

調査対象者別の調査内容は、以下のとおりです。

図表 1.1 調査の実施方法

①調査票「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査（就学前児童用）」	
調査対象者	就学前児童を持つ保護者
調査件数	1,000件
調査内容	家庭等の子育て環境、保護者の就労状況、定期的な教育・保育事業の現状・利用意向、地域の子育て事業の現状・利用意向、育児休業の現状・利用意向に関する設問
②調査票「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査（小学生用）」	
調査対象者	小学校児童を持つ保護者
調査件数	500件
調査内容	家庭等の子育て環境、保護者の就労状況、放課後の過ごし方に対する希望に関する設問

3 調査の実施方法と配布・回収状況

(1) 調査時期と調査方法

子ども・子育て支援ニーズ調査は、平成 25 年 11 月 18 日～12 月 3 日にかけて実施しました。

「就学前児童の保護者」に対する調査は、幼稚園・認可保育所等を利用している就園児には、施設を通して調査票を配布・回収しました。また、認可外保育施設入所児童および未就園児の保護者には、郵送により調査票を配布・回収しました。

また、「小学校児童の保護者」の調査方法について、市立小学校に通学している小学 1～3 年生の保護者に、小学校を通して調査票を配布・回収しました。

(2) 調査の配布・回収状況からみた調査信頼度

調査によるそれぞれの配布・回収状況は、以下のとおりです。

ニーズ調査では、各種の教育・保育事業のニーズ量を推計することから、調査の信頼度（95%）が求められています。今回の調査では、信頼度の必要サンプル数を上回る 0～2 歳で 300 人、3～5 歳で 468 人、年齢について無回答 14 人、6～8 歳で 460 人から回答をいただきました。

図表 1.2 調査票の配布・回収状況

調査対象者区分	就学前児童の保護者			小学校児童の保護者		
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
市全域	1,000 人	782 人	78.2%	500 人	460 人	92.0%

図表 1.3 調査の信頼度

年齢階級	就学前児童の保護者			小学校児童の保護者		
	対象者数	回収数	必要サンプル数	対象者数	回収数	必要サンプル数
市全域（0～2 歳）	1,025 人	300 人	280 人			
市全域（3～5 歳）	1,059 人	468 人	282 人			
市全域（6～8 歳）				1,128 人	460 人	287 人

■社会調査信頼度 95%の計算式

$$n = \frac{N}{\left(\frac{E}{k}\right)^2 \times \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$

※ n：サンプル数

N：全体の人数（母集団）

E：許容できる誤差の範囲

P：母比率 = 0.5（50%のときに最大のサンプル数となるため）

k：信頼度係数 = 1.96（通常、信頼度 95%を基準とするため）

4 報告書の見方について

国資料は「就学前児童」と「就学児童」の名称を使用していますが、この報告書では違いを明確にするため、「就学児童」を「小学校児童」と表記しています。

(1) 年齢・学年の定義

就学前児童・小学校児童の年齢定義は、ニーズ調査において誕生日の年月を回答しているため、下表による年齢区分により集計を行いました。

図表 1.4 ニーズ調査における年齢・学年定義

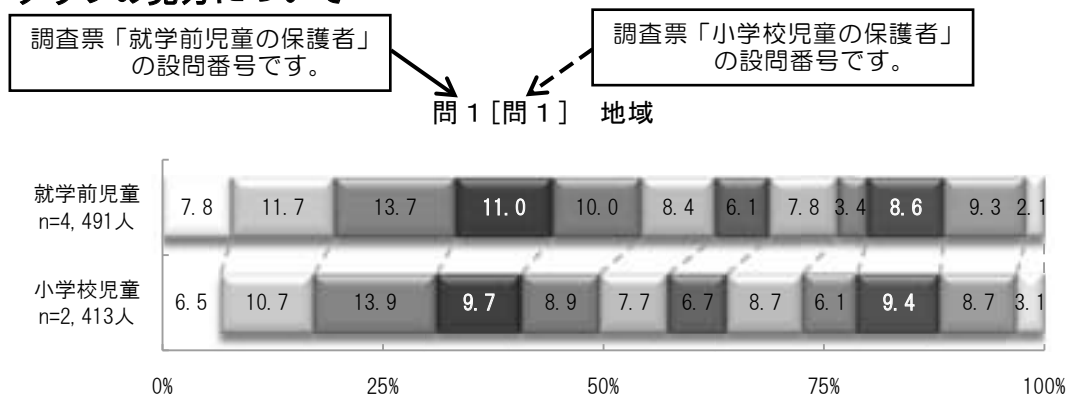
年齢区分	該当する生年月	年齢区分	該当する生年月
0歳児	平成24年4月以降	6歳児	平成18年4月～平成19年3月
1歳児	平成23年4月～平成24年3月	7歳児	平成17年4月～平成18年3月
2歳児	平成22年4月～平成23年3月	8歳児	平成16年4月～平成17年3月
3歳児	平成21年4月～平成22年3月	9歳児	平成15年4月～平成16年3月
4歳児	平成20年4月～平成21年3月	10歳児	平成14年4月～平成15年3月
5歳児	平成19年4月～平成20年3月	11歳児	平成13年4月～平成14年3月

(注) 調査期間【平成25年度】における年齢定義

(2) 電算処理の注意点

調査結果の数値については小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。

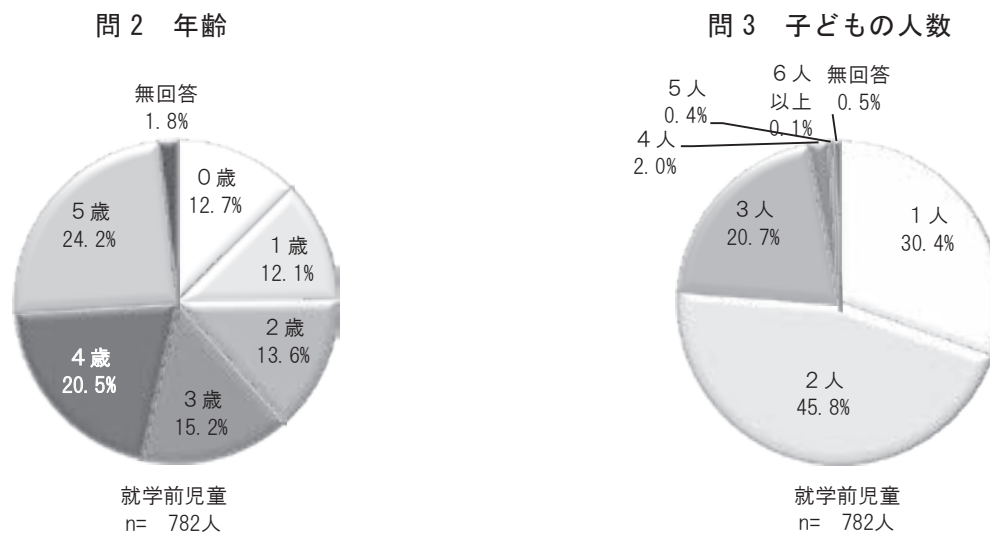
(3) グラフの見方について



5 調査対象者の属性・家族状況

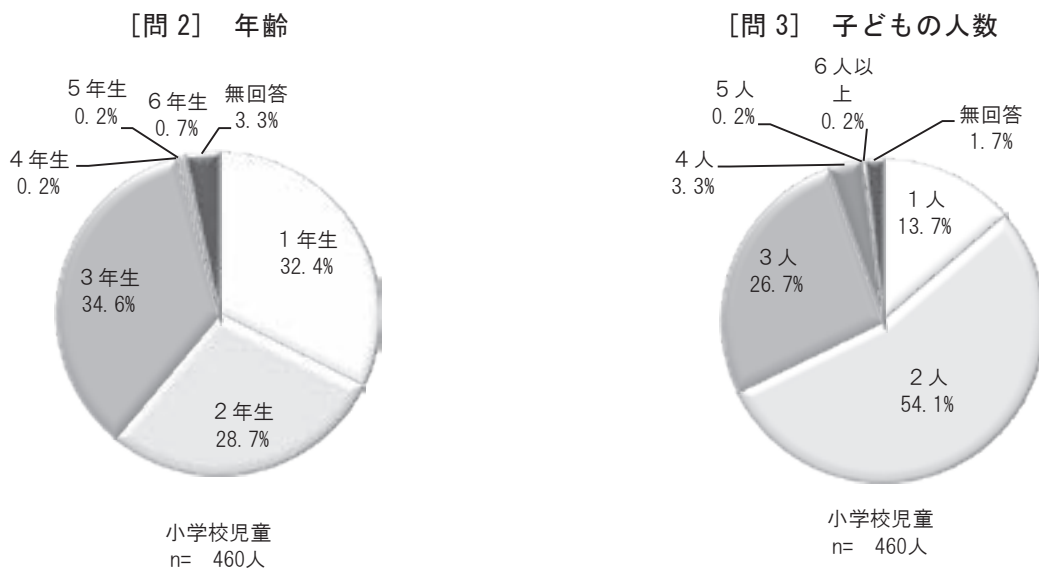
(1) 就学前児童の属性

回答された 782 件の就学前児童の属性は、以下のとおりです。



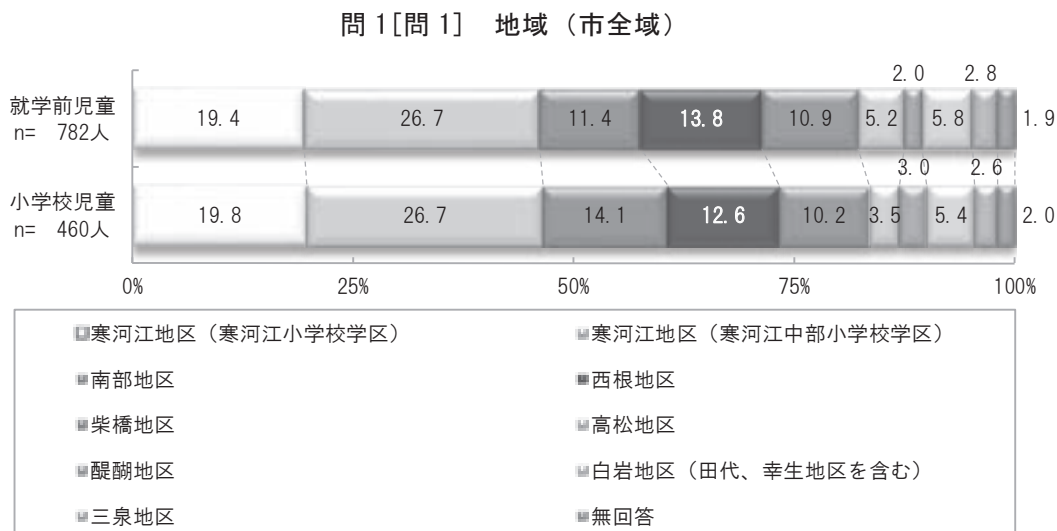
(2) 小学校児童の属性

回答された 460 件の小学校児童の属性は、以下のとおりです。



(3) 居住地域の状況

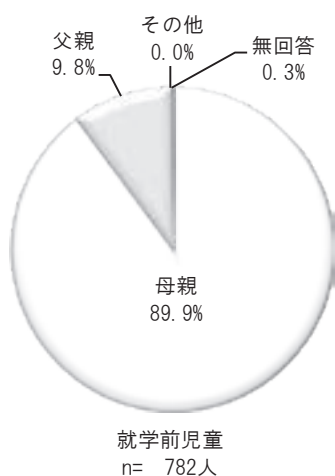
回答者が居住している地域の状況は、以下のとおりです。



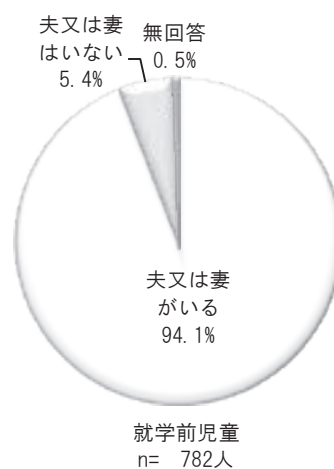
(4) 調査回答者の状況と配偶者有無

この調査の回答者は、以下のとおりです。

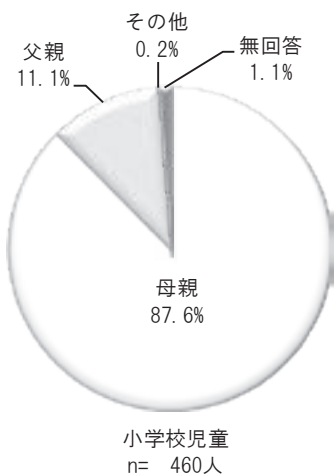
問4 調査回答者（就学前児童）



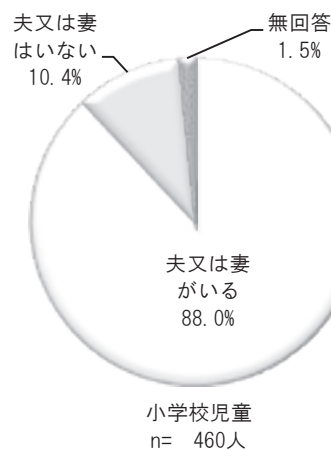
問5 配偶者の有無（就学前児童）



[問4] 調査回答者（小学校児童）
配偶者の有無（小学校児童）



[問5]



6 利用できる子育て支援サービスの種類

寒河江市の子育て家庭が現在利用できる環境にある、子育て支援サービスは下表のとおりです。

図表 1.5 寒河江市で利用できる環境にある教育・保育事業と地域の子育て支援事業

分類	子育て支援サービス名	事業の説明
(1) 幼児期の教育・保育事業		
	①幼稚園（標準時間利用）	・通常の就園時間を利用
	②幼稚園の預かり保育	・通常の就園時間を延長して預かる事業のうち、定期的な利用のみ
	③認可保育所	・国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の許可を受けたもの
	④事業所内保育	・企業が主に従業員用に運営する施設
	⑤その他認可外保育施設	・認可外の保育所施設
(2) 地域の子育て支援事業		
	①地域子育て支援拠点事業	・親子が集まって過ごしたり、相談したり、情報提供を受けたりする場で、「つどいの広場」「子育て支援センター」等と呼ばれる
	②妊婦健診	・母親とおなかの赤ちゃんの健康を守り、妊娠の状況をチェックする健診
	③乳児家庭全戸訪問事業	・生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問し、育児に関する不安や悩みの相談に応じ、子育て支援の情報提供などを行う事業
	④養育支援訪問事業	・様々な理由で子どもの養育支援を必要とする家庭に、保健師などを派遣し、育児や家事の手助けや教えたりする事業
	⑤子育て短期支援事業	・保護者が病気や仕事、出産、育児疲れなどで一時的に養育ができなくなった子どもを児童養護施設等で預かる事業(宿泊を伴う)
	⑥ファミリー・サポート・センター事業	・地域住民が子どもを預かる事業
	⑦一時預かり事業	・保護者が断続的な就労や疾病・災害・看護・冠婚葬祭など、一時的に保育が必要な場合に子どもを預かる事業
	⑧延長保育事業	・保護者の就労形態等の事情により、子どもを通常の保育時間を超えて保育する事業
	⑨放課後児童クラブ	・労働などの事情により昼間保護者が家庭にいない小学校の児童を対象に、放課後や長期休暇中、保護者に代わって行う保育事業

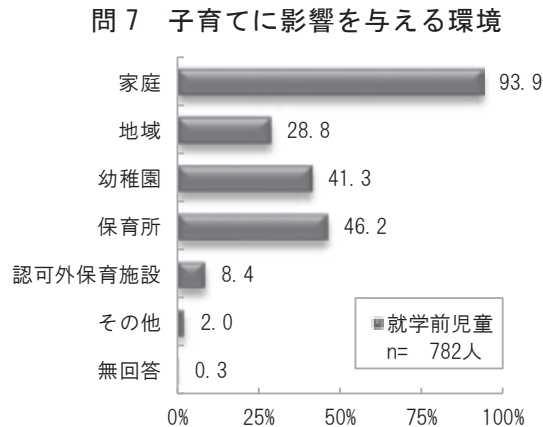
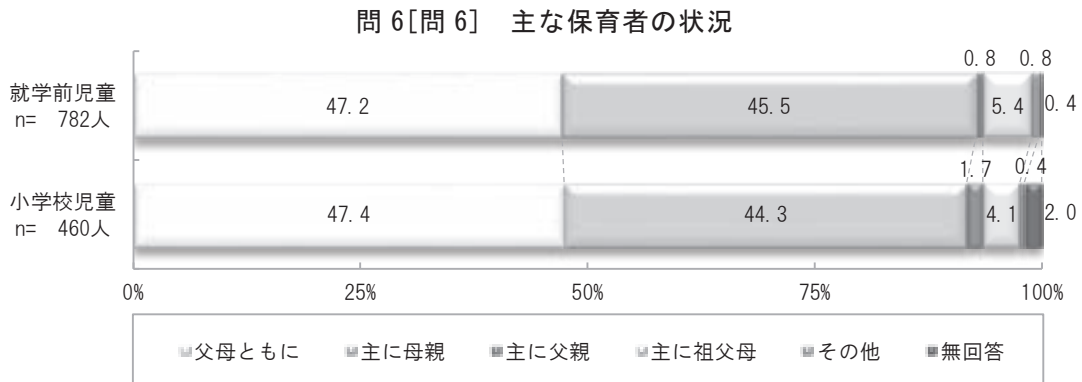
第2章 子育て家庭を取り巻く環境

1 子育ての環境について

(1) 主な保育者と親族等協力者の状況

主な保育者の状況をみると、就学前児童では「父母ともに」(47.2%)と「主に母親」(45.5%)が大半を占めています。小学校児童でも「父母ともに」(47.4%)と「主に母親」(44.3%)と同じような傾向となっています。

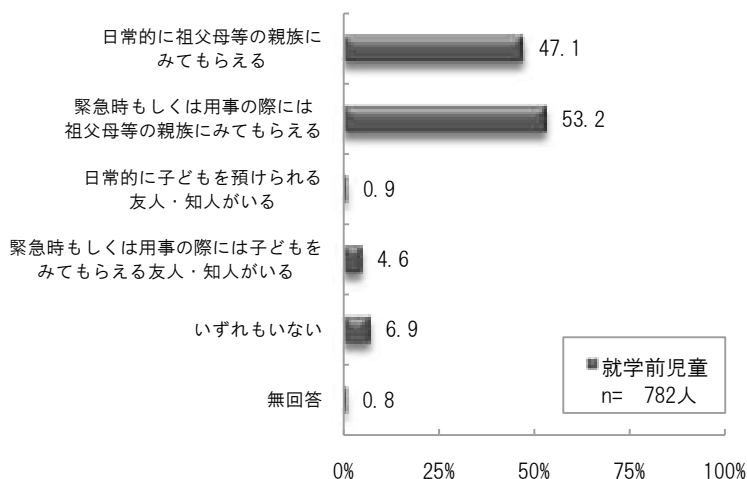
子育てに影響を与える環境は、「家庭」(93.9%)が最も多く、次いで保育所(46.2%)、幼稚園(41.3%)の順となっています。



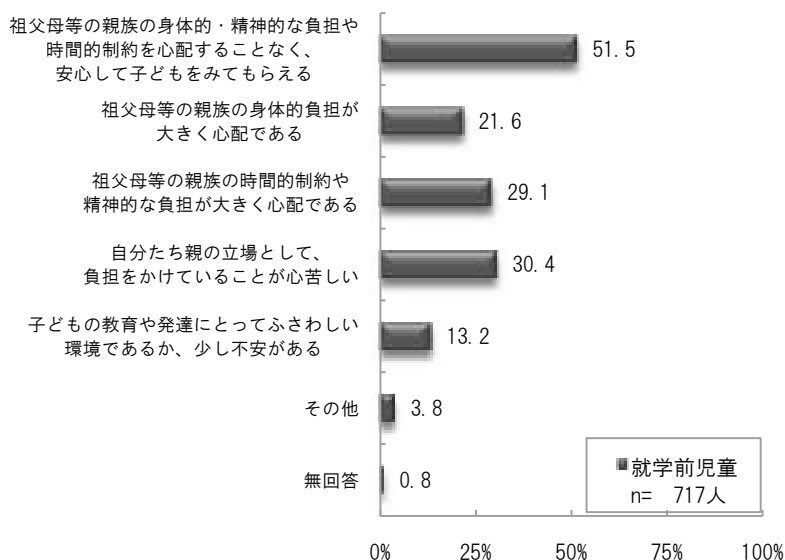
主な親族等協力者の状況を見ると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」(53.2%)が最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(47.1%)の順となっています。

祖父母等の親族に子どもをみてもらうことへの考えに対して、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」という方(51.5%)がいる一方で、祖父母の身体的・精神的な負担を心配しながらも子どもを見てもらっている方(50.7%)もいます。また、友人・知人に預かってもらうことへの考えに対して、「友人・知人の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」という方(38.5%)がいる一方で、友人・知人の身体的・精神的な負担を心配しながらも子どもを見てもらっている方(35.9%)もいます。

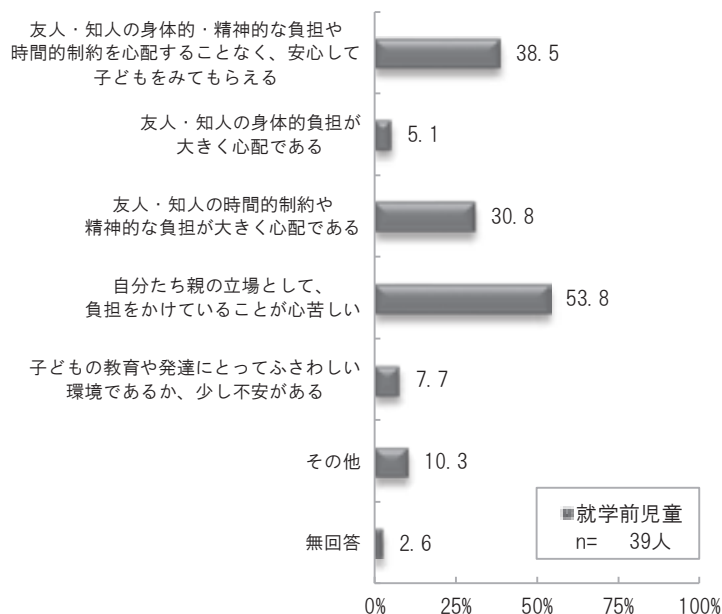
問 8 主な親族等協力者の状況



問 8-1 祖父母等の親族に子どもをみてもらうことへの考え



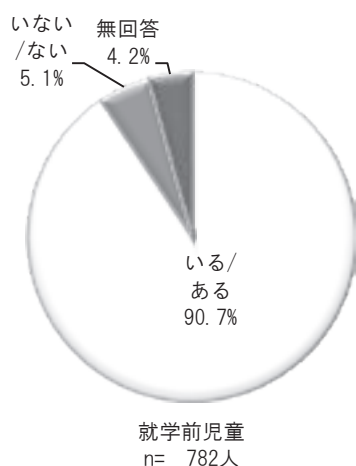
問 8-2 友人・知人に預かってもらうことへの考え



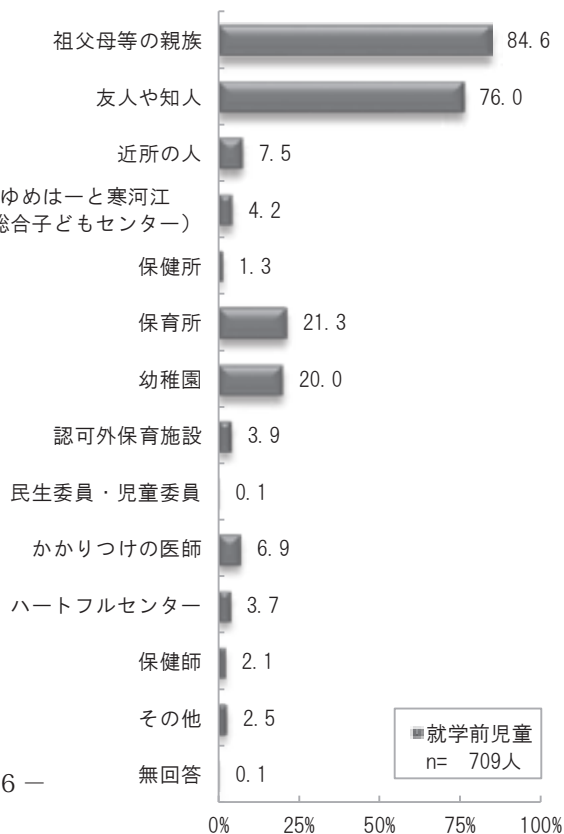
(2) 子育てに関する相談者の状況

気軽に相談できる人の有無をみると、「いる／ある」(90.7%)が大半を占めています。気軽にできる相談者の状況は、「祖父母等の親族」(84.6%)、「友人や知人」(76.0%)、「保育所」(21.3%)、幼稚園(20.0%)の順となっています。

問 9 気軽に相談できる人の有無



問 9-1 気軽にできる相談者の状況



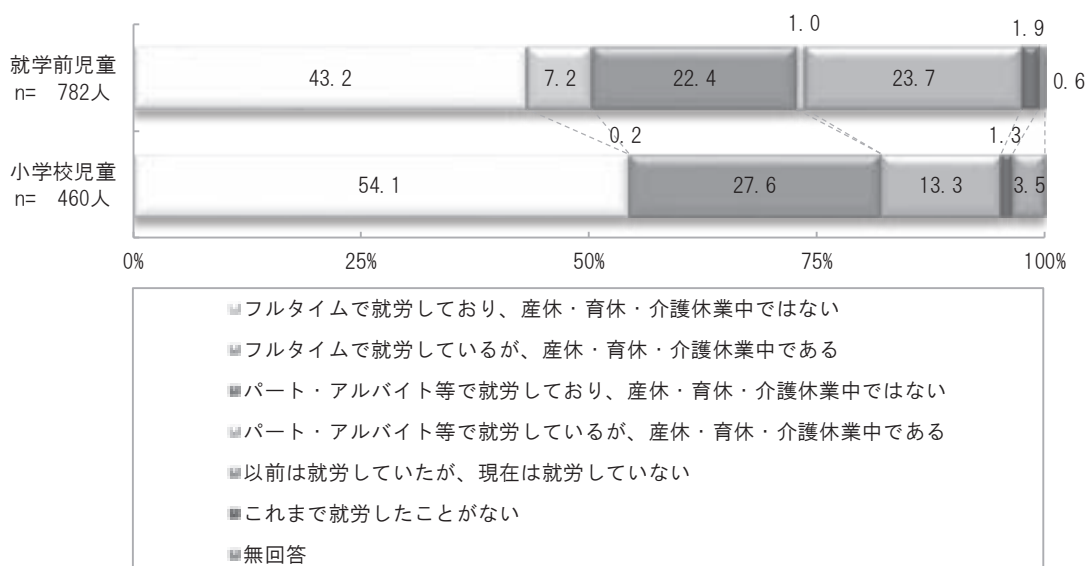
2 保護者の就労状況

(1) 母親の就労状況

母親の就労状況をみると、就学前児童では「フルタイムで就労している」(43.2%)をはじめ8割近くの方が就労し、「産休・育休・介護休業中である」が8.2%となっています。

小学校児童についても「フルタイムで就労している」(54.1%)をはじめ、8割以上の方が就労しています。「産休・育休・介護休業中である」が0.2%となり、前者よりも少なくなっています。

問 11(1)[問 7(1)] 母親の就労状況

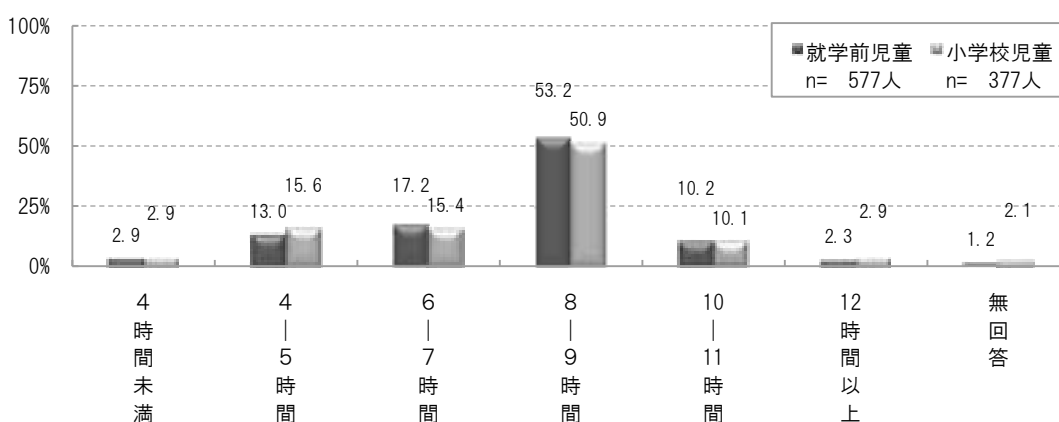
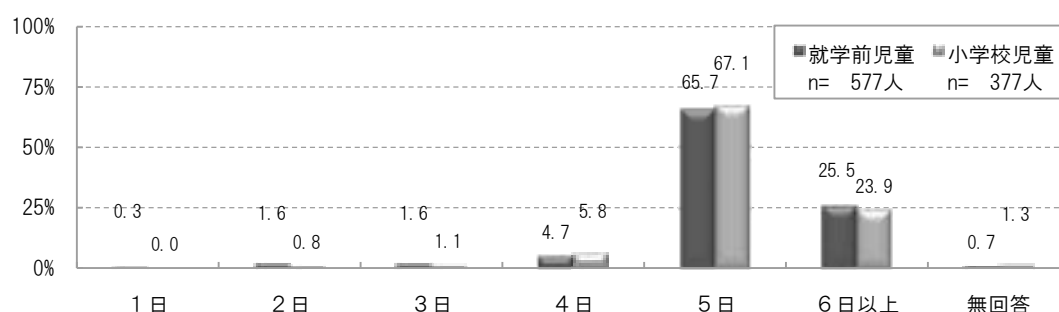


母親の就労日数・就労時間をみると、就学前児童では「5日」(65.7%)、「8-9時間」(53.2%)、小学校児童では「5日」(67.1%)、「8-9時間」(50.9%)が最も多いですが、両者ともに「6日以上」もそれぞれ20%以上います。

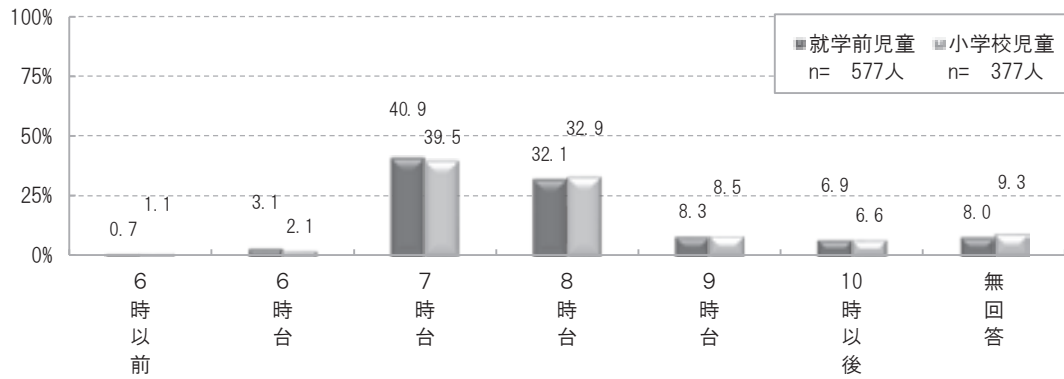
母親の出勤時間について、就学前児童では「7時台」(40.9%)、「8時台」(32.1%)、「9時台」(8.3%)、小学校児童も同様に「7時台」(39.5%)、「8時台」(32.9%)、「9時台」(8.5%)の順に多くなっています。

また帰宅時間について、就学前児童では「18-19時台」(49.7%)、「16-17時台」(17.2%)、小学校児童も同様に「18-19時台」(41.9%)「16-17時台」(19.9%)、の順に多く、両者ともに20時以後の帰宅は6.0%台となっています。

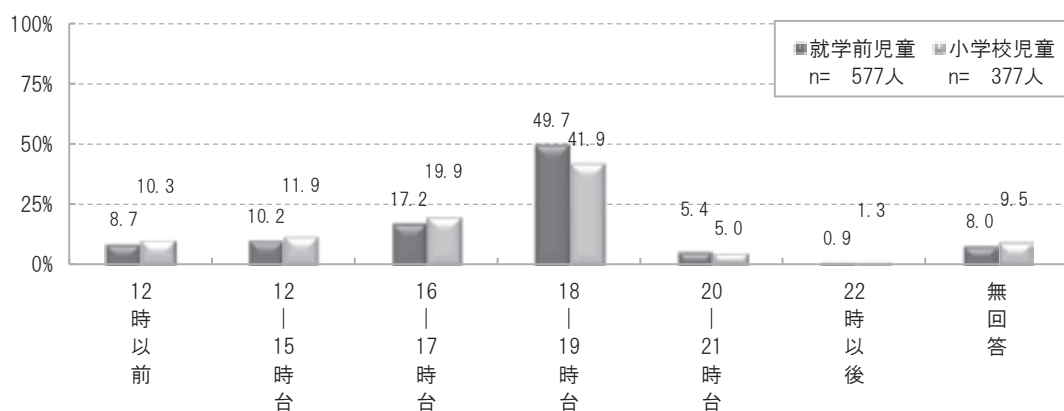
問 11(1)-1[問 7(1)-1] 母親の就労日数・就労時間



問 11(1)-2[問 7(1)-1] 母親の出勤時間



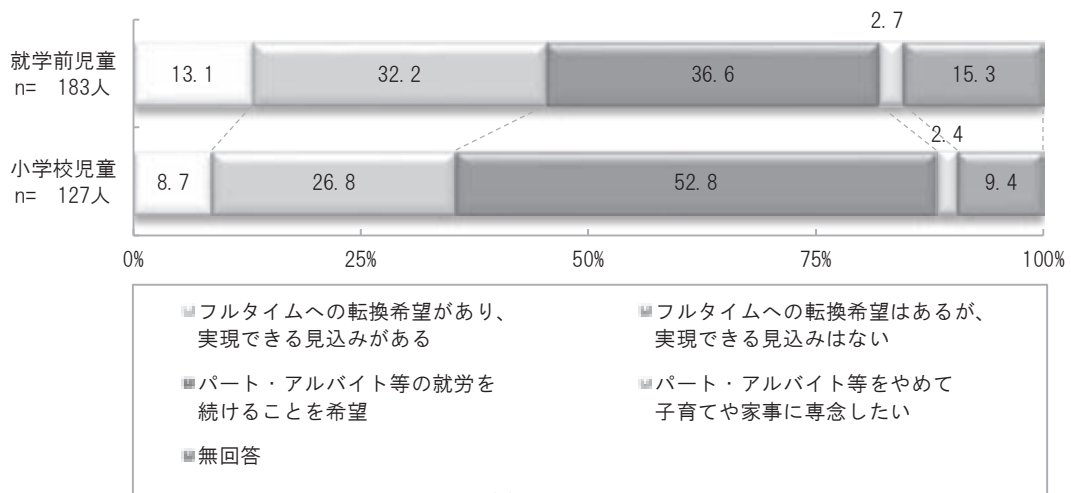
問 11(1)-2[問 7(1)-1] 母親の帰宅時間



母親のパートタイムからフルタイム勤務への意向をみると、就学前児童ではフルタイム勤務を希望する方は 45.3%いますが、実現できる見込みのある方は 13.1%に留まっています。

一方、小学校児童でもフルタイム勤務を希望する方は 35.5%いますが、実現できる見込みのある方は、前者と同様で 8.7%に留まっています。

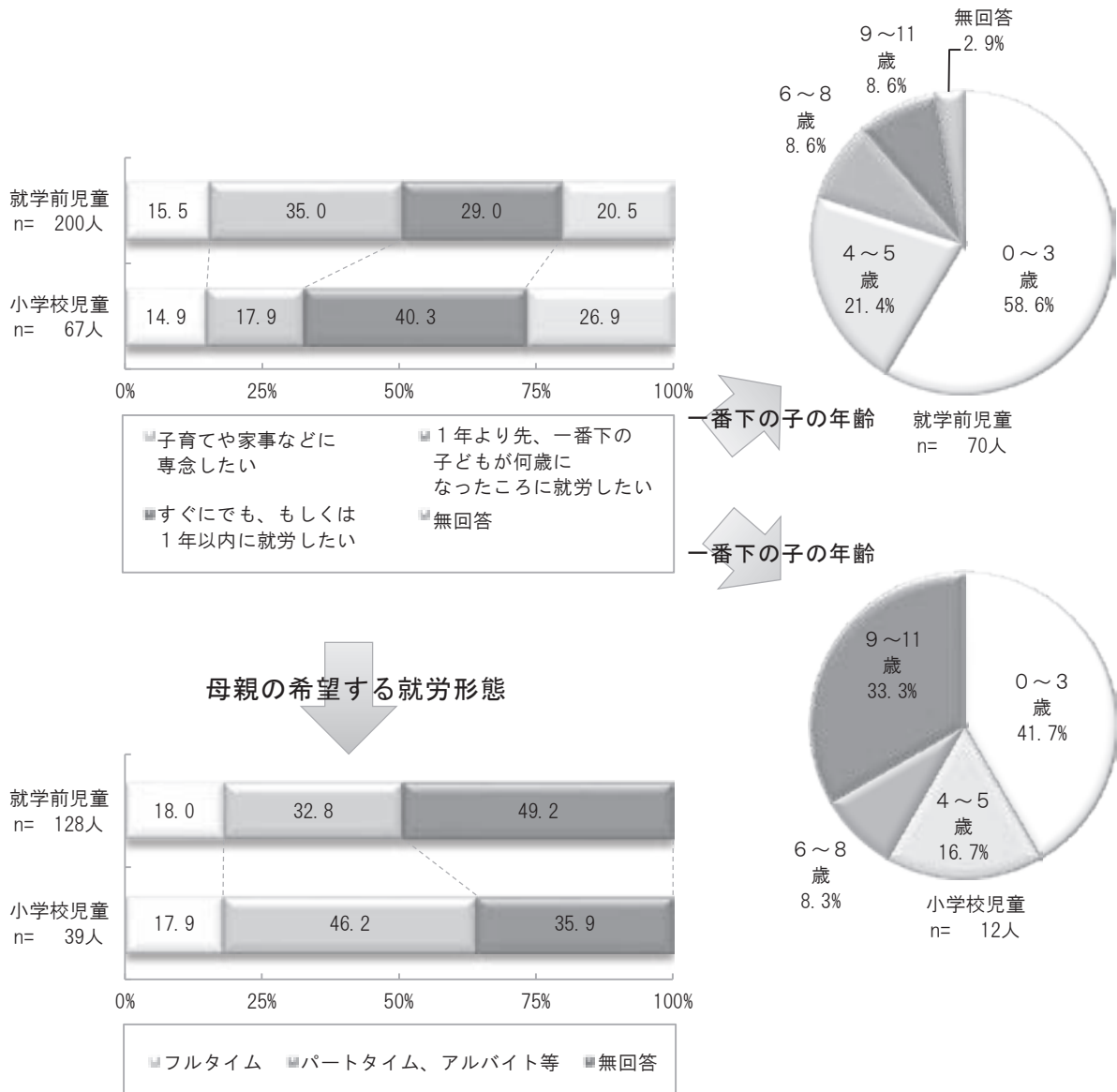
問 12(1)[問 8(1)] 母親のパートタイムからフルタイム勤務への意向



就労していない母親の今後の就労希望をみると、就学前児童では就労したい方が 64.0%おり、その内訳は「1年より先、一番下の子どもが何歳になったら就労したい」(35.0%)、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」(29.0%)、就労形態は「パートタイム、アルバイト等」(32.8%)、「フルタイム」(18.0%)となっています。就労時期となる子どもの年齢としては「0～3歳」(58.6%)、「4～5歳」(21.4%)、「6～8歳」(8.6%)の順となっています。

小学校児童では就労したい方が 58.2%で、その内訳は「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」(40.3%)、「1年より先、一番下の子どもが何歳になったら就労したい」(17.9%)、就労形態は「パートタイム、アルバイト等」(46.2%)、「フルタイム」(17.9%)となっています。就労時期となる子どもの年齢としては「0～3歳」(41.7%)、「9～11歳」(33.3%)、「4～5歳」(16.7%)の順となっています。

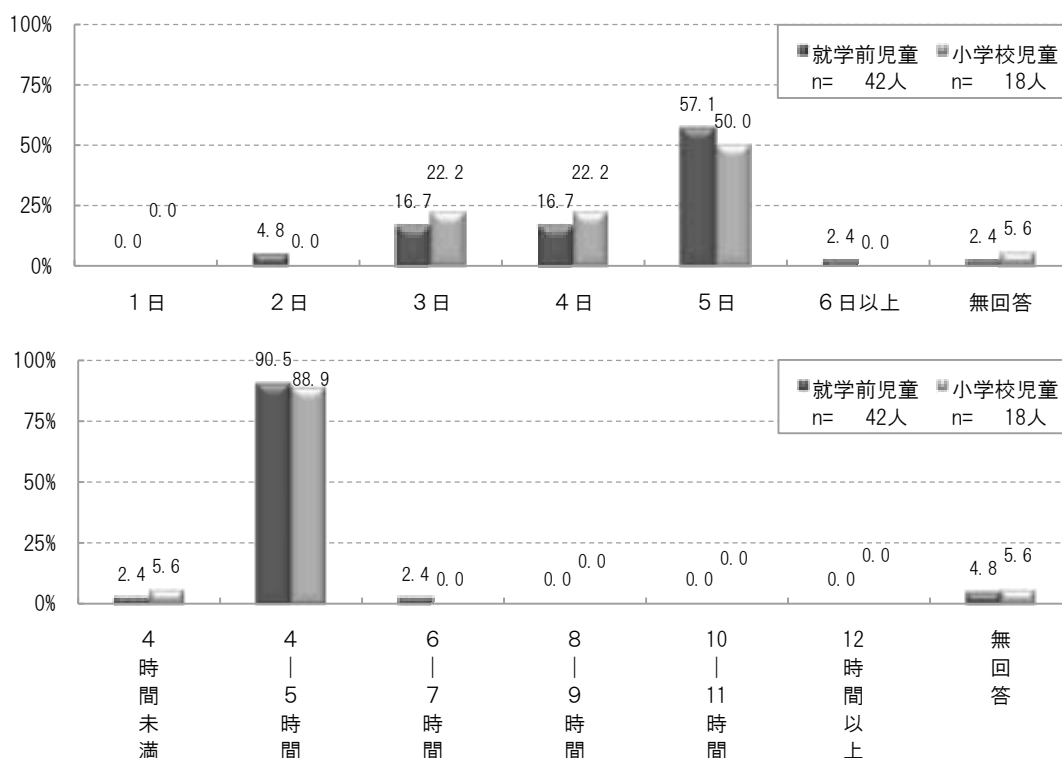
問 13(1) [問 9(1)] 就労していない母親の今後の就労希望と就労希望時の末子の年齢



母親の希望する就労形態をみると、就学前児童では就労日数が「5日」(57.1%)、「3日」「4日」(各 16.7%)、就労時間「4-5時間」(90.5%)が大半を占めています。

小学校児童も同様に、就労日数が「5日」(50.0%)、「3日」「4日」(各 22.2%)、就労時間が「4-5時間」(88.9%)となっています。

問 13(1) [問 9(1)] 母親の希望就労日数と希望就労時間

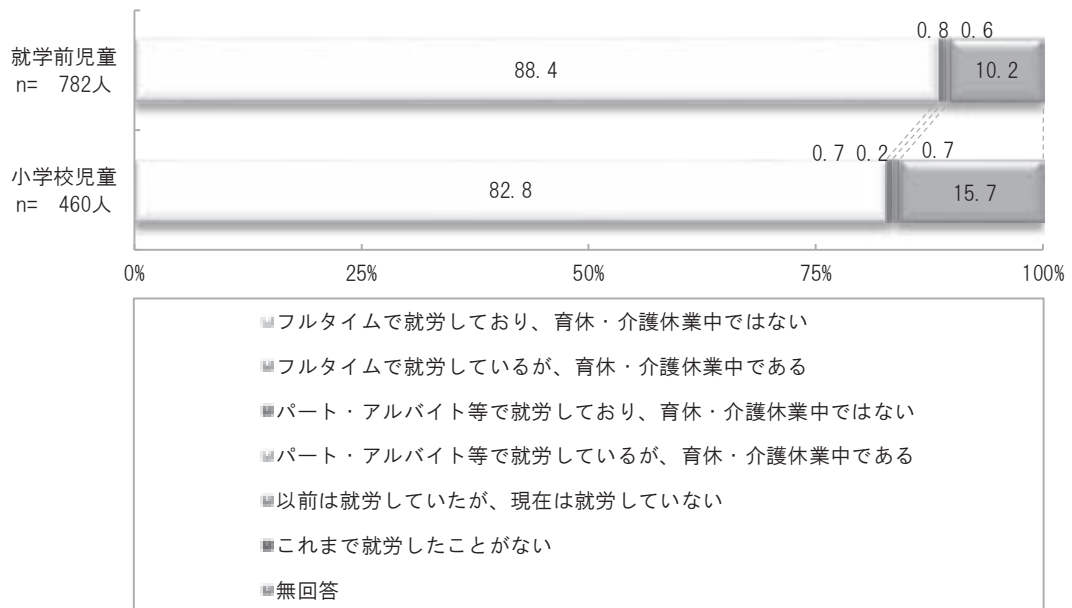


(2) 父親の就労状況

父親の就労状況を見ると、就学前児童では「フルタイムで就労している」(88.4%) が最も多くなっています。

小学校児童も同様に、「フルタイムで就労している」(82.8%) が最も多くなっています。

問 11(2) [問 7(2)] 父親の就労状況

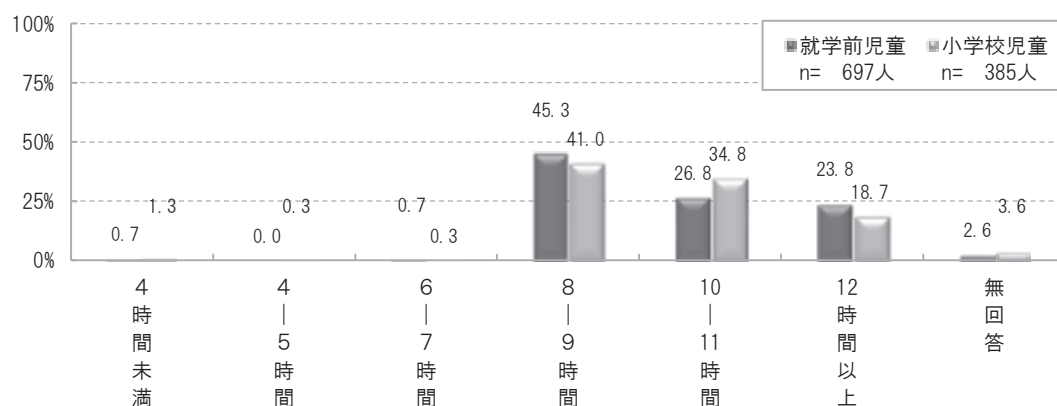
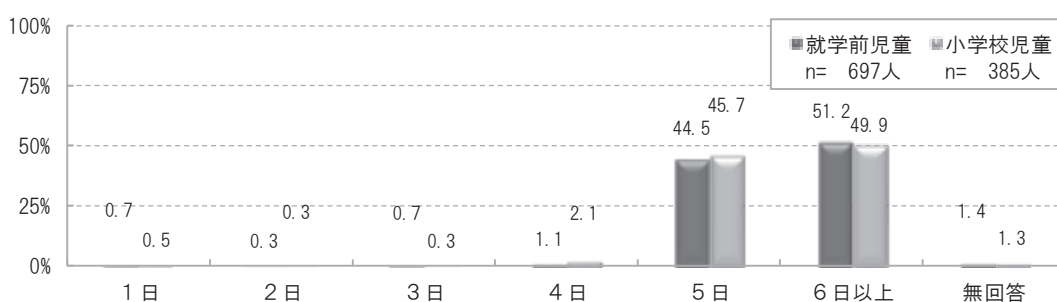


父親の就労日数・就労時間をみると、就学前児童では「5日」(44.5%)、「8-9時間」(45.3%)が最も多く、小学校児童も同様に「5日」(45.7%)、「8-9時間」(41.0%)となっています。

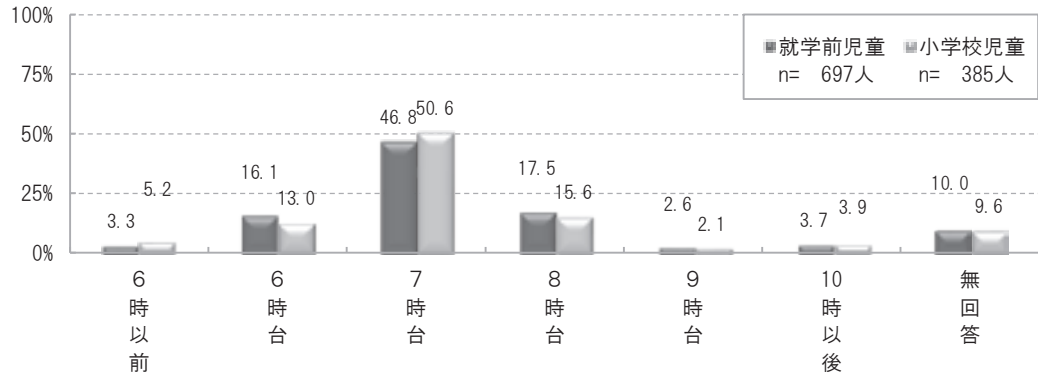
父親の出勤時間について、就学前児童では「7時台」(46.8%)、「8時台」(17.5%)、「6時台」(16.1%)、小学校児童も同様に「7時台」(50.6%)「8時台」(15.6%)、「6時台」(13.0%)の順となっています。

また帰宅時間について、就学前児童・小学校児童ともに「18-19時台」が最も多く、次いで「20-21時台」、「12時以前」となっています。両者ともに22時以降の帰宅は8.0%台となっています。

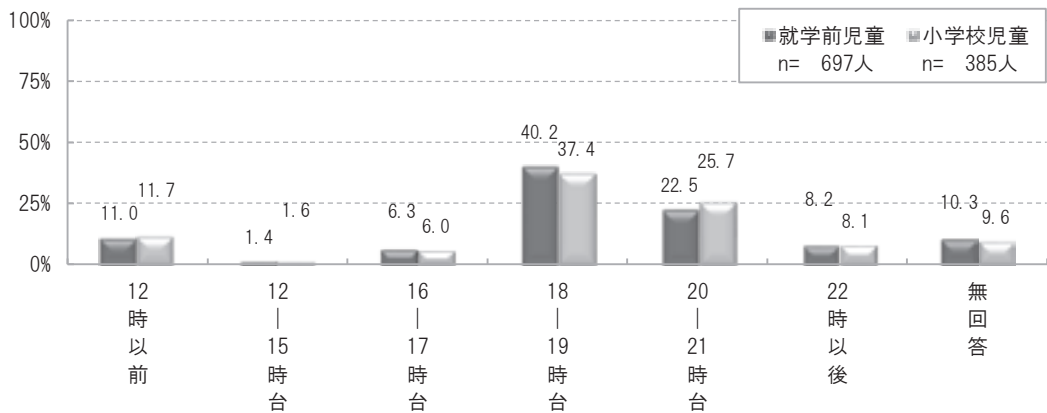
問 11(2)-1[問 7(2)-1] 父親の就労日数・就労時間



問 11(2)-2[問 7(2)-1] 父親の出勤時間



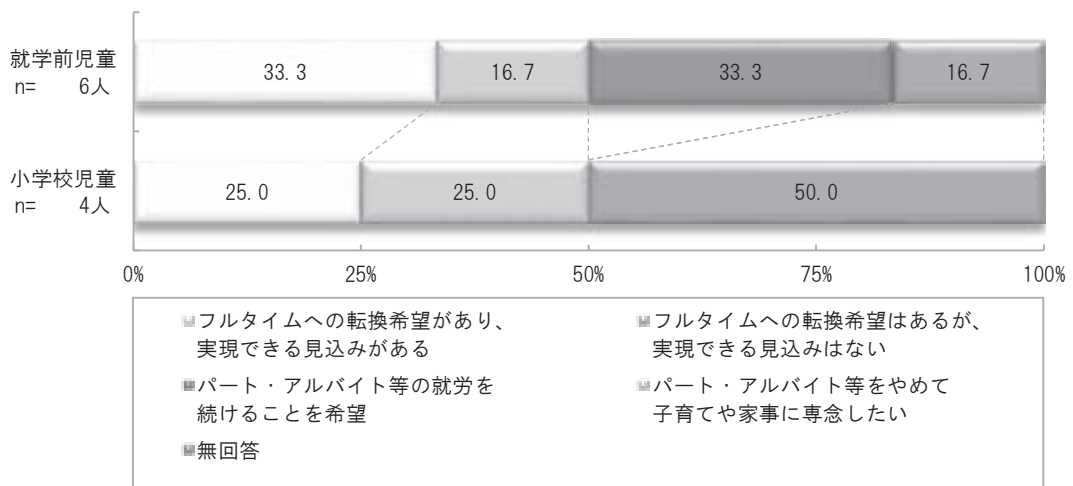
問 11(2)-2[問 7(2)-1] 父親の帰宅時間



父親のパートタイムからフルタイム勤務への意向をみると、就学前児童ではフルタイム勤務を希望する方は 50.0%いますが、実現できる見込みのある方は 33.3%に留まっています。

小学校児童も同様に、フルタイム勤務を希望する方は 50.0%いますが、実現できる見込みのある方は半数となっています。

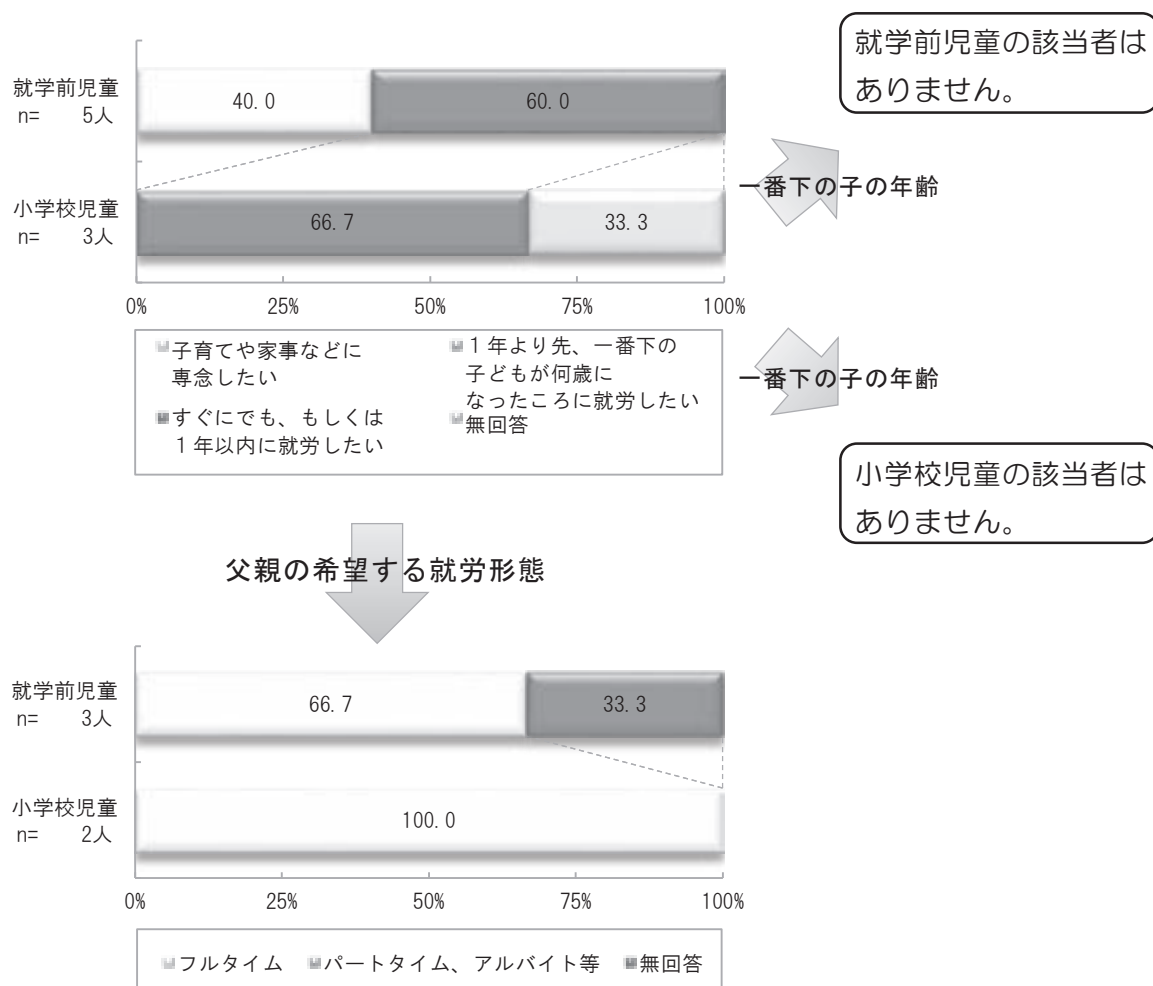
問 12(2) [問 8(2)] 父親のパートタイムからフルタイム勤務への意向



就労していない父親の今後の就労希望をみると、就学前児童では就労したい方が60.0%おり、全員が「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答し、就労形態は「フルタイム」(66.7%)となっています。

小学校児童も同様に、就労したい方が66.7%おり、その全員が「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答しています。就労形態についても全員が「フルタイム」を希望しています。

問 13(2) [問 9(2)] 就労していない父親の今後の就労希望と就労希望時の末子の年齢



第3章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望

1 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望

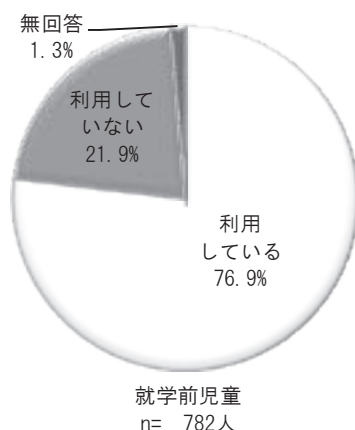
(1) 平日の定期的な教育・保育事業（全体）

定期的な教育・保育事業（全体）の利用状況について、利用している就学前児童は76.9%となっています。

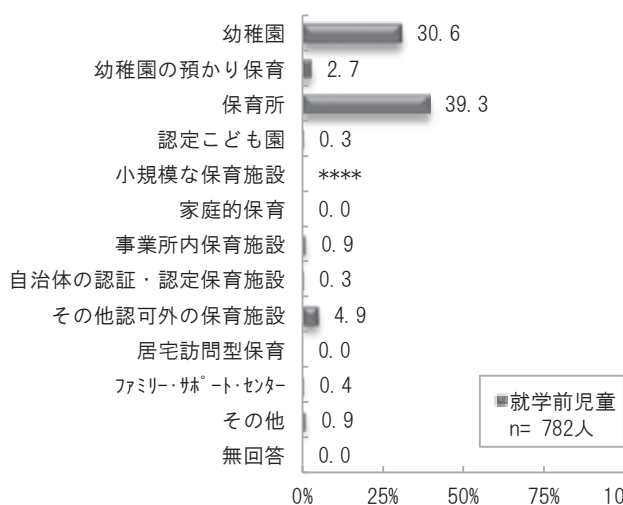
利用中の事業としては、「保育所」（39.3%）、「幼稚園」（30.6%）、「その他認可外の保育施設」（4.9%）、「幼稚園の預かり保育」（2.7%）の順となっています。

一方、今後の利用希望では「その他認可外の保育施設」を除く、すべての教育・保育事業において増加しています。

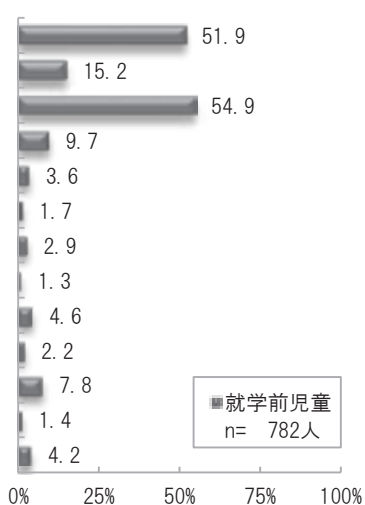
問 14 定期的な教育・保育事業の利用状況



問 14-1 利用中の定期的な教育・保育事業

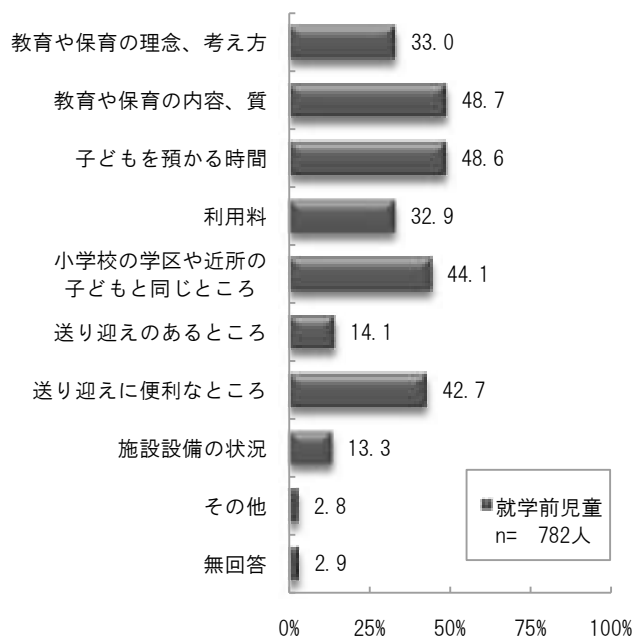


問 15 希望する定期的な教育・保育事業



※利用中の定期的な教育・保育事業の割合は、希望と同じ母数の782人としました。

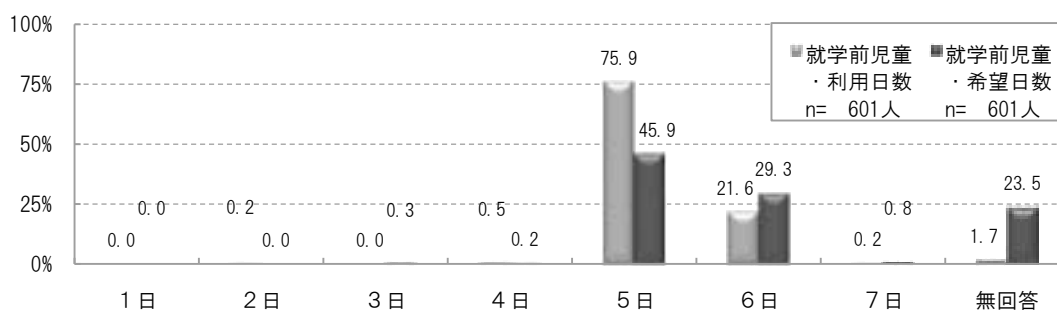
問 15-1 教育・保育事業の選択条件



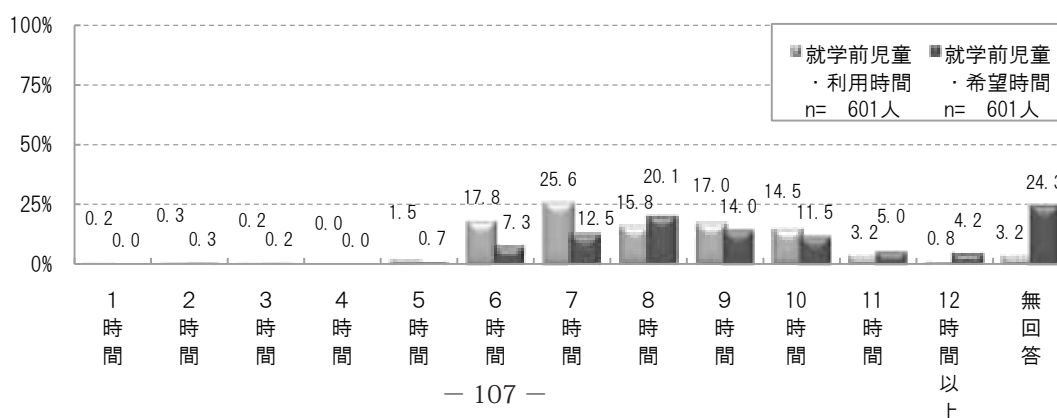
定期的な教育・保育事業（全体）の利用日数と希望日数（1週あたり）をみると、利用では「5日」（75.9%）、「6日」（21.6%）の順となり、希望も同様に「5日」（45.9%）、「6日」（29.3%）の順となっています。

また、利用時間と希望時間（1日あたり）について、利用では「7時間」（25.6%）、「6時間」（17.8%）、「9時間」（17.0%）の順となり、希望では「6～7時間」がやや減少していますが「無回答」が24.3%となっています。

問 14-2(1)(2) 定期的な教育・保育事業の利用日数と希望日数（1週あたり）



問 14-2(1)(2) 定期的な教育・保育事業の利用時間と希望時間（1日あたり）



定期的な教育・保育事業（全体）の利用開始時間と利用終了時間をみると、開始時間は「8時台」（55.1%）、「9時台」（27.6%）、「7時台」（13.8%）の利用順となり、終了時間は「14時台」～「16時台」までが51.2%、「17時台」（22.0%）、「18時台」（16.0%）の利用となっています。利用時間と希望時間との差は、希望終了時間で「19時台」「20時台」が増加していることから、一部の利用者に時間延長の希望がうかがえます。

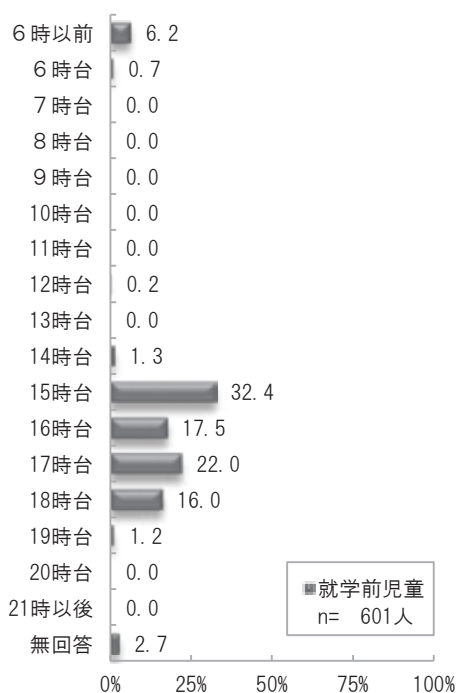
問 14-2(1) 利用開始時間



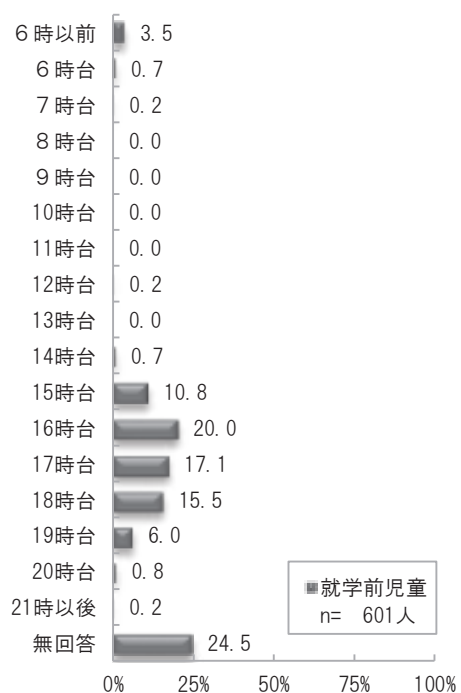
問 14-2(2) 希望開始時間



問 14-2(1) 利用終了時間

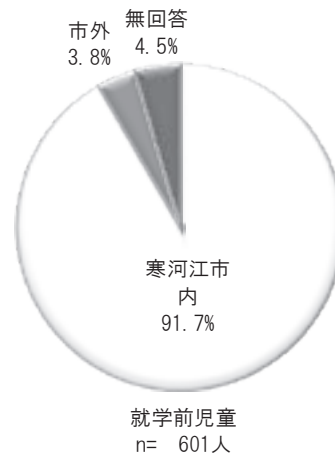


問 14-2(2) 希望終了時間



定期的な教育・保育事業（全体）の教育・保育の実施場所をみると、「寒河江市内」（91.7%）と回答し、ほとんどの方が市内の施設を利用しています。

問 14-3 教育・保育の実施場所

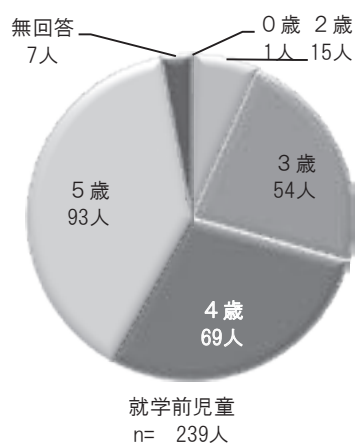


(2) 幼稚園

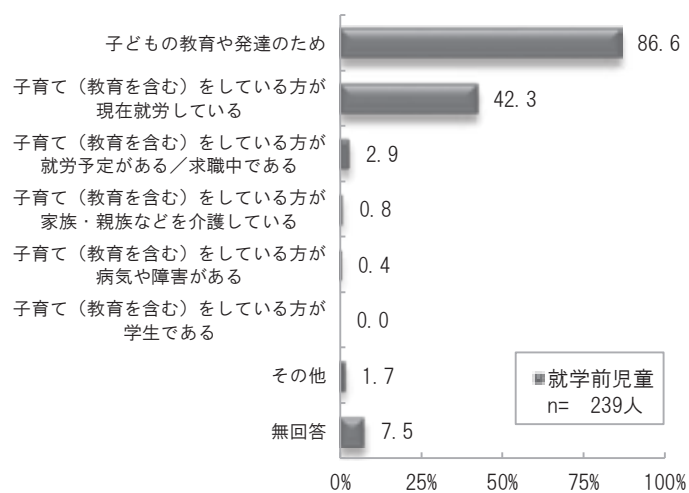
幼稚園の年齢別利用者数をみると、5歳（93人）、4歳（69人）、3歳（54人）、2歳（15人）、0歳（1人）の順に利用されています。

利用している理由は、「子どもの教育や発達のため」（86.6%）が最も多く、次いで「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」（42.3%）となっています。

問 14-1 幼稚園の年齢別利用者数



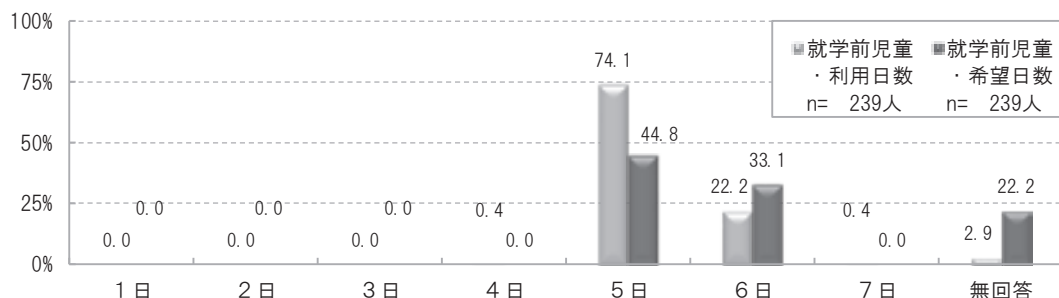
問 14-4 幼稚園を利用している理由



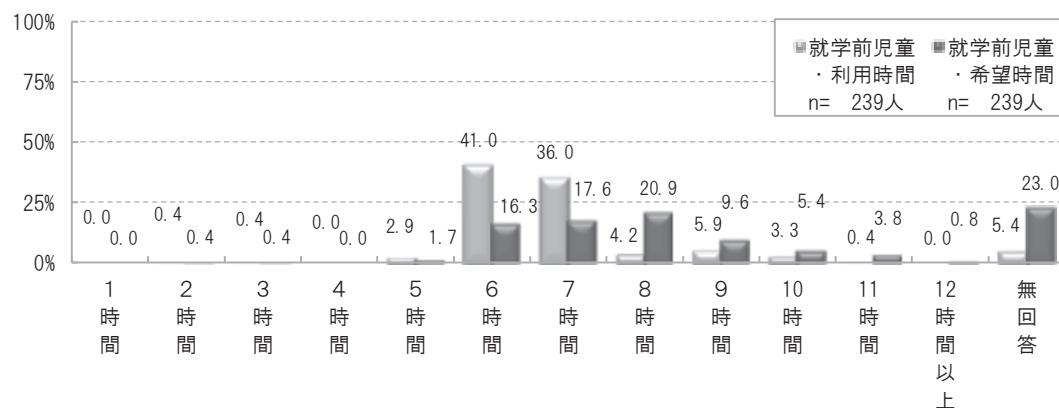
幼稚園の利用日数と希望日数(1週当たり)をみると、利用では「5日」(74.1%)が大半を占め、希望も「5日」(44.8%)が最も多くなっています。

また、利用時間と希望時間(1日当たり)について、利用では「6時間」(41.0%)、「7時間」(36.0%)の順となっています。しかし、実際の利用よりも希望では「8時間」以後が増加していることから、多くの利用者に長時間利用の希望がうかがえます。

問 14-2(1)(2) 幼稚園の利用日数と希望日数(1週当たり)

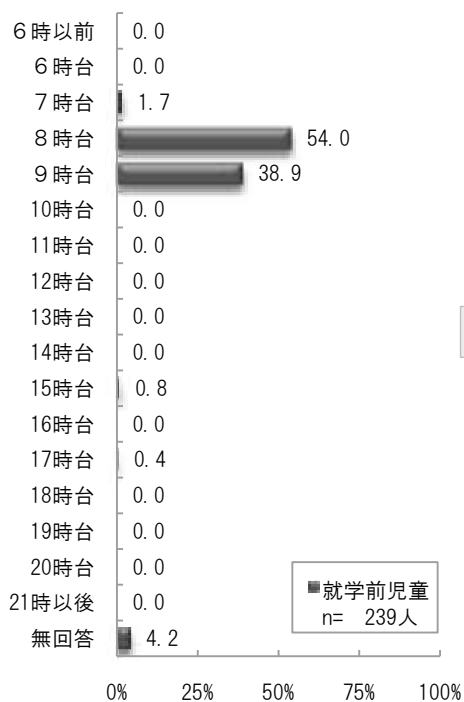


問 14-2(1)(2) 幼稚園の利用時間と希望時間(1日当たり)

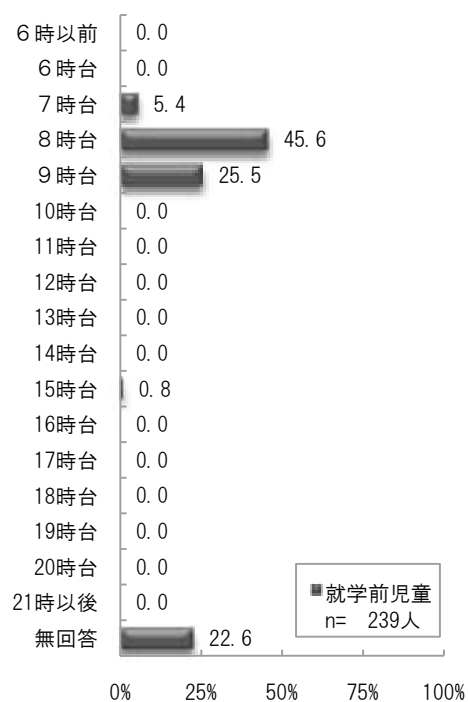


利用開始時間と利用終了時間を見ると、開始時間は「8時台」(54.0%)、「9時台」(38.9%)の順となり、終了時間は「15時台」(69.0%)が7割近く、「17時台」(5.9%)、「18時台」(4.6%)の順となっています。一方、希望終了時間で「16時台」以後が実際の利用よりも増加していることから、多くの利用者に時間延長の希望がうかがえます。

問 14-2(1) 利用開始時間



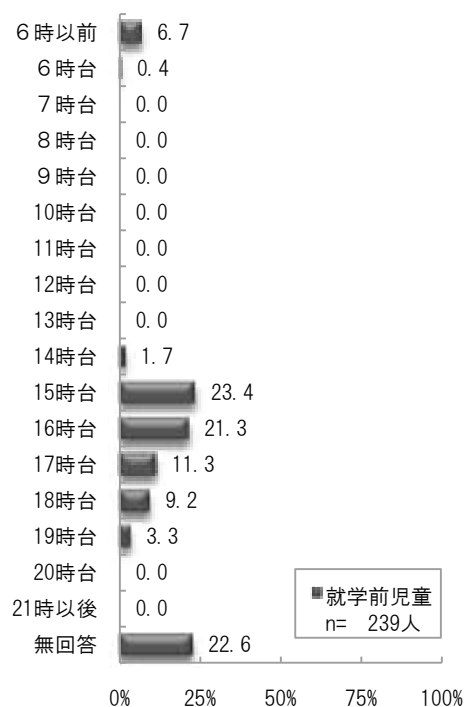
問 14-2(2) 希望開始時間



問 14-2(1) 利用終了時間



問 14-2(2)-4. ① 希望終了時間

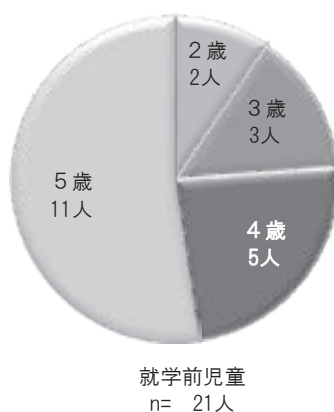


(3) 幼稚園の預かり保育

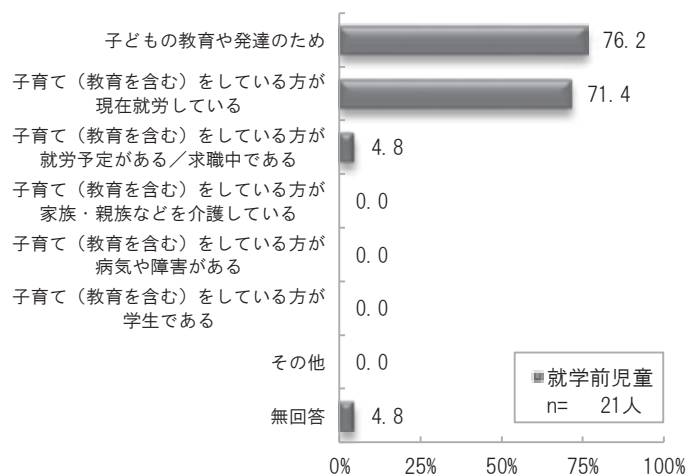
幼稚園の預かり保育の年齢別利用者数をみると、5歳（11人）、4歳（5人）、3歳（3人）、2歳（2人）の順に利用されています。

利用している理由は、「子どもの教育や発達のため」（76.2%）が最も多く、次いで「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」（71.4%）となっています。

問 14-1 幼稚園の預かり保育の年齢別利用者数



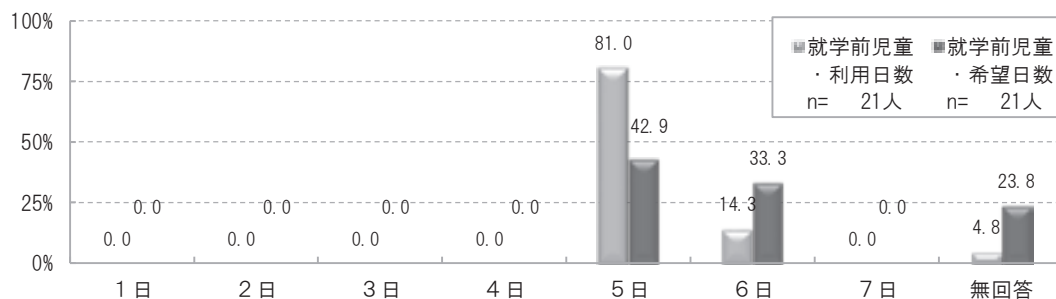
問 14-4 幼稚園の預かり保育を利用している理由



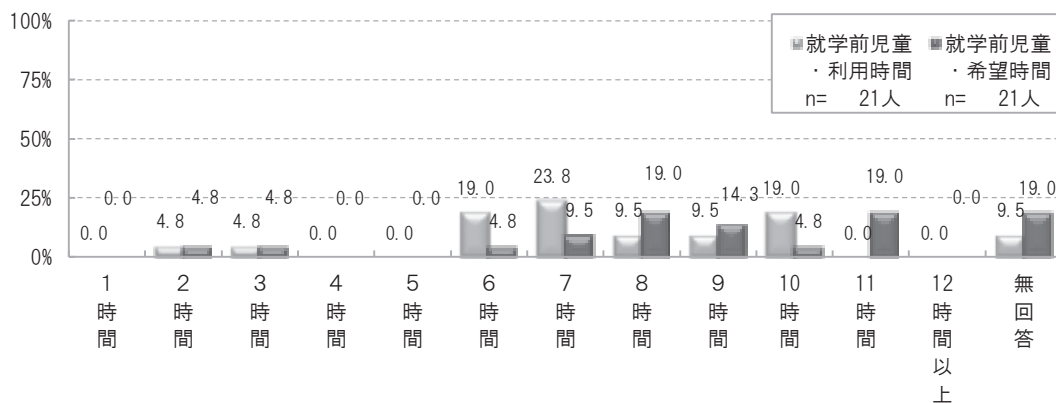
幼稚園の預かり保育の利用日数と希望日数（1週当たり）をみると、利用は「5日」（81.0%）、希望も「5日」（42.9%）が最も多くなっています。

また、利用時間と希望時間（1日当たり）について、利用では「7時間」（23.8%）、「6時間」「10時間」（各19.0%）の順となっています。しかし、実際の利用よりも希望では「8時間」「9時間」「11時間」が増加していることから、多くの利用者に長時間利用の希望がうかがえます。

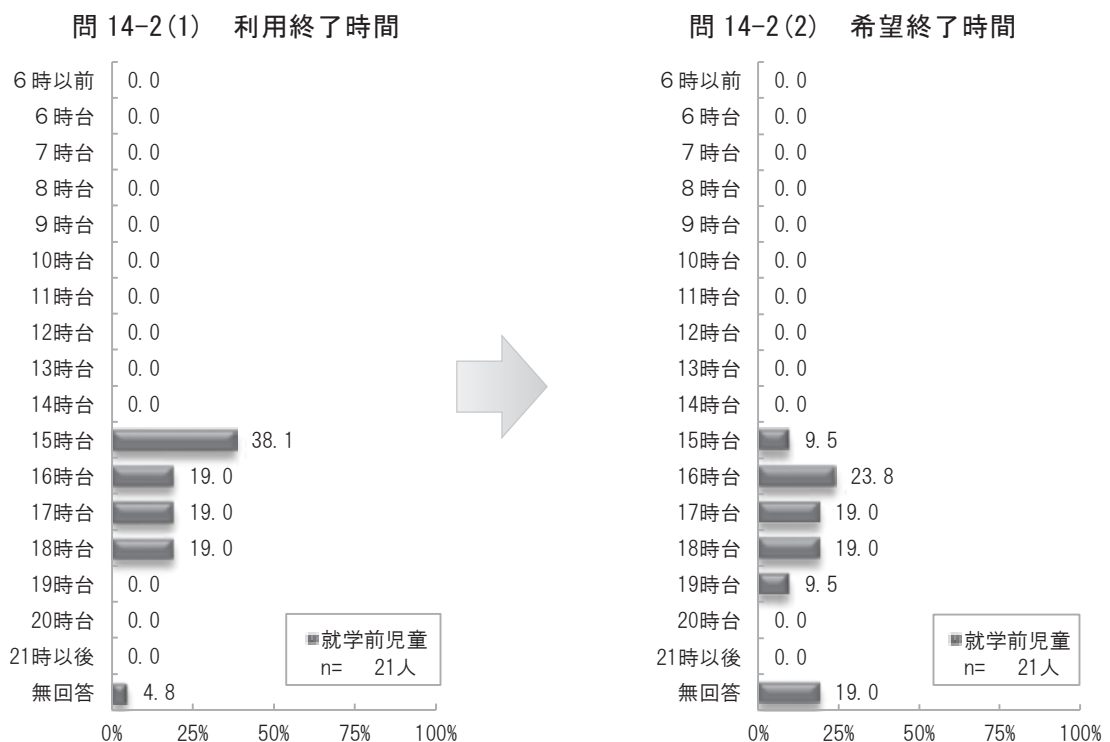
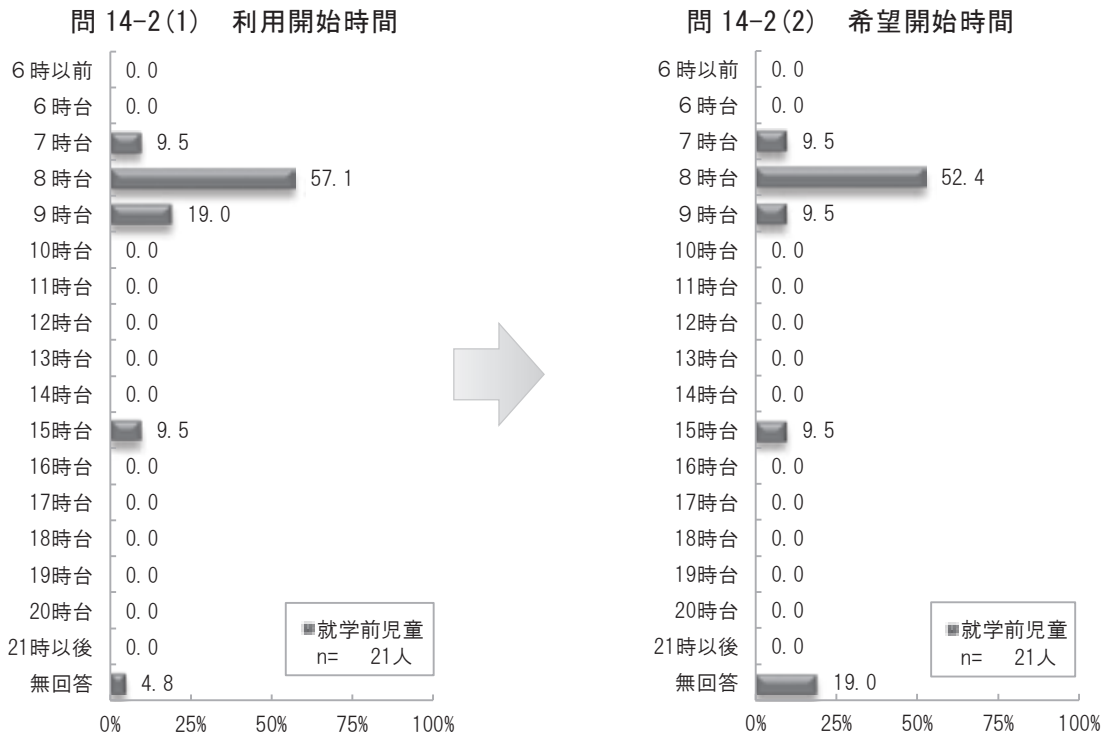
問 14-2(1)(2) 幼稚園の預かり保育の利用日数と希望日数（1週当たり）



問 14-2(1)(2) 幼稚園の預かり保育の利用時間と希望時間（1日当たり）



利用開始時間と利用終了時間を見ると、開始時間は「8時台」(57.1%)、「9時台」(19.0%)の順となり、終了時間は「15時台」(38.1%)、「16時台」～「18時台」(各19.0%)となっています。一方、希望終了時間で「19時台」以後が実際の利用よりもやや増加していることから、利用者に時間延長の希望がうかがえます。

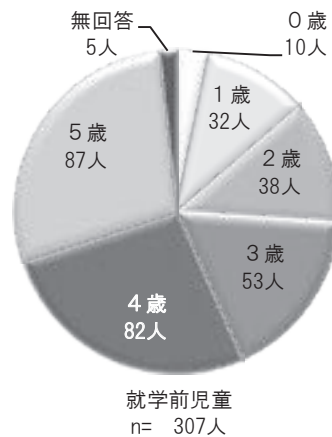


(4) 保育所

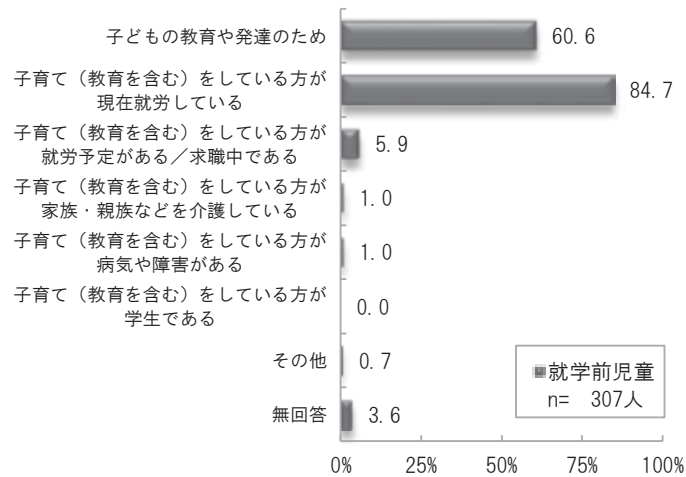
保育所の年齢別利用者数をみると、5歳（87人）、4歳（82人）、3歳（53人）、2歳（38人）、1歳（32人）、0歳（10人）の順に利用されています。

利用している理由は、「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」（84.7%）が最も多く、次いで「子どもの教育や発達のため」（60.6%）となっています。

問 14-1 保育所の年齢別利用者数



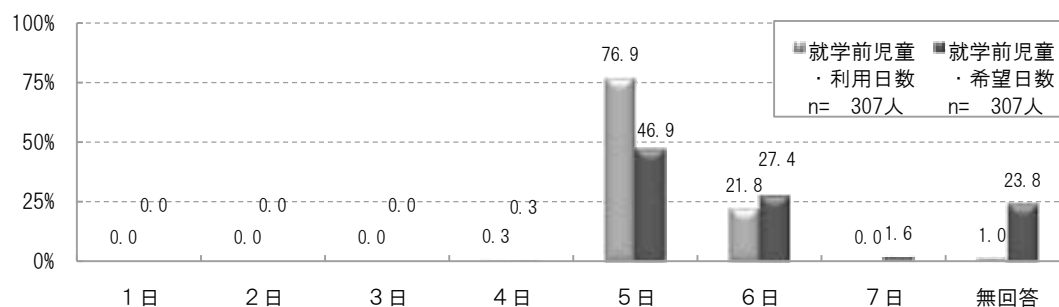
問 14-4 保育所を利用している理由



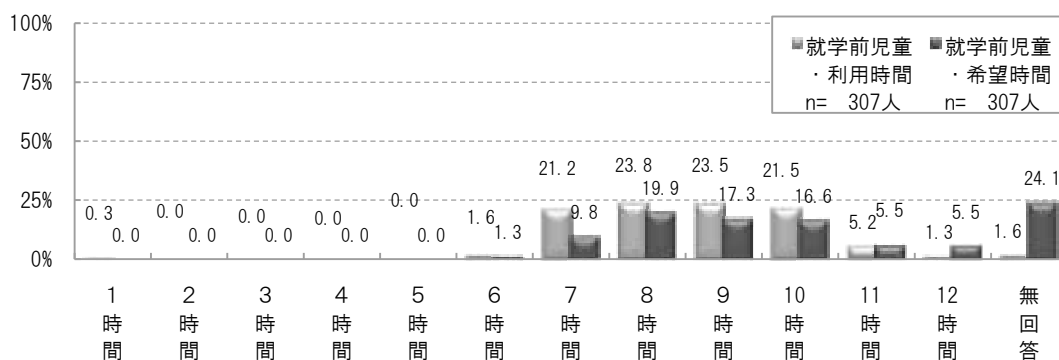
保育所の利用日数と希望日数（1週当たり）をみると、利用では「5日」（76.9%）、希望も「5日」（46.9%）が最も多くなっています。

また、利用時間と希望時間（1日当たり）について、利用では「8時間」（23.8%）、
「9時間」（23.5%）の順となっています。希望では「7時間」～「10時間」が減少していますが、「無回答」が24.1%となっています。

問 14-2(1)(2) 保育所の利用日数と希望日数（1週当たり）

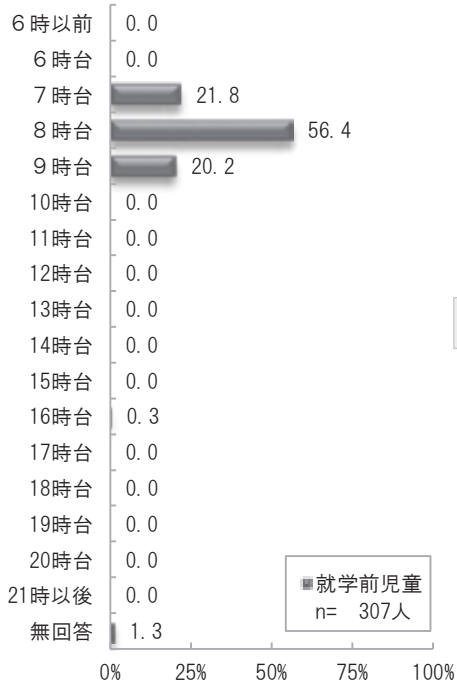


問 14-2(1)(2) 保育所の利用時間と希望時間（1日当たり）

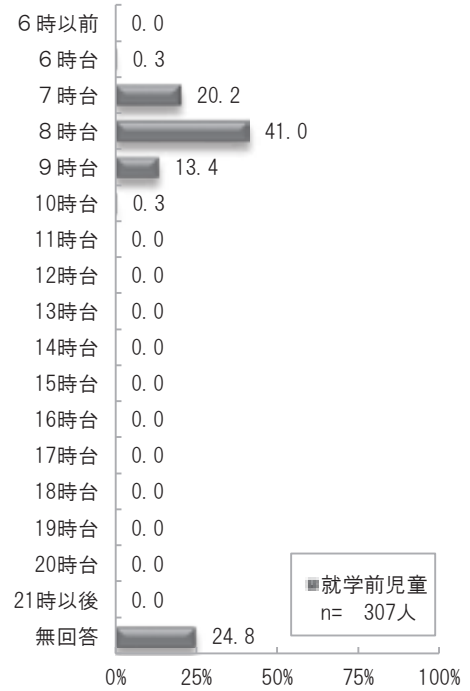


利用開始時間と利用終了時間をみると、開始時間は「8時台」(56.4%)、「7時台」(21.8%)の順となり、終了時間は「17時台」(32.2%)、「16時台」(29.3%)の順となっています。一方、希望終了時間で「19時台」以後が実際の利用よりも増加していることから、一部の利用者に時間延長の希望がうかがえます。

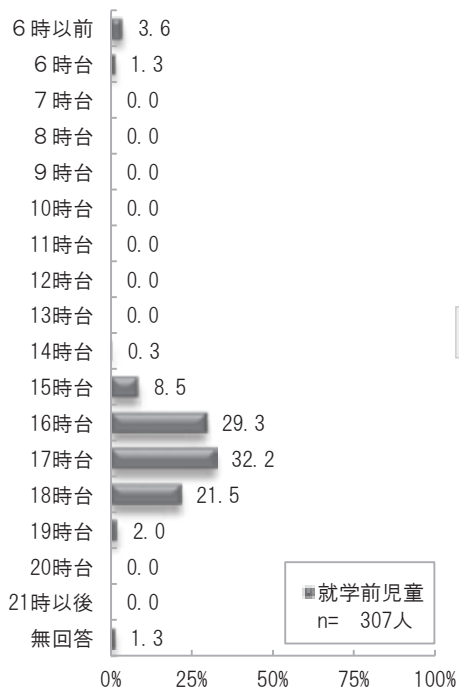
問 14-2(1) 利用開始時間



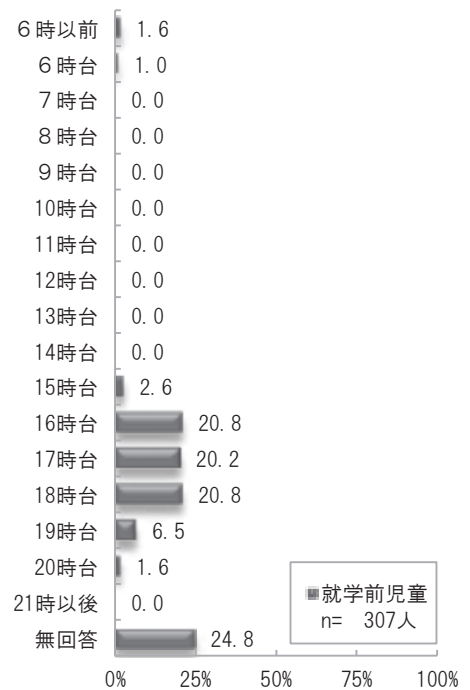
問 14-2(2) 希望開始時間



問 14-2(1) 利用終了時間



問 14-2(2) 希望終了時間

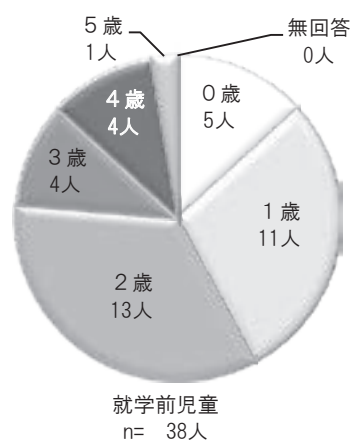


(5) その他認可外保育施設

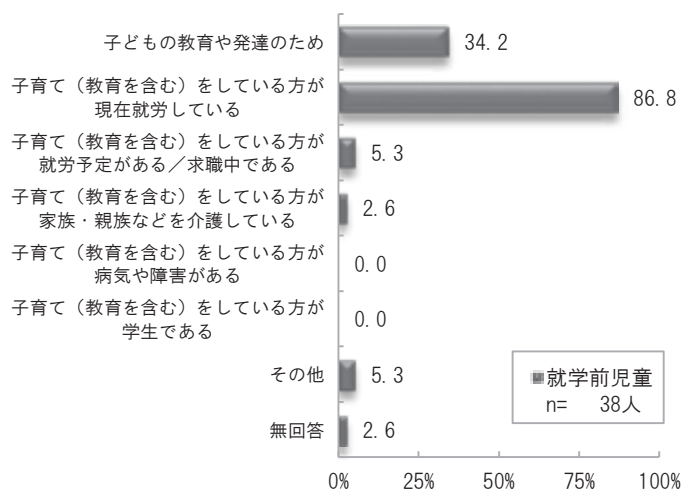
その他認可外保育施設の年齢別利用者数をみると、2歳（13人）、1歳（11人）、0歳（5人）、3・4歳（各4人）、5歳（1人）の順に利用されています。

利用している理由は、「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」（86.8%）が最も多く、次いで「子どもの教育や発達のため」（34.2%）となっています。

問 14-1 その他認可外保育施設の年齢別利用者数



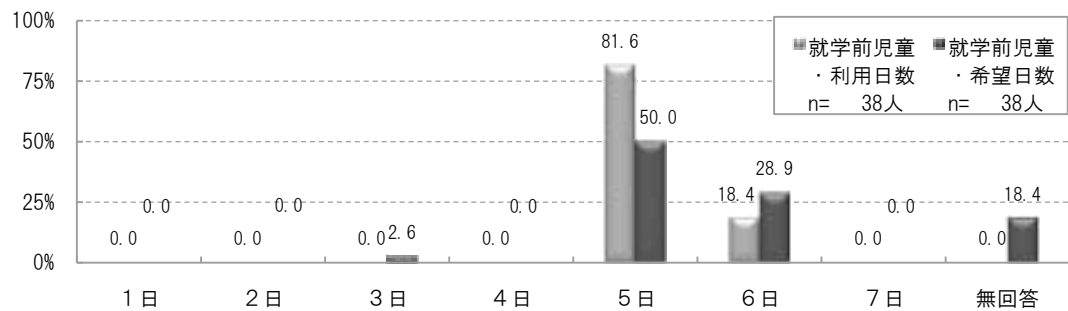
問 14-4 その他認可外保育施設を利用している理由



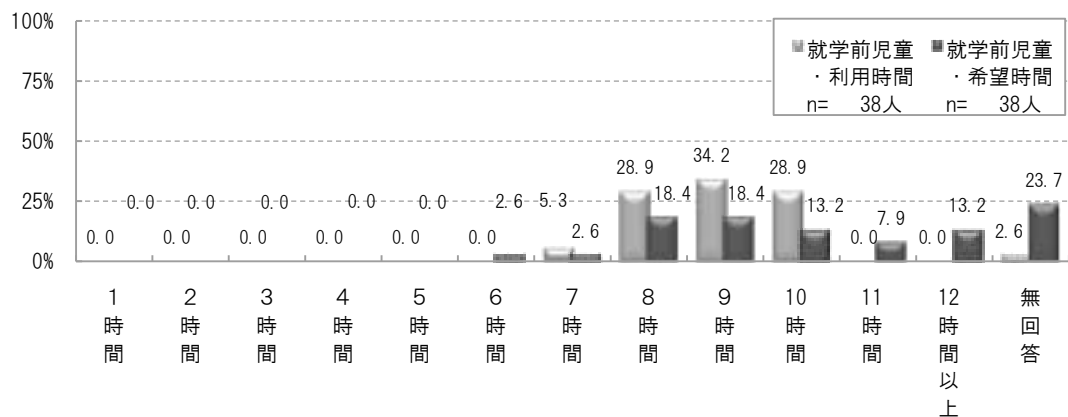
その他認可外保育施設の利用日数と希望日数（1週当たり）をみると、利用では「5日」（81.6%）、希望も「5日」（50.0%）が最も多くなっています。

また、利用時間と希望時間（1日当たり）について、利用では「9時間」（34.2%）、「8時間」「10時間」（各28.9%）の順となっています。希望では「8時間」～「10時間」が減少していますが、「無回答」が23.7%となっています。

問 14-2(1)(2) その他認可外保育施設の利用日数と希望日数（1週当たり）

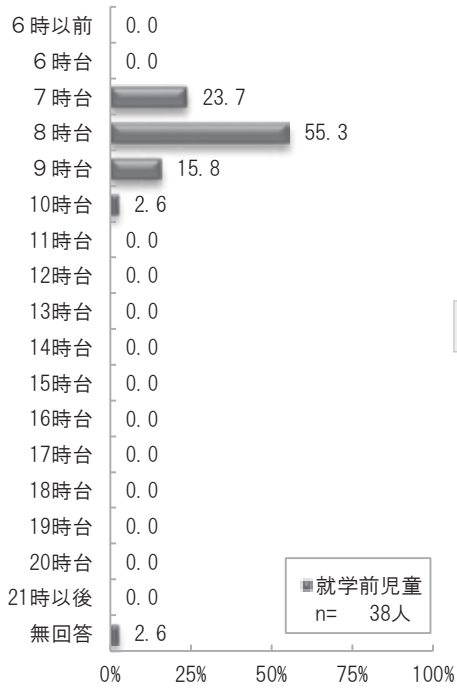


問 14-2(1)(2) その他認可外保育施設の利用時間と希望時間（1日当たり）



利用開始時間と利用終了時間をみると、開始時間は「8時台」(55.3%)、「7時台」(23.7%)、「9時台」(15.8%)の順となり、終了時間は「17時台」(42.1%)、「18時台」(36.8%)、「16時台」(15.8%)となっています。一方、希望終了時間で「19時台」以後が実際の利用時間よりも増加していることから一部の利用者に時間延長の希望がうかがえます。

問 14-2(1) 利用開始時間



問 14-2(2) 希望開始時間



問 14-2(1) 利用終了時間



問 14-2(2) 希望終了時間

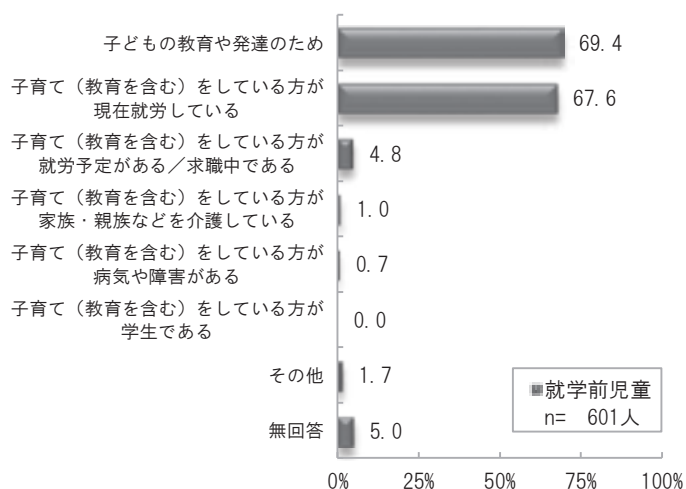


(6) 定期的な教育・保育の利用理由と未利用の理由

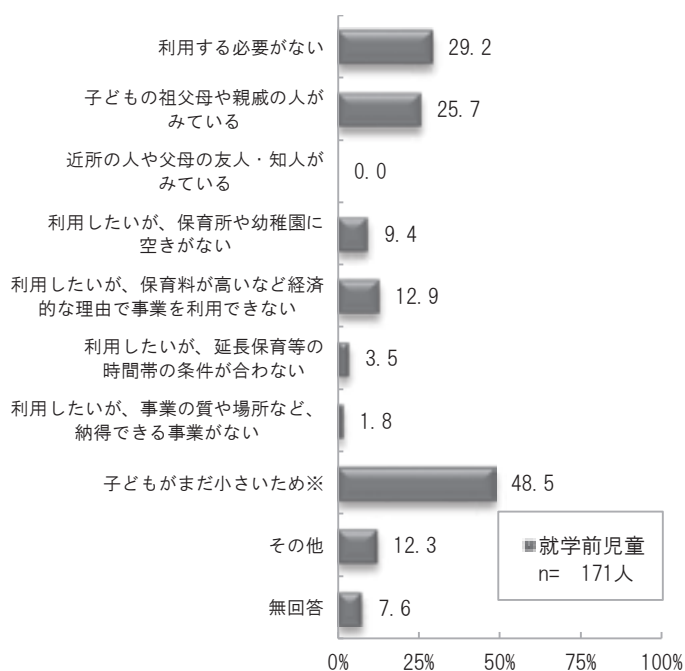
定期的な教育・保育事業を利用している理由をみると、ほとんどが「子どもの教育や発達のため」(69.4%)、「子育てをしている方が現在就労している」(67.6%)、となっています。一方、利用しない理由は、「子どもがまだ小さいため」(48.5%)、「利用する必要がない」(29.2%)となっています。

また、利用を希望する子供の年齢については「0～3歳」(85.5%)、「4～5歳」(14.5%)となっています。

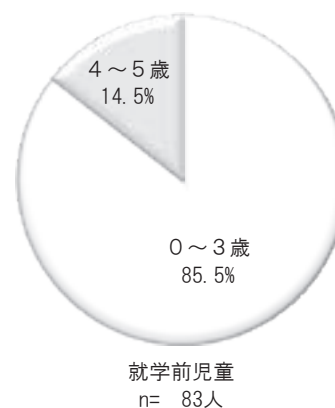
問 14-4 定期的な教育・保育事業を利用している理由



問 14-5 定期的な教育・保育事業を利用しない理由



問 14-5 利用を希望する子供の年齢



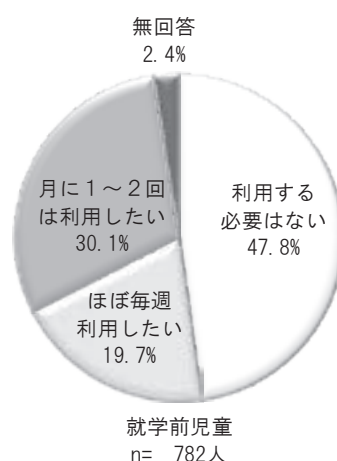
※ (何歳くらいになったら利用しようと考えている)

(7) 休日の教育・保育事業の利用意向

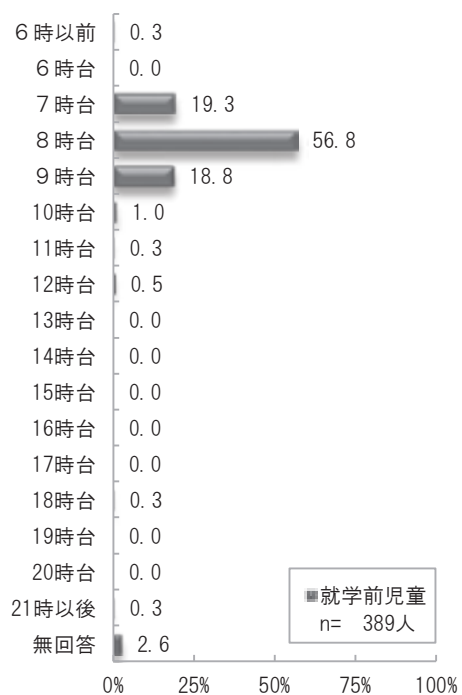
土曜日の利用希望をみると、「ほぼ毎週利用したい」(19.7%)、「月に1～2回は利用したい」(30.1%)で、合わせて49.8%となっています。

また、希望開始時間は「8時台」(56.8%)、「7時台」(19.3%)、「9時台」(18.8%)の順、終了時間は「18時台」(27.0%)、「17時台」(22.9%)、「16時台」(11.1%)の順となっています。

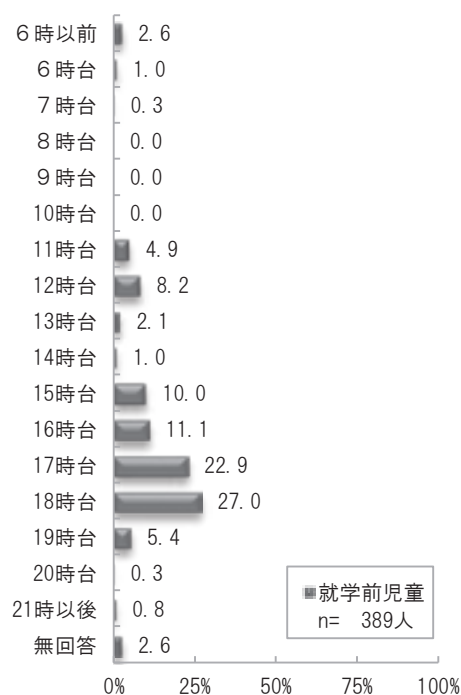
問 19(1) 土曜日の利用希望



問 19(1) 土曜日の利用希望開始時間



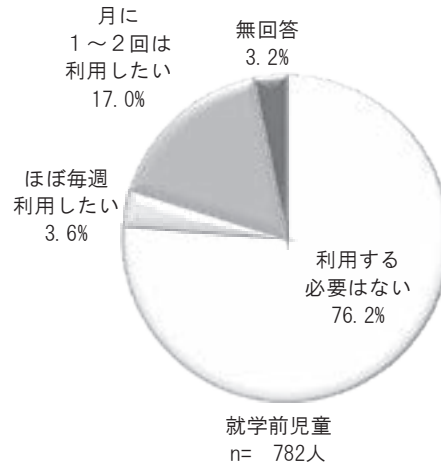
問 19(1) 土曜日の利用希望終了時間



日曜・祝日の利用希望をみると、「月に1～2回は利用したい」(17.0%)、「ほぼ毎週利用したい」(3.6%)で、合わせて20.6%となっています。

また、希望開始時間は「8時台」(57.1%)、「7時台」「9時台」(各18.6%)となり、終了時間は「18時台」(29.8%)、「17時台」(29.2%)、「16時台」(12.4%)の順となっています。

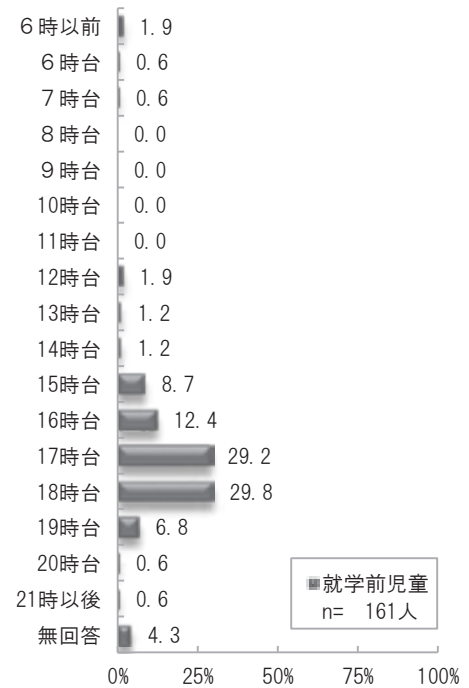
問 19(2) 日曜・祝日の利用希望



問 19(2) 日曜・祝日の利用希望開始時間

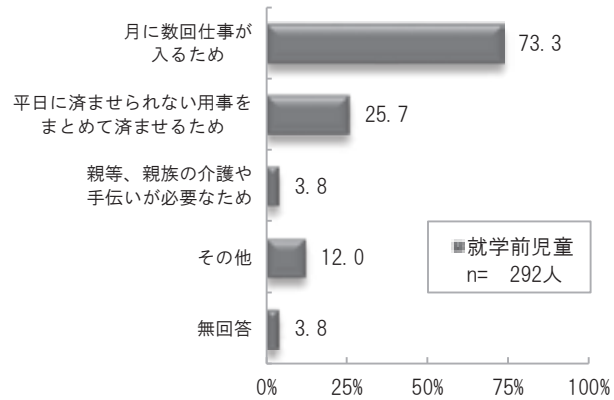


問 19(2) 日曜・祝日の利用希望終了時間



土曜・日曜・祝日において「月に1～2回は利用したい」方の理由をみると、「月に数回仕事が入るため」（73.3%）、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」（25.7%）の順となっています。

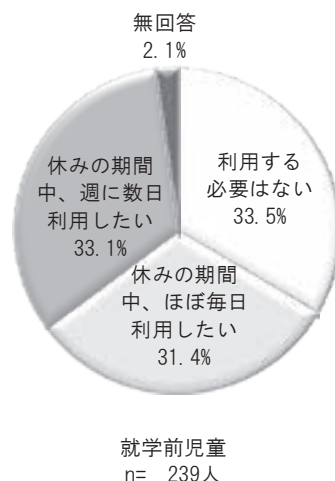
問 19-1 土曜・日曜・祝日「月に1～2回は利用者したい」方の理由



長期休暇中において教育・保育事業の利用希望（幼稚園利用者）をみると、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」（31.4%）、「休みの期間中、週に数日利用したい」（33.1%）で、合わせて64.5%となっています。

また、希望開始時間は「8時台」（54.5%）、「9時台」（32.5%）で、終了時間は「15時台」（31.8%）、「17時台」（18.8%）の順となっています。

問 20 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望（幼稚園利用者）



問 20 長期休暇中の希望開始時間

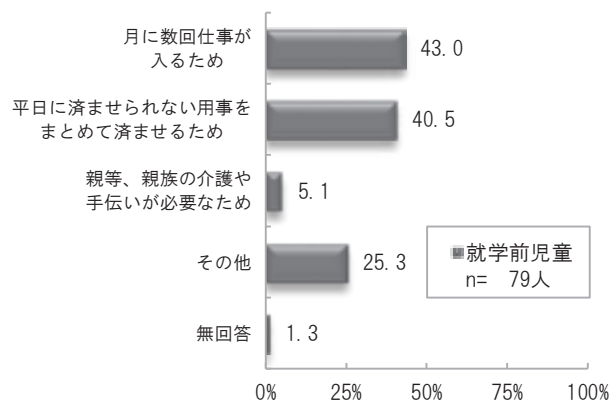


問 20 長期休暇中の希望終了時間



長期休暇中において「週に数日利用したい」方の理由をみると、「月に数回仕事が入るため」（43.0%）、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」（40.5%）の順に多くなっています。

問 20-1 長期休暇中「週に数日利用したい」方の理由



(8) 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ

病気やケガで通常の教育・保育事業が利用できなかったことの有無をみると、「あった」(78.7%)が約8割となっています。その際の対処方法は、「母親が休んだ」(50.1%)、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」(40.0%)、「父親・母親のうち就労していない方が子どもをみた」(16.3%)の順となっています。

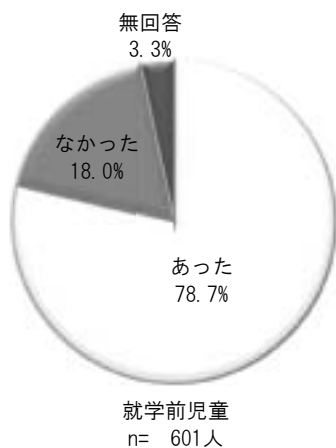
父親が休んだ日数は「1日」(38.4%)、「2日」(21.9%)、「3日」(15.1%)、母親が休んだ日数は「5日」(16.9%)、「1日」(16.0%)、「3日」「10日」(各13.1%)の順となっています。

(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった日数は「5日」(21.2%)、「2日」(13.8%)、父親・母親のうち就労していない方が子どもをみた日数は「5日」(18.2%)、「10日」(11.7%)の順となっています。

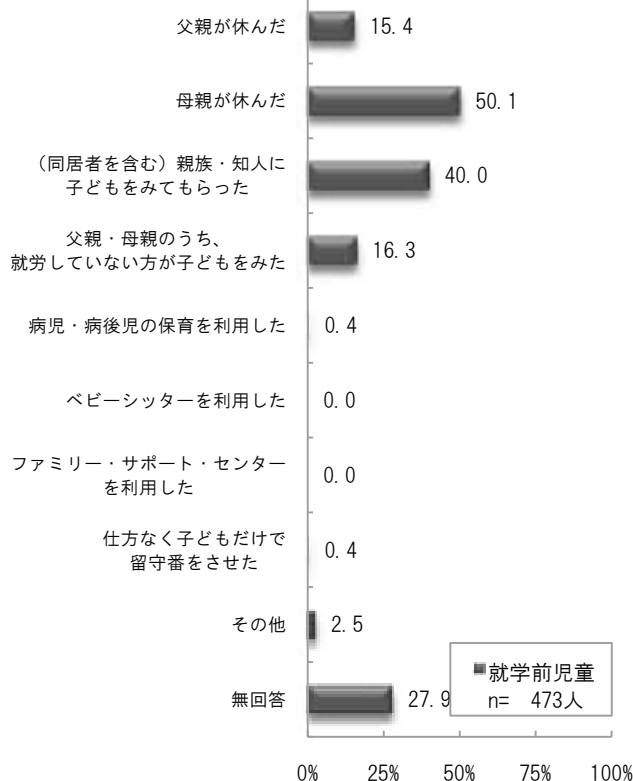
病児・病後児の保育を利用した日数は、該当者は2人だけで「5日」「6日」のみ、ベビーシッターとファミリー・サポート・センターでは該当者がいませんでした。

また、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」という回答もありました。

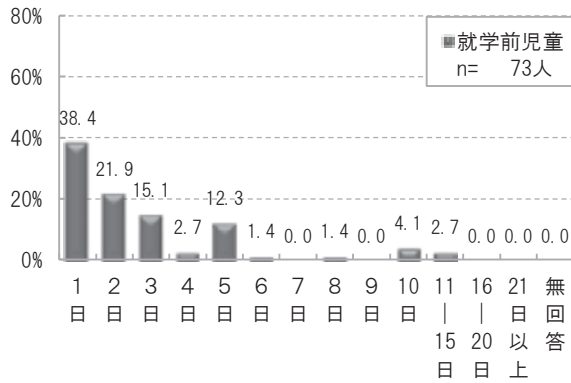
問 21 病気やケガで、通常の事業が利用できなかったことの有無



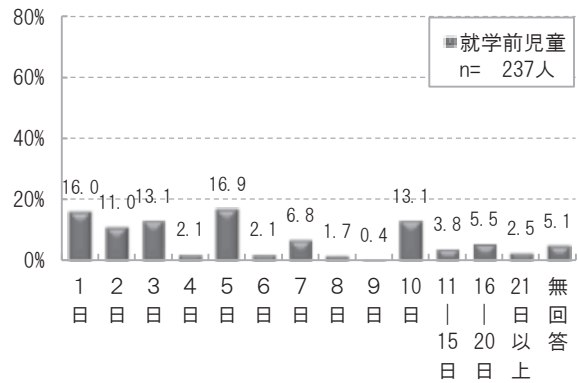
問 21-1 この1年間の対処方法



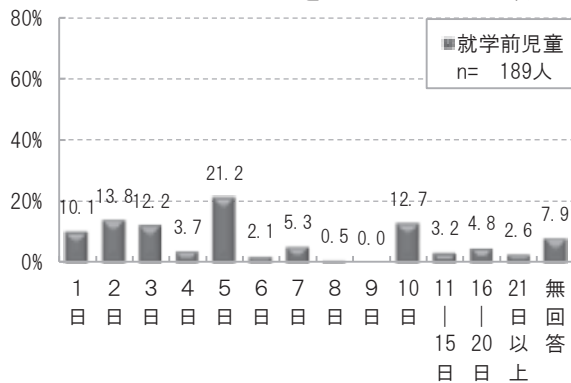
問 21-1.1 父親が休んだ日数



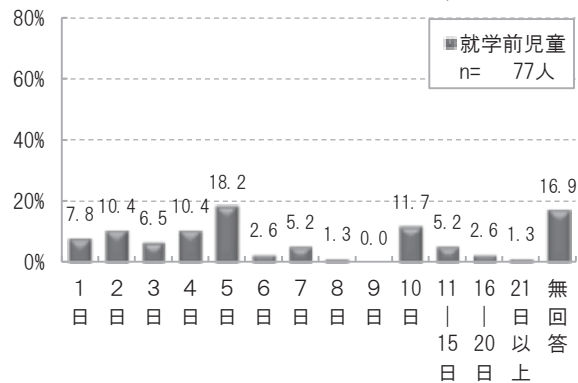
問 21-1.2 母親が休んだ日数



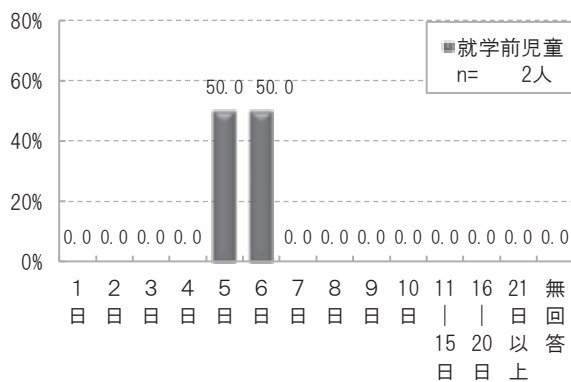
問 21-1.3 (同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった日数



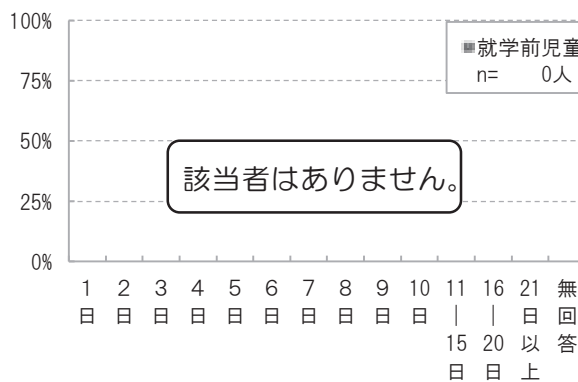
問 21-1.4 父親・母親のうち、就労していない方がみた日数



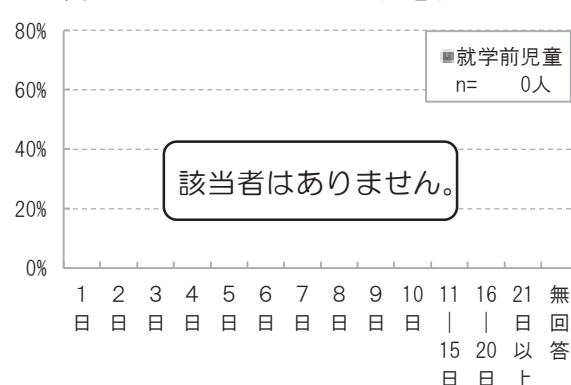
問 21-1.5 病児・病後児保育を利用した日数



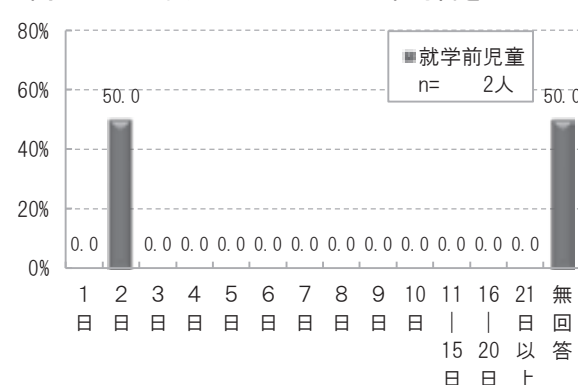
問 21-1.6 ベビーシッターを利用した日数



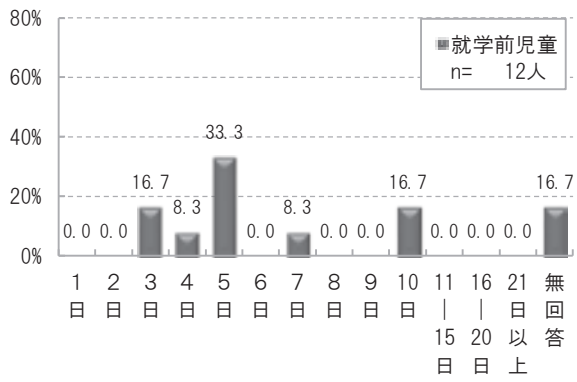
問 21-1.7 ファミリー・ヘルプセンターを利用した日数



問 21-1.8 仕方なく子どもだけで留守番をさせた日数



問 21-1.9 その他



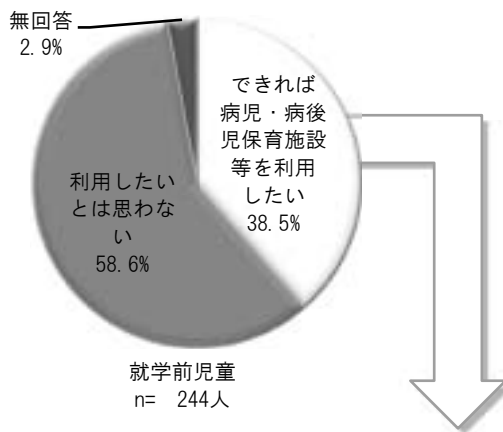
父親・母親が休んだ方の病児・病後児保育施設の利用意向をみると、38.5%の方が利用を希望し、その利用日数は「3日」(17.0%)、「2日」(14.9%)の順となっています。

また、子どもを預ける場合の望ましい事業形態は、「保育所や幼稚園等に併設した施設」が最も多くなっています。

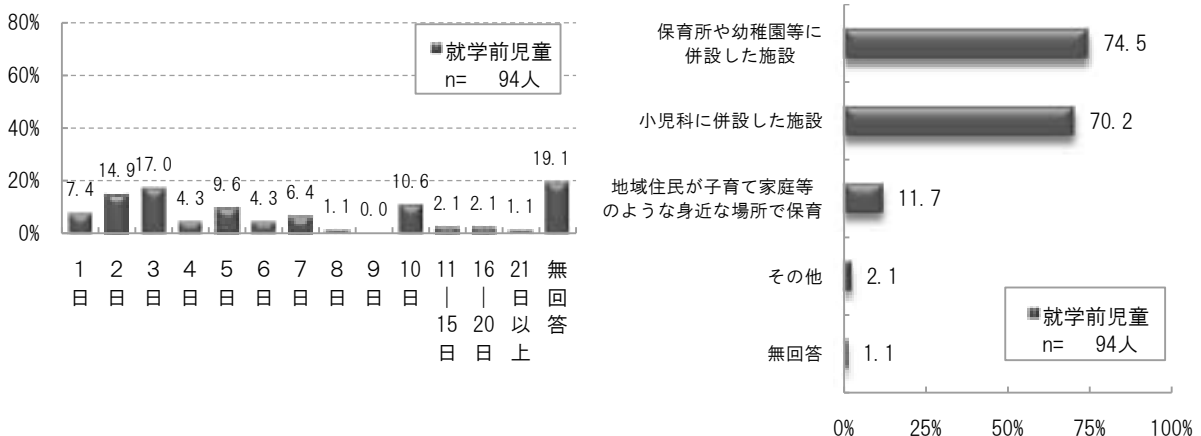
一方、利用意向のない方の理由は、「親が仕事を休んで対応する」(58.0%)、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」(56.6%)、「利用料がかかる」(32.9%)の順となっています。

父母が休む以外の対処方法を選んだ方についても、「できれば仕事を休んで看たい」という回答は、4割を超えています。一方、「仕事を休んで看ることは非常に難しい」の理由は、「子どもの看護を理由に休みが取れない」(48.5%)が最も多くなっています。

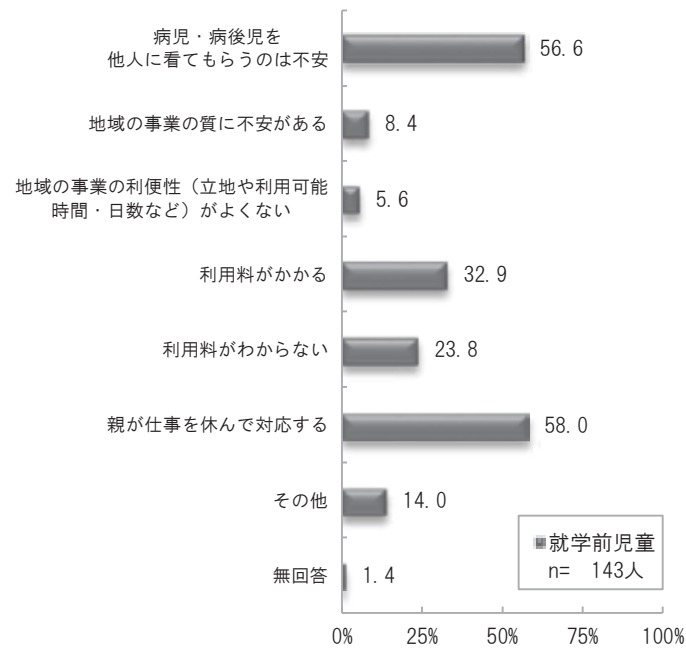
問 21-2 父親・母親が休んだ方の病児・病後児保育施設利用意向



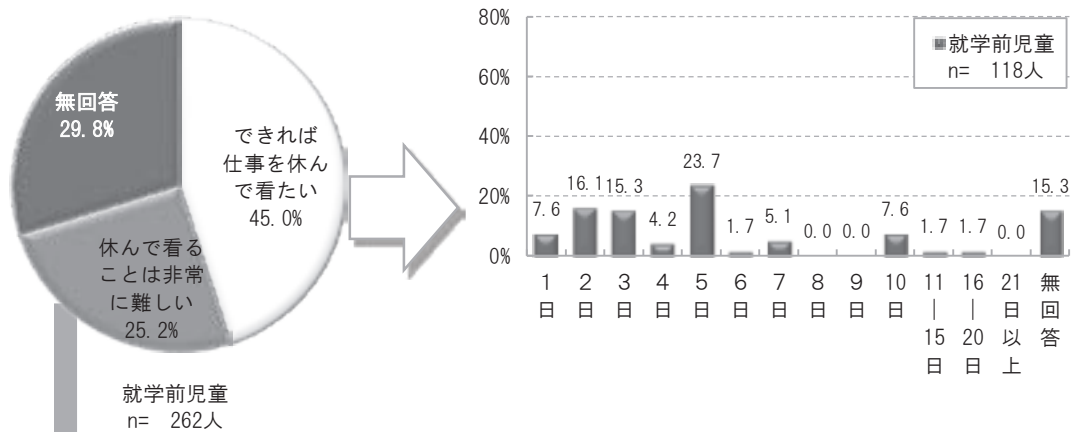
問 21-3 子どもを預ける場合の望ましい希望日数（年間）と事業形態



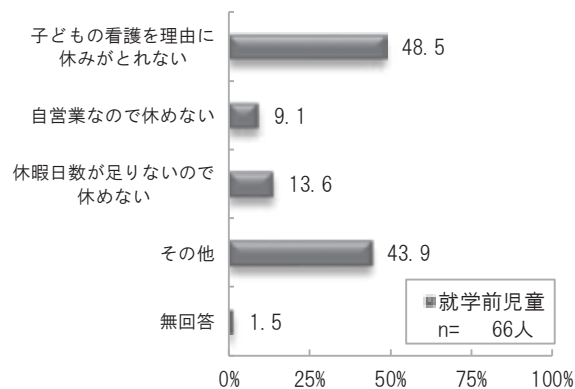
問 21-4 病児・病後児のための保育施設利用意向のない方の理由



問 21-5 父母が休む以外の対処方法を選んだ方の「父母が休んで看たい」意向と希望日数



問 21-6 「仕事を休んで看することは非常に難しい」の理由



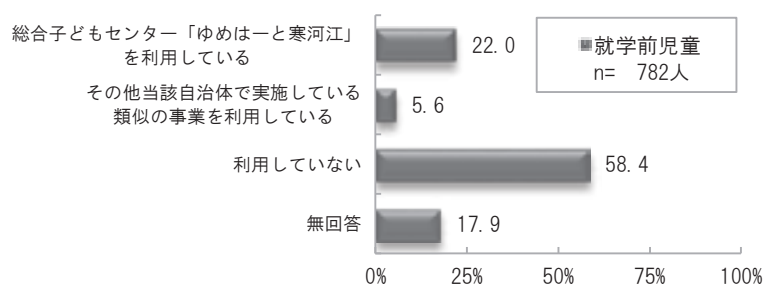
2 地域の子育て支援事業の現状と今後の利用意向

(1) 地域子育て支援拠点事業の利用について

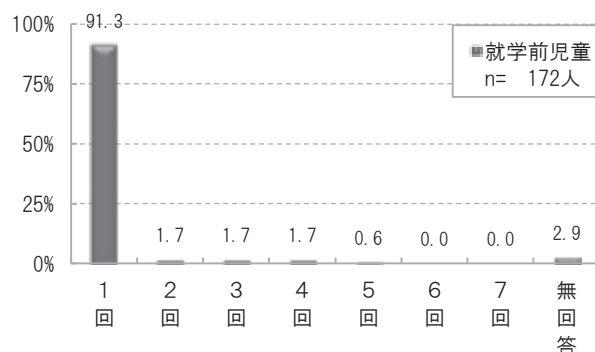
「ゆめはーと寒河江」の利用状況をみると、22.0%で、その他当該自治体で実施している類似の事業を利用している方は5.6%となっています。

1週当たりの利用回数は、「ゆめはーと寒河江」では、「1回」(91.3%)が大多数を占めています。その他当該自治体で実施している類似の事業も同様に、「1回」(90.9%)となっています。

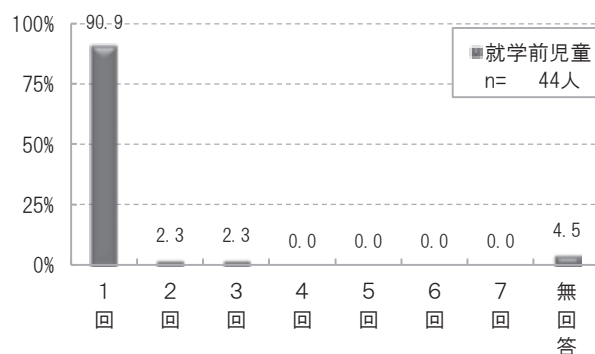
問 16 地域子育て支援拠点事業の利用状況



問 16 地域子育て支援拠点事業の利用回数（1週当たり）



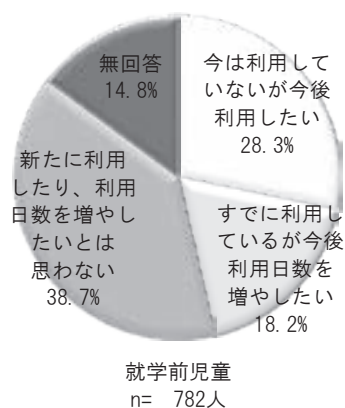
問 16 その他類似事業の利用回数（1週当たり）



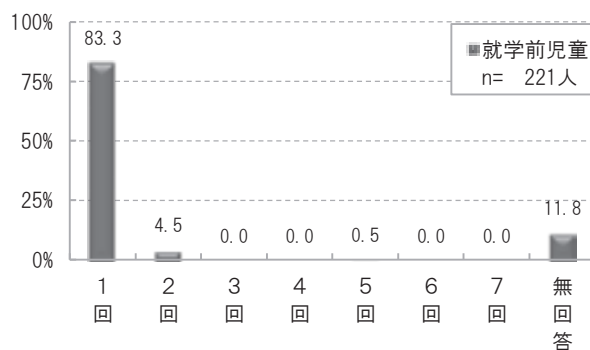
未利用者は、「今は利用していないが今後利用したい」（28.3%）、利用者は「すでに利用しているが今後利用日数を増やしたい」（18.2%）となり、利用に関する希望はやや増加している様子がうかがえます。

未利用者の希望利用回数（1週当たり）は、「1回」（83.3%）が大多数を占めています。また、既利用者の増やしたい利用回数（1週当たり）は、「1回」（78.9%）、「2回」（9.2%）の順となっています。

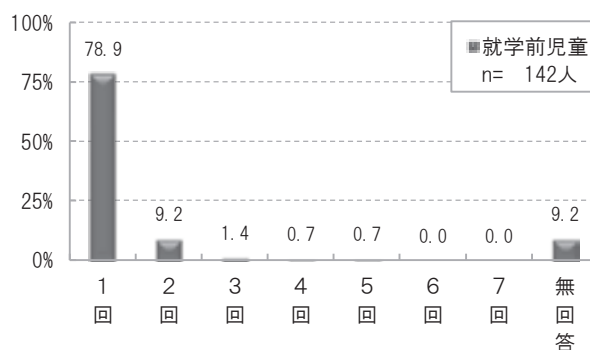
問 17 未利用者・利用者の利用及び利用回数増加希望



問 17 未利用者の希望利用回数（1週当たり）



問 17 既利用者の増やしたい利用回数（1週当たり）

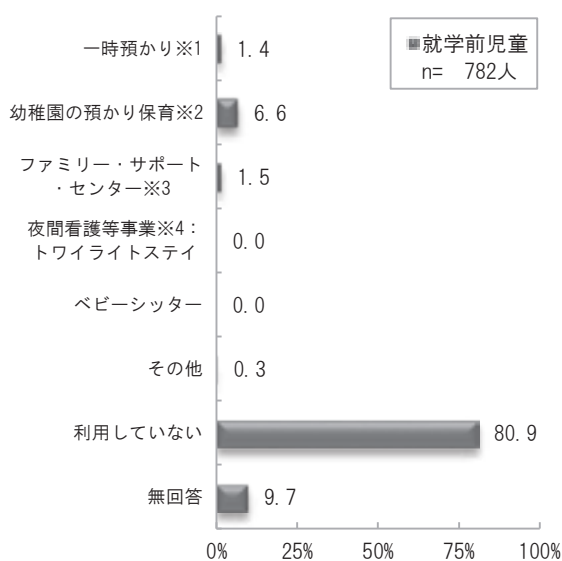


(2) 不定期の一時保育の利用について

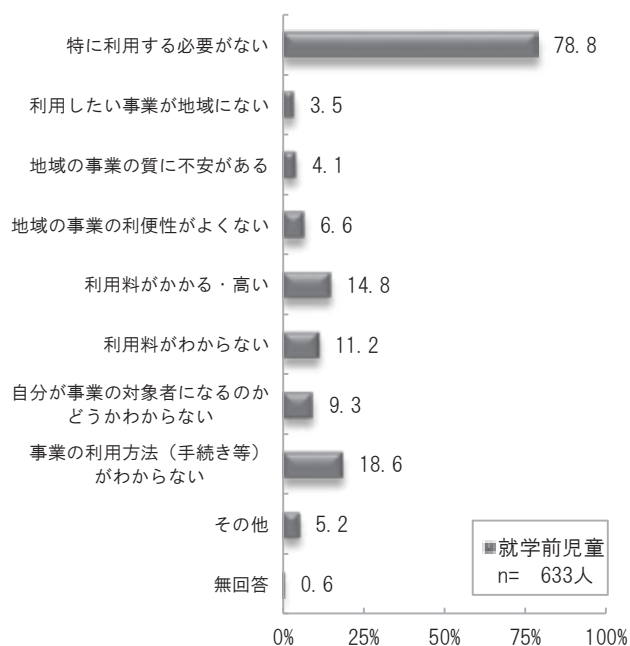
一時保育の利用状況を見ると、「一時預かり」(1.4%)、「幼稚園の預かり保育」(6.6%)をはじめ、あまり利用がない状況です。

利用していない理由は、「特に利用する必要がない」(78.8%)、「事業の利用方法(手続き等)がわからない」(18.6%)、「利用料がかかる・高い」(14.8%)の順となっています。

問 22 一時保育事業の利用状況



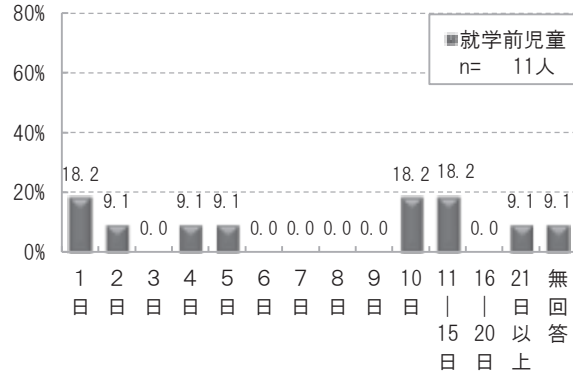
問 22-1 一時保育を利用していない理由



- ※1 一時預かり：私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業
- ※2 幼稚園の預かり保育：通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ
- ※3 ファミリー・サポート・センター：地域住民が子どもを預かる事業
- ※4 夜間看護等事業：児童養護施設等で休日・夜間、子どもを保護する事業

事業別に利用日数をみると、一時預かりは、年間「1日」「10日」「11-15日」(各18.2%)が多くなっています。

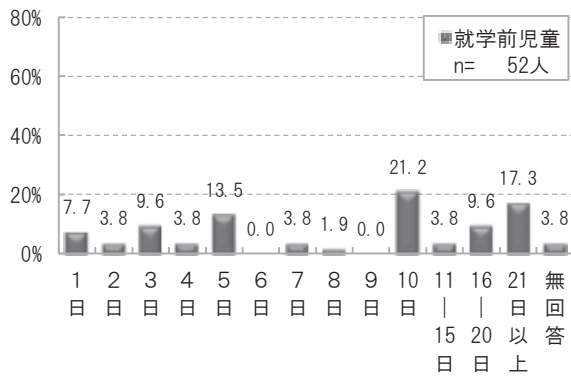
問 22.1 一時預かり (年間)



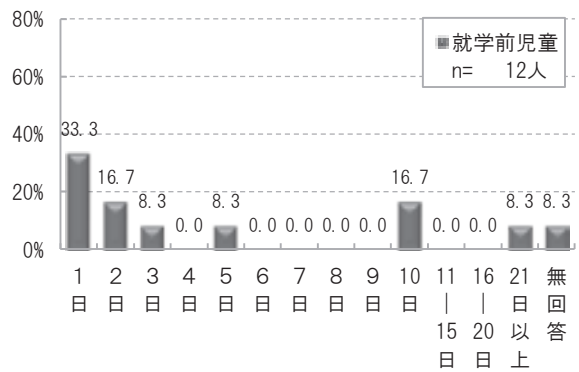
幼稚園の預かり保育は、年間「10日」(21.2%)、「21日以上」(17.3%)の順、ファミリー・サポート・センターは、「1日」(33.3%)、「2日」「10日」(16.7%)の順に多くなっています。

夜間養護等事業(トワイライトステイ)とベビーシッターは、利用者がいませんでした。

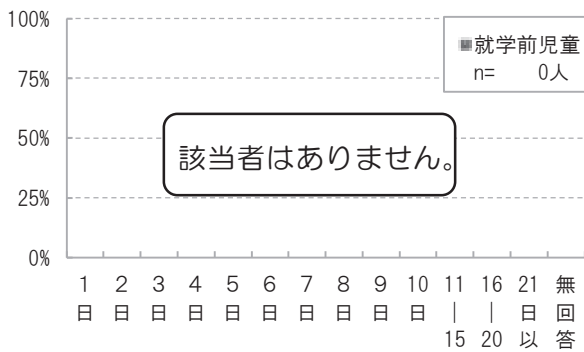
問 22.2 幼稚園の預かり保育 (年間)



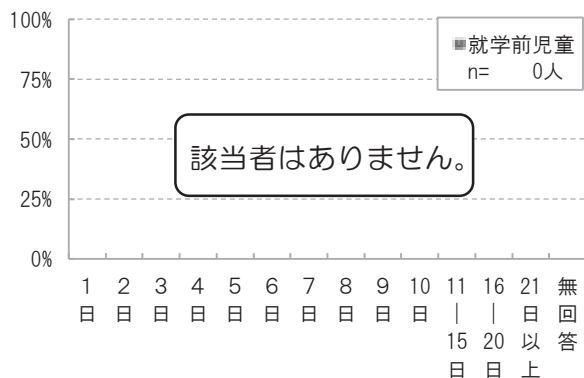
問 22.3 ファミリー・サポート・センター (年間)



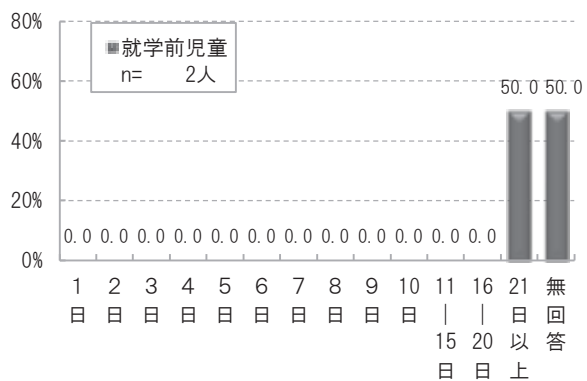
問 22.4 夜間養護等事業 (年間)



問 22.5 ベビーシッター (年間)



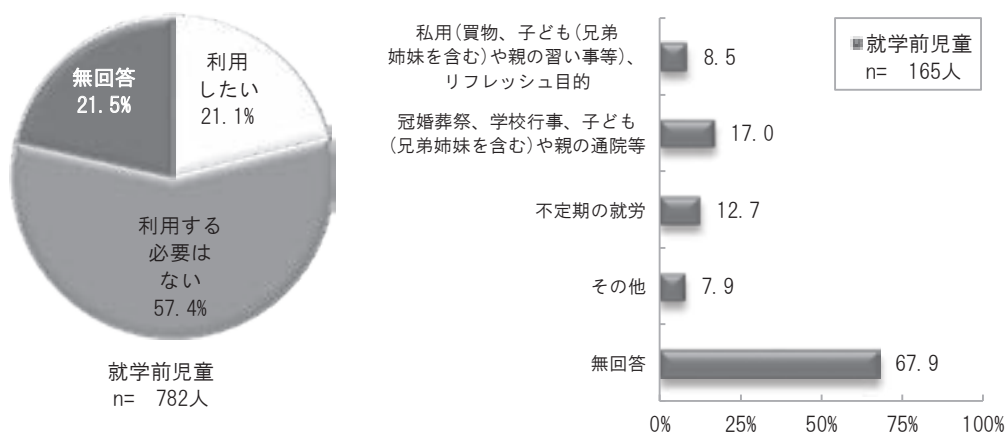
問 22.6 その他 (年間)



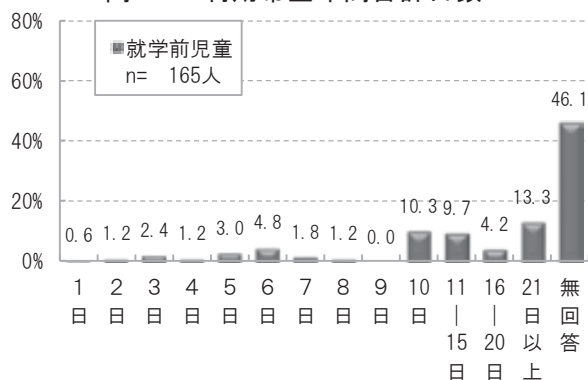
一時保育事業の利用希望とその目的をみると、「利用する必要はない」(57.4%)、「利用したい」(21.1%)となっています。利用したい方の利用目的は、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」(17.0%)、「不定期の就労」(12.7%)、「私用、リフレッシュ目的」(8.5%)の順となっています。

また、利用希望年間合計日数は、「21日以上」(13.3%)が最も多く、次いで「10日」(10.3%)となっています。

問 23 一時保育事業の利用希望とその目的



問 23.1 利用希望年間合計日数

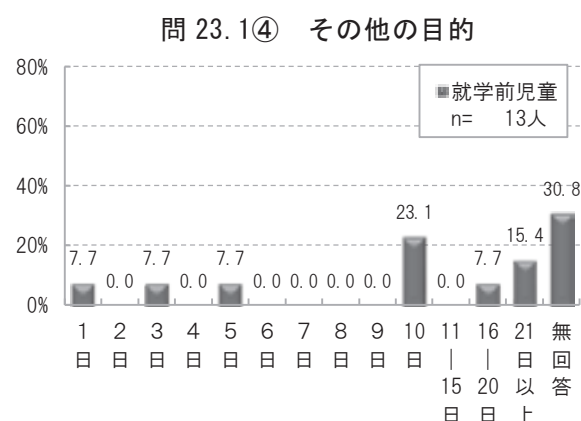
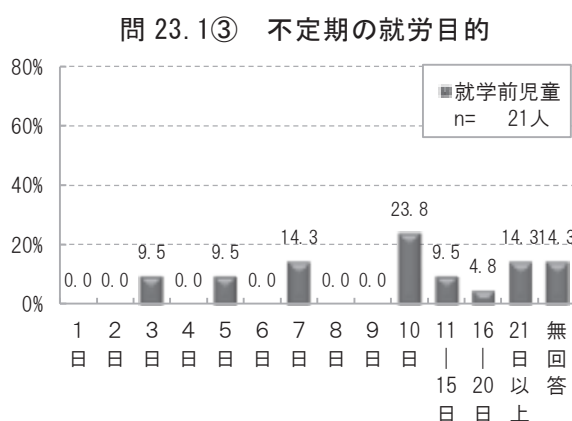
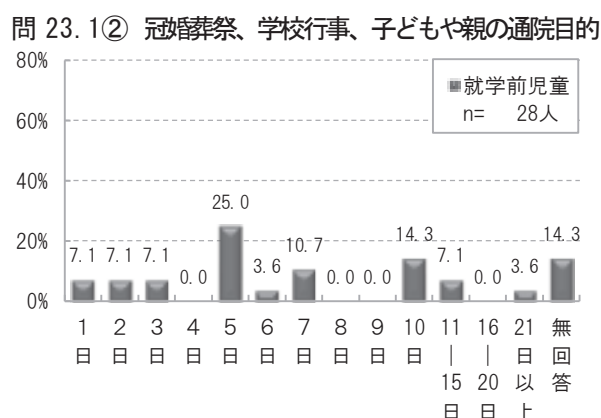
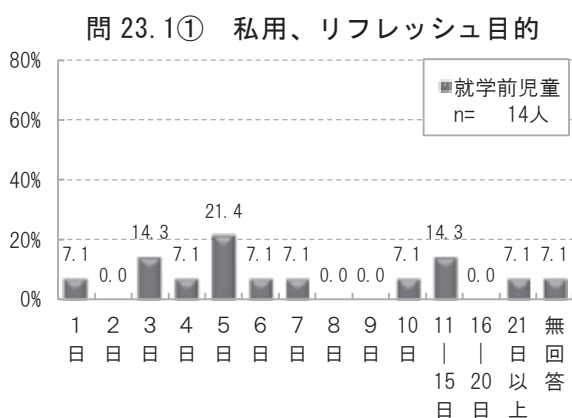


目的ごとの希望利用日数をみると、私用・リフレッシュ目的は、年間「5日」(21.4%)、「3日」「11-15日」(各14.3%)の順となっています。

冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院目的は、「5日」(25.0%)、「10日」(14.3%)の順となっています。

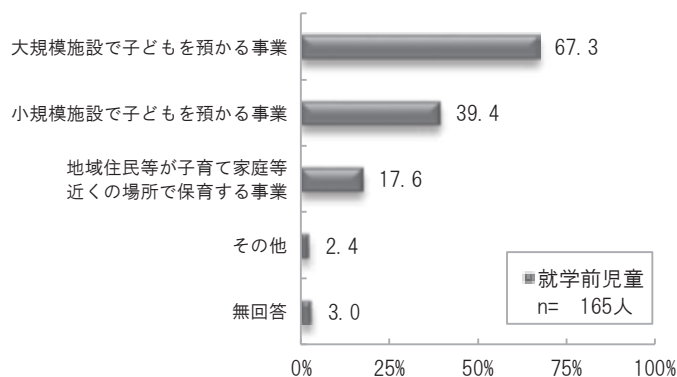
不定期の就労目的は、「10日」(23.8%)、「7日」「21日以上」(各14.3%)の順となっています。

その他の目的は、「10日」(23.1%)、「21日以上」(15.4%)と回答しています。



子どもを預ける場合の望ましい事業形態は、「大規模施設で子どもを預かる事業」(67.3%)、「小規模施設で子どもを預かる事業」(39.4%)、「地域住民等が子育て家庭等近くの場所で保育する事業」(17.6%)の順となっています。

問 23-1 子どもを預ける場合の望ましい事業形態

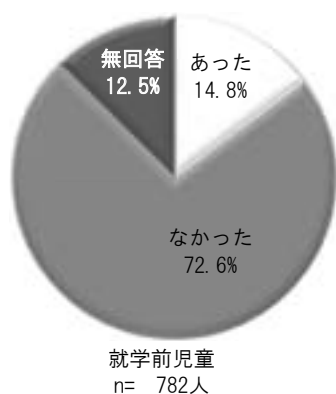


(3) 宿泊を伴う一時保育の利用について

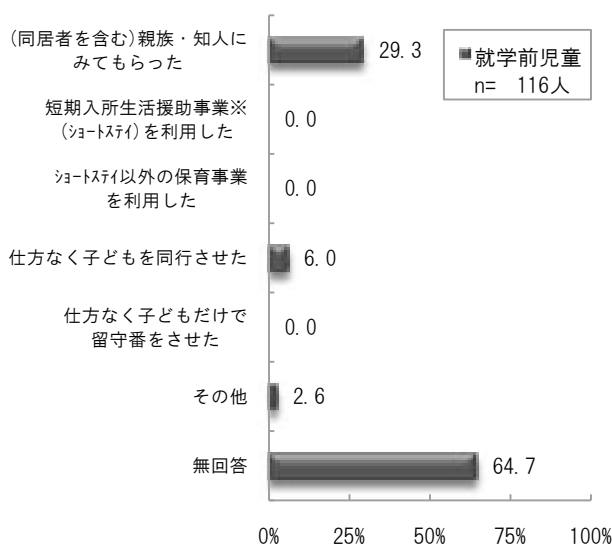
この1年間に保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に預けたことの有無をみると、該当者は14.8%となっています。

この対処方法は、「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」(29.3%)が最も多くなっています。また、親族・知人にみてもらった場合の困難度は、「特に困難ではない」(38.2%)、「どちらかという困難」(32.4%)、「非常に困難」(23.5%)となっています。

問 24 この1年間に保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に預けたことの有無

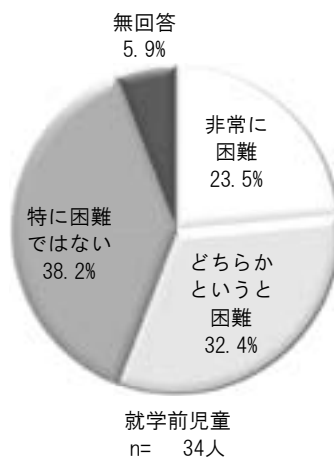


問 24 1年間の対処方法



※短期入所生活援助事業：児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業

問 24-1 親族・知人にみてもらった場合の困難度

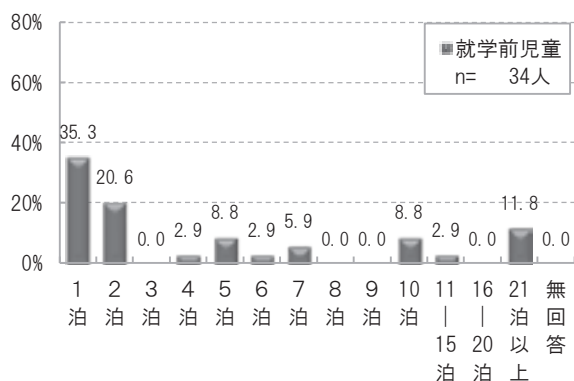


(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった泊数は、「1泊」(35.3%)、「2泊」(20.6%)の順となっています。

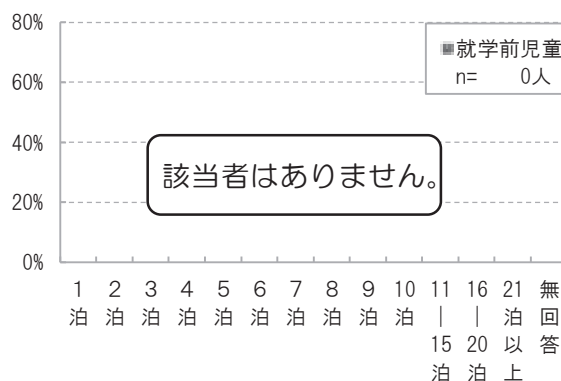
ショートステイ、ショートステイ以外の保育事業を利用した方はいませんでした。仕方なく子どもを同行させた方は7人で、泊数は、「1泊」「3泊」(各28.6%)、「2泊」「21泊以上」(各14.3%)となっています。

また、仕方なく子どもだけで留守番をさせた方もいませんでした。

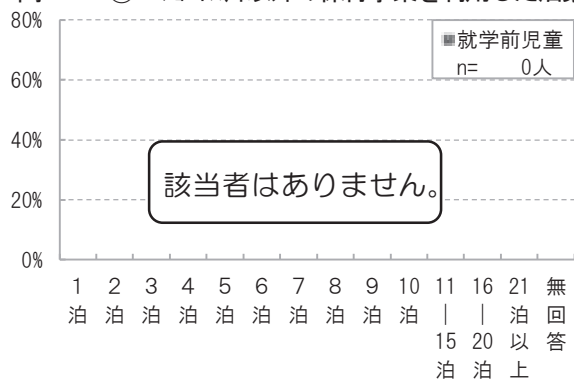
問 24.1① (同居者を含む) 親族・知人にみてもらった泊数



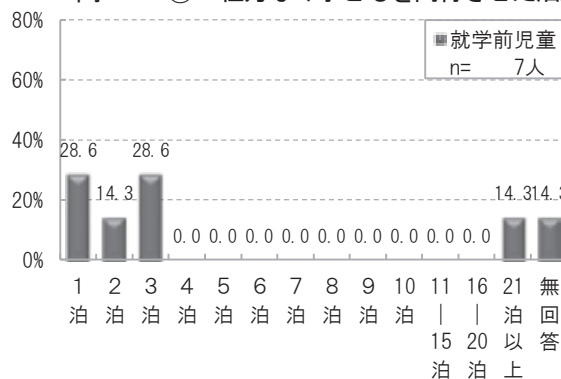
問 24.1② ショートステイを利用した泊数



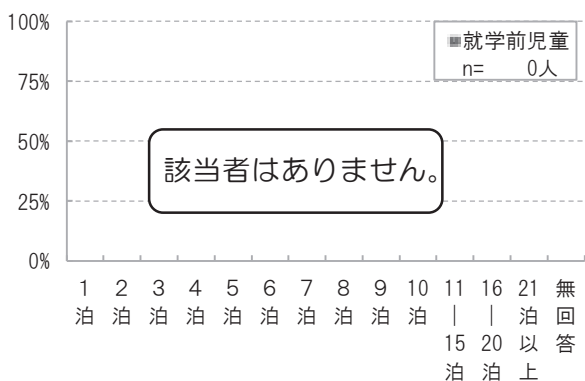
問 24.1③ ショートステイ以外の保育事業を利用した泊数



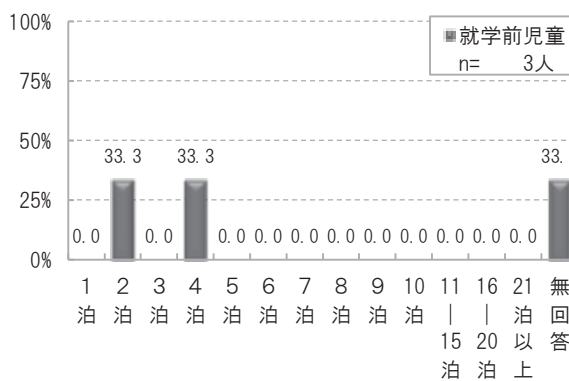
問 24.1④ 仕方なく子どもを同行させた泊数



問 24.1⑤ 仕方なく子どもだけで留守番をさせた泊数



問 24.1⑥ その他の対処をした泊数



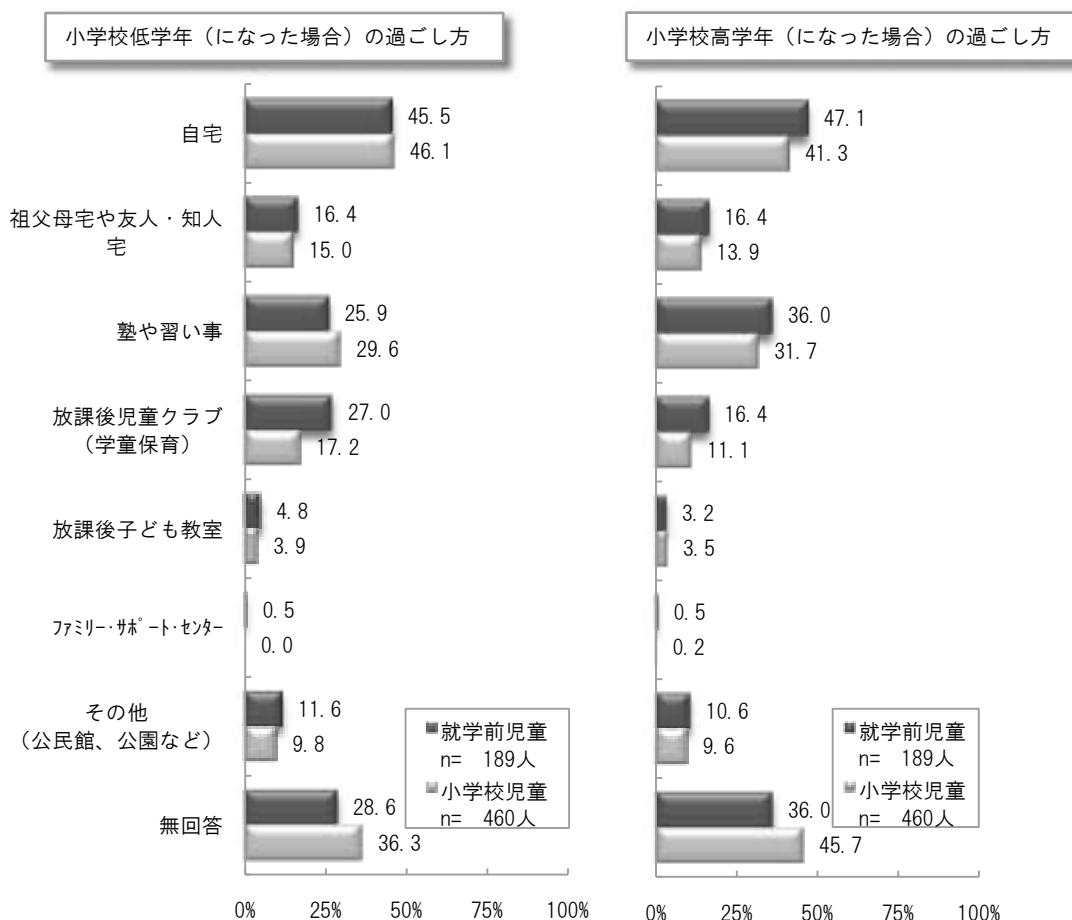
3 放課後の過ごし方について

(1) 平日の放課後の過ごし方について

放課後の過ごし方をみると、就学前児童では小学校低学年のうち「自宅」(45.5%)、「放課後児童クラブ」(27.0%)、「塾や習い事」(25.9%)の順に希望しています。小学校高学年になると、「放課後児童クラブ」が16.4%で10.6ポイント減少した一方で、「塾や習い事」(36.0%)が10.1ポイント増加しています。

また、小学校児童では小学校低学年のうち「自宅」(46.1%)、「塾や習い事」(29.6%)、「放課後児童クラブ」(17.2%)の順に希望しています。小学校高学年になると、「放課後児童クラブ」(11.1%)が6.1ポイント減少した一方で、「塾や習い事」がやや増加しています。

問 25・問 26[問 10・問 11] 放課後の過ごし方の希望



※「小学校低学年」は1～3年生、「小学校高学年」は4～6年生、「小学校児童」は1～6年生の意味です。

就学前児童の保護者が放課後を過ごさせたい具体的な場所と日数をみると、「自宅」では、「5日」（低学年時期 27.9%・高学年時期 22.5%）が最も多くなっています。「祖父母宅や友人・知人宅」では、「1日」（低学年時期 29.0%・高学年時期 35.5%）が最も多くなっています。

「塾や習い事」では、低学年の時期は「1日」（63.3%）、高学年の時期は「2日」（35.3%）が、「放課後児童クラブ」では、「5日」が低学年の時期は7割近く、高学年の時期はほぼ半数を占めています。

「放課後子ども教室」では、「1日」（低学年時期 66.7%・高学年時期 83.3%）が最も多くなっています。

「ファミリー・サポート・センター」の利用希望は1人だけで、低学年・高学年の時期ともに「3日」と回答しています。

一方、小学校児童の保護者が放課後を過ごさせたい具体的な場所と日数をみると、「自宅」では、「5日」（低学年時期 35.8%・高学年時期 31.6%）が最も多くなっています。「祖父母宅や友人・知人宅」では、低学年の時期は「2日」（27.5%）、高学年の時期は「1日」（35.9%）が最も多くなっています。

「塾や習い事」では、低学年・高学年の時期ともに「1～3日」という回答が大半を占めています。「放課後児童クラブ」では、就学前児童の保護者の回答と同様に、「5日」（低学年時期 58.2%・高学年時期 54.9%）が最も多くなっています。

「放課後子ども教室」では、低学年の時期は「2日」（44.4%）、高学年の時期は「1日」（56.3%）で、ともに半数近い回答となっています。

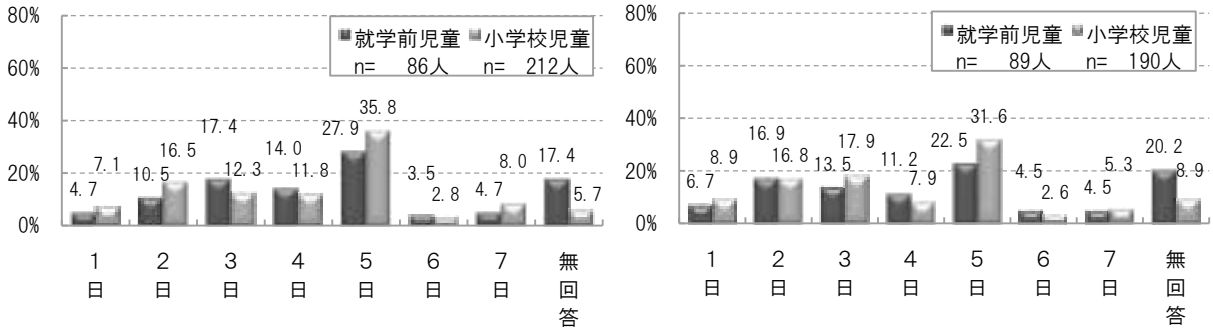
「ファミリー・サポート・センター」については就学前児童と同様、利用希望はほとんどなく、高学年の時期に「1日」と1人が回答しています。

問 25 問 26[問 10 問 11] 放課後の過ごし方の希望日数
 (※小学生は現状または希望する日数)

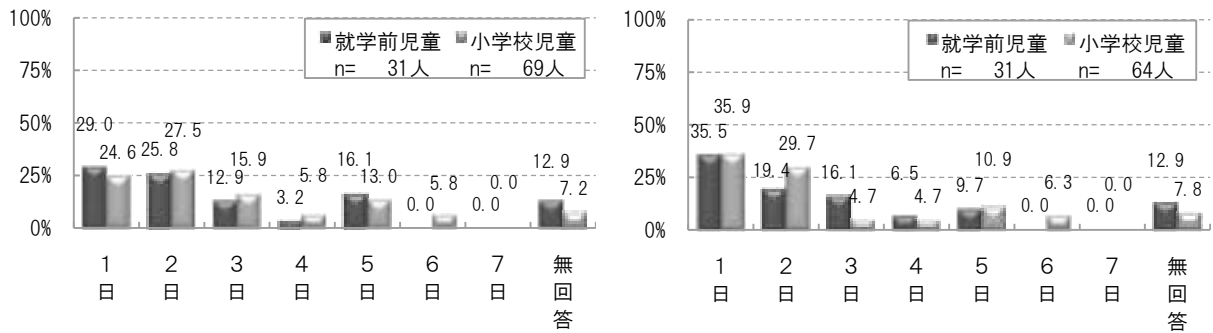
小学校低学年(になった場合)の過ごし方

小学校高学年(になった場合)の過ごし方

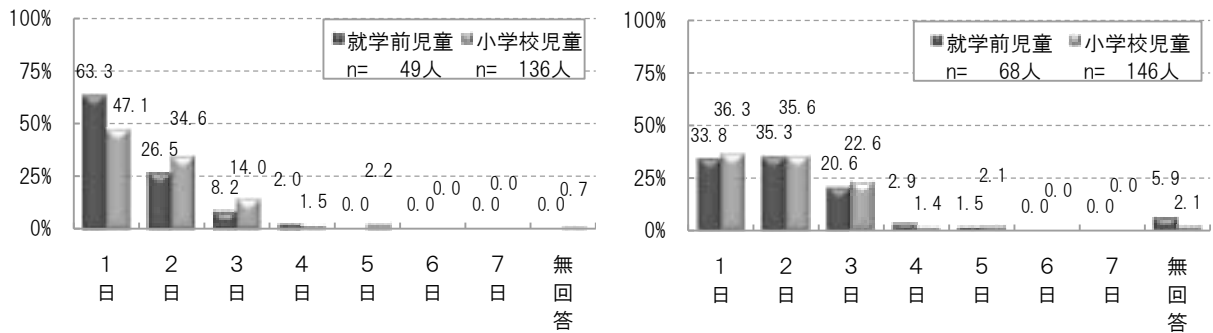
自宅



祖父母宅や友人・知人宅



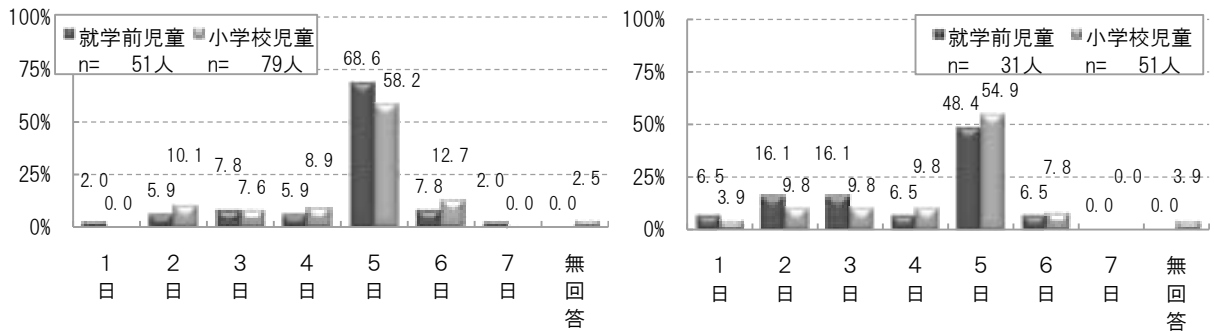
塾や習い事



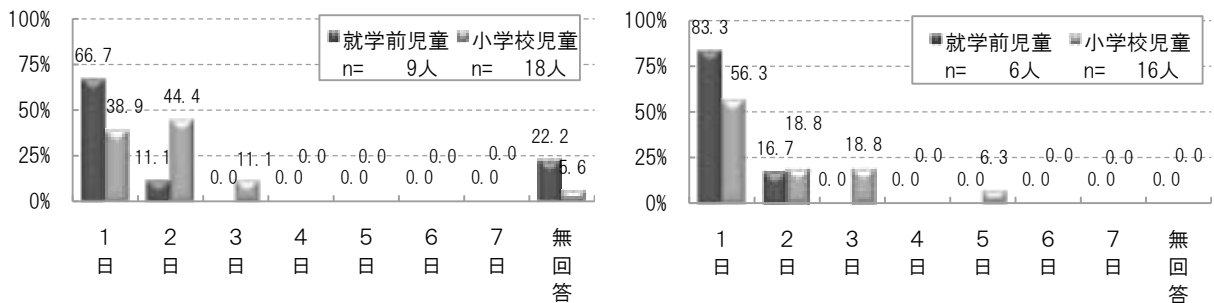
小学校低学年（になった場合）の過ごし方

小学校高学年（になった場合）の過ごし方

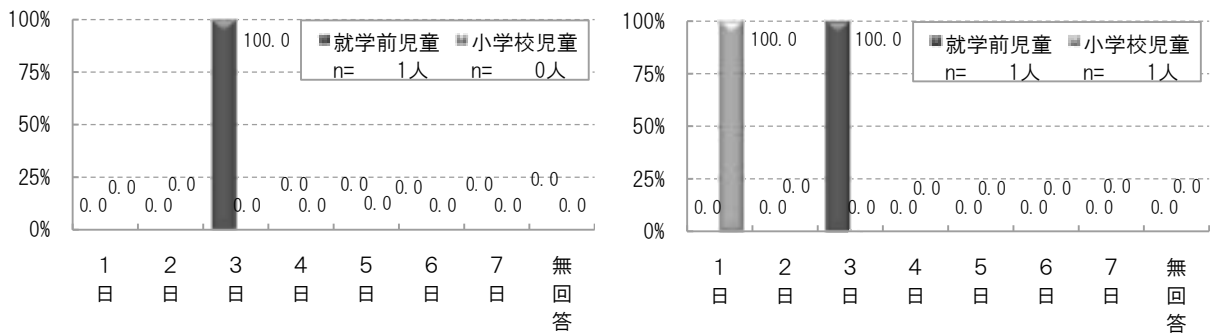
放課後児童クラブ（学童保育）



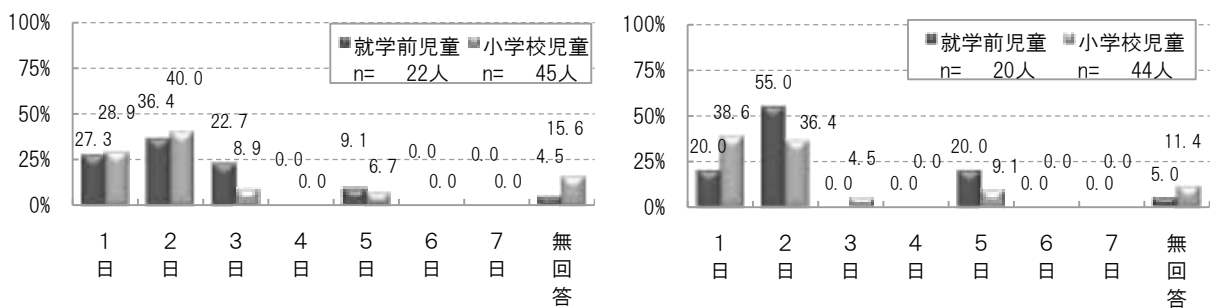
放課後子ども教室



ファミリー・サポート・センター



その他（公民館、公園等）



下校時から放課後児童クラブを何時まで利用したいかをみると、就学前児童では「18時台」（低学年時期 49.0%・高学年時期 41.9%）が最も多くなっています。小学校児童も同様に、「18時台」（低学年時期 53.2%・高学年時期 56.9%）が最も多くなっています。

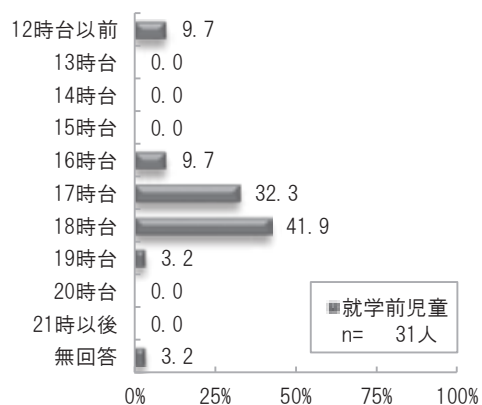
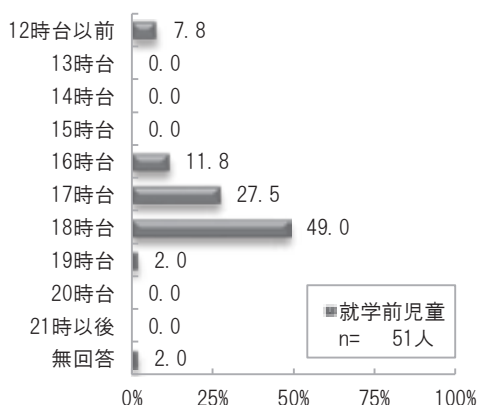
「放課後児童クラブ」を選んだ場合の具体的な利用希望時間（就学前児童の希望）

【小学校低学年の時期】

【小学校高学年の時期】

問 25 下校時からの利用希望時刻

問 26 下校時からの利用希望時刻



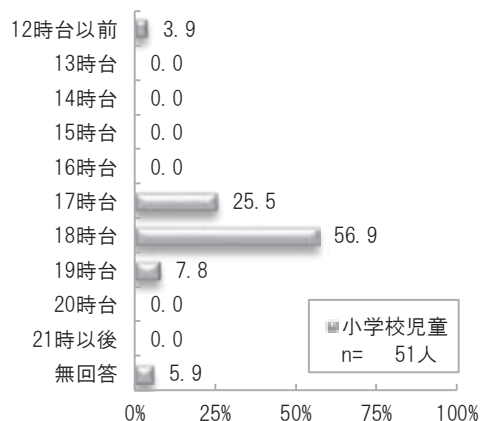
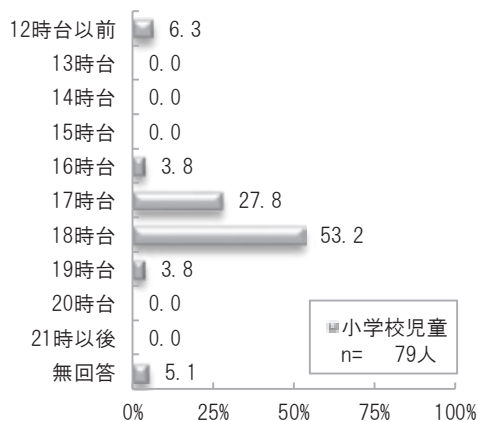
「放課後児童クラブ」を選んだ場合の具体的な利用希望時間（小学校児童の希望）

【小学校低学年の時期】

【小学校高学年の時期】

[問 10] 下校時からの利用希望時刻

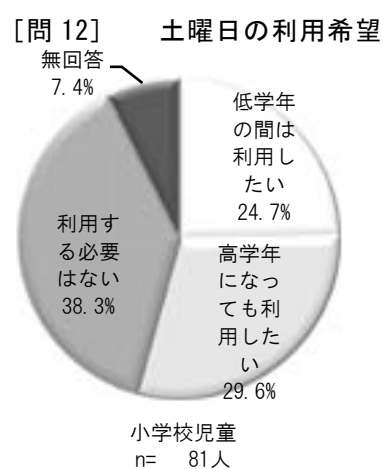
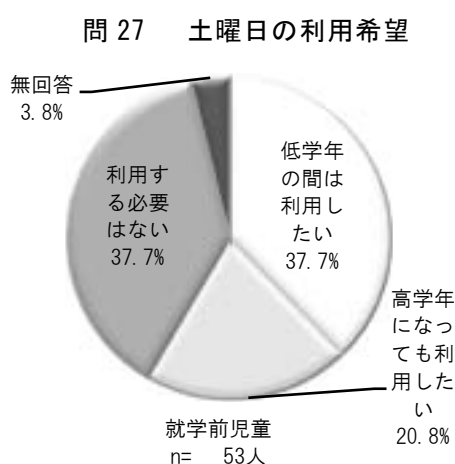
[問 11] 下校時からの利用希望時刻



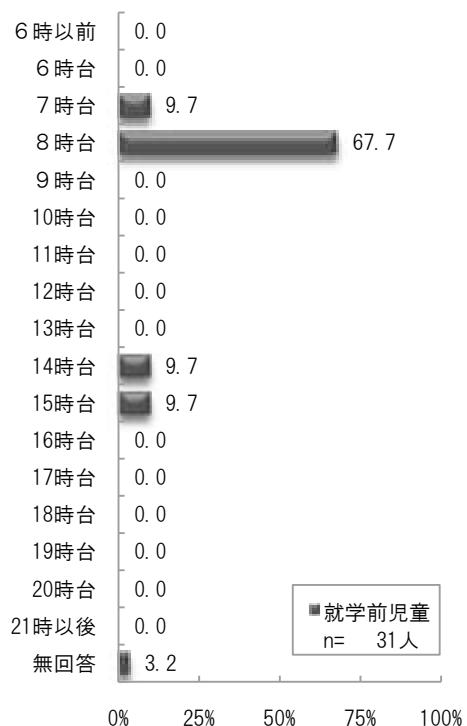
(2) 土曜日の放課後児童クラブ利用について

放課後児童クラブの土曜日の利用希望をみると、就学前児童では「低学年の間は利用したい」「利用する必要はない」(各 37.7%)、「高学年になっても利用したい」(20.8%)となっています。一方、小学校児童では「低学年の間は利用したい」(24.7%)、「高学年になっても利用したい」(29.6%)、「利用する必要はない」(38.3%)となっており、小学校児童の希望割合がやや減少しています。

希望利用開始時刻では、「8時台」(就学前児童 67.7%・小学校児童 63.6%)が最も多く、希望利用終了時刻では、「18時台」(就学前児童 48.4%・小学校児童 61.4%)が最も多くなっています。



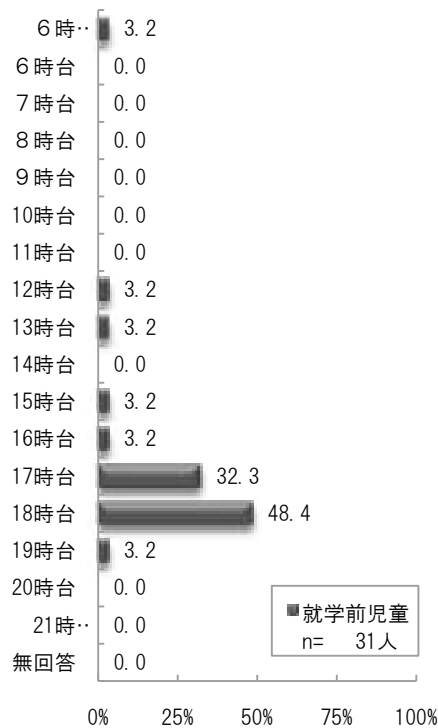
問 27(1).1 土曜日の希望利用開始時間



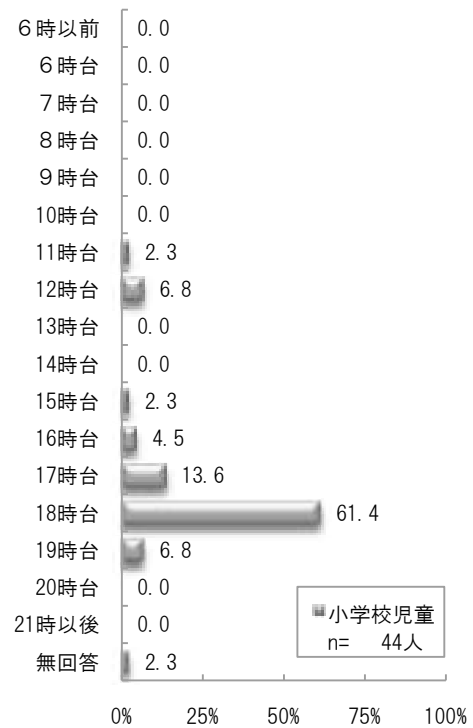
[問 12] (1).1 土曜日の希望利用開始時間



問 27(1).2 土曜日の希望利用終了時間



[問 12] (1).2 土曜日の希望利用終了時間

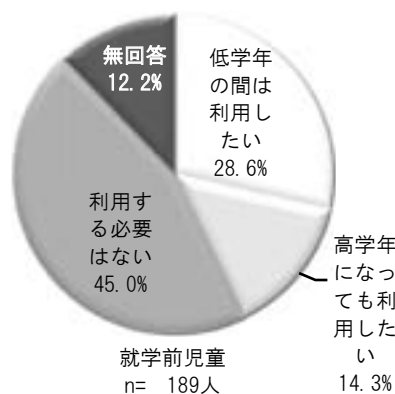


(3) 長期休暇期間中の放課後児童クラブ利用について

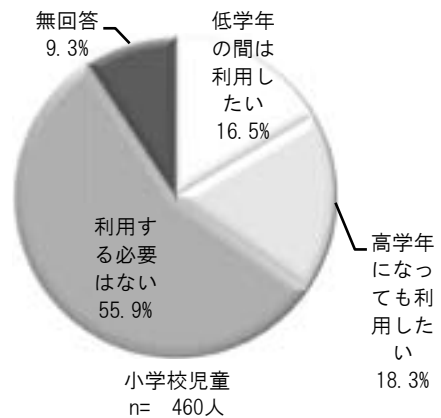
長期休暇中の利用希望をみると、就学前児童では「低学年の間は利用したい」(28.6%)、「高学年になっても利用したい」(14.3%)、「利用する必要はない」(45.0%)となっています。一方、小学校児童では「低学年の間は利用したい」(16.5%)、「高学年になっても利用したい」(18.3%)、「利用する必要はない」(55.9%)となっています。

希望利用開始時刻では、「8時台」(就学前児童 61.7%・小学校児童 65.6%)が最も多く、希望利用終了時刻では、「18時台」(就学前児童 38.3%・小学校児童 48.8%)が最も多くなっています。

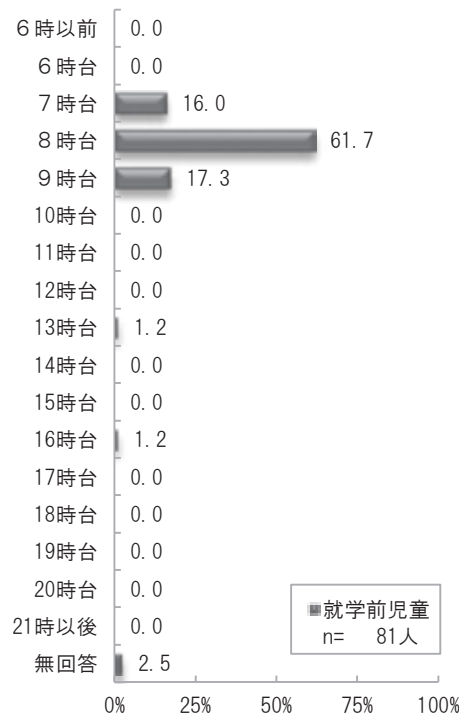
問 28 長期休暇中の利用希望



[問 13] 長期休暇中の利用希望



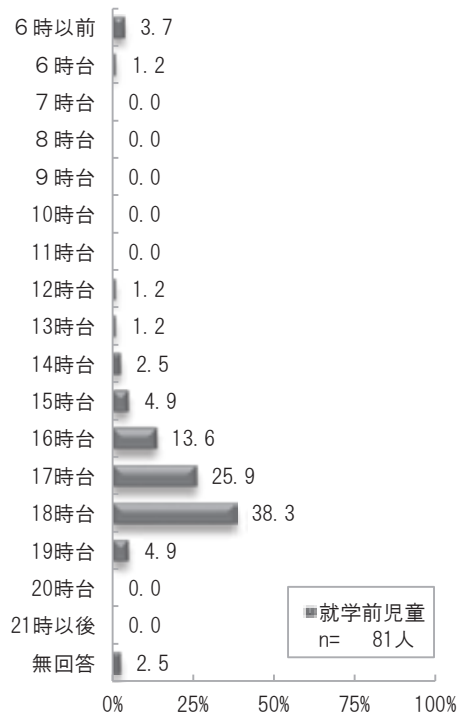
問 28 長期休暇中の希望利用開始時間



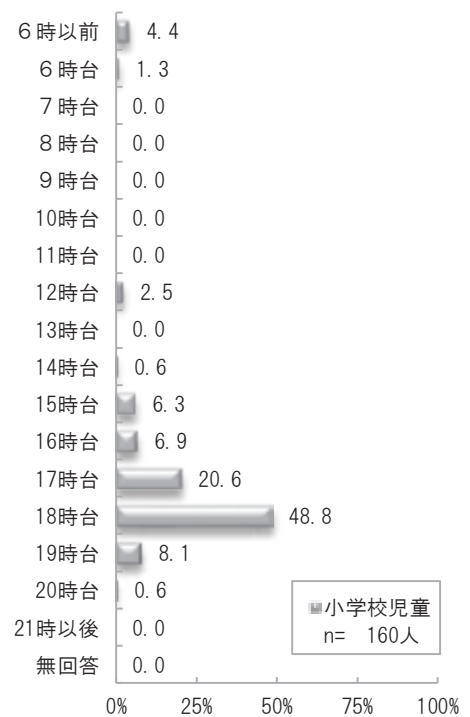
[問 13] 長期休暇中の希望利用開始時間



問 28 長期休暇中の希望利用終了時間



[問 13] 長期休暇中の希望利用終了時間

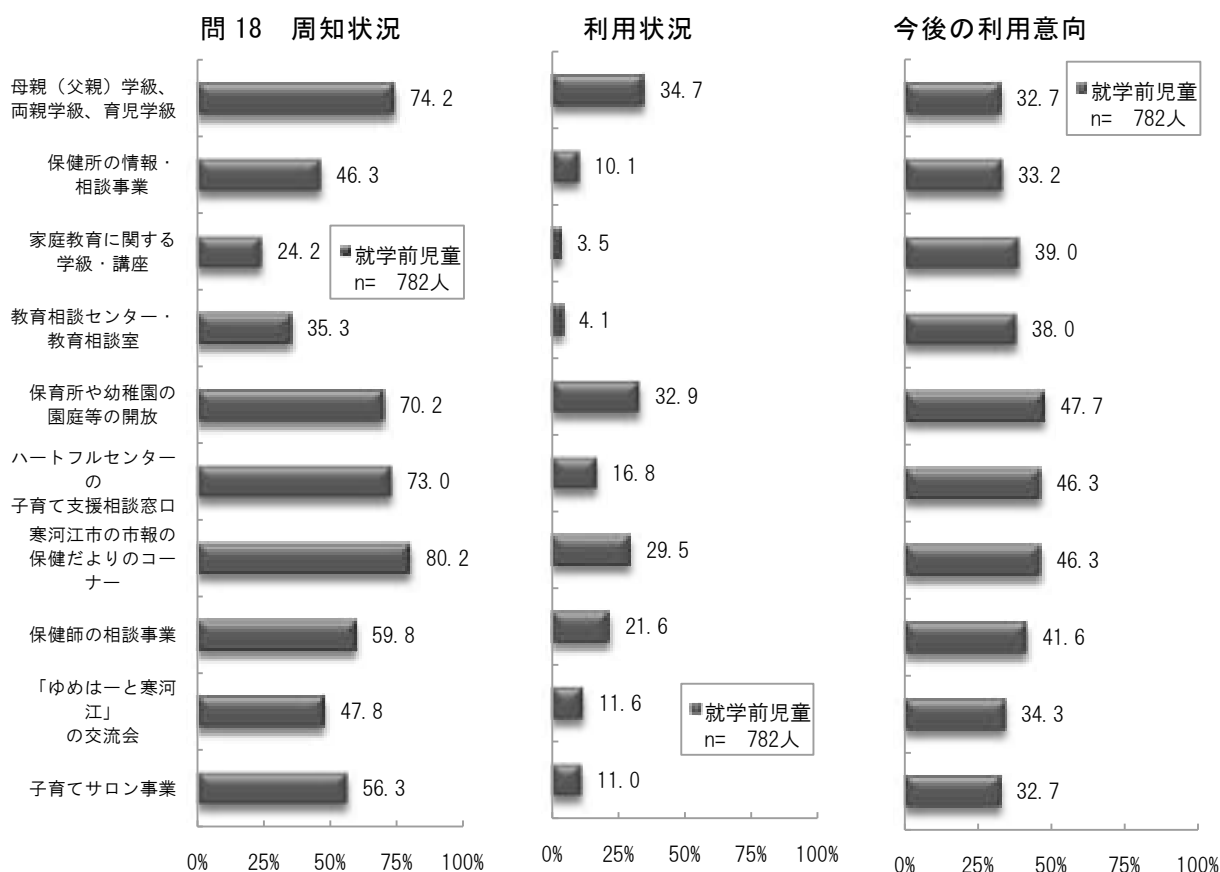


4 子育て支援事業の周知・利用状況と今後の利用意向について

子育て支援事業の周知度をみると、「寒河江市の市報の保健だよりのコーナー」(80.2%)、「母親(父親)学級、両親学級、育児学級」(74.2%)、「ハートフルセンターの子育て支援相談窓口」(73.0%)が上位を占めているものの、「家庭教育に関する学級・講座」(24.2%)、「教育相談センター・教育相談室」(35.3%)の周知度は低くなっています。

周知度が高くて利用が少ない事業は、「ハートフルセンターの子育て支援相談窓口」(16.8%)、「寒河江市の市報の保健だよりのコーナー」(29.5%)があげられます。

今後の利用希望が多い事業は、「保育所や幼稚園の園庭等の開放」(47.7%)、「ハートフルセンターの子育て支援相談窓口」「寒河江市の市報の保健だよりのコーナー」(各 46.3%)の順となっています。

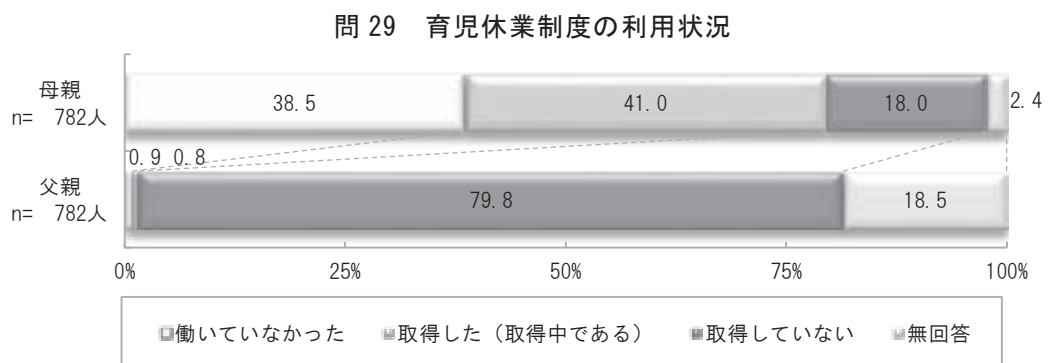


第4章 育児休業制度の利用状況

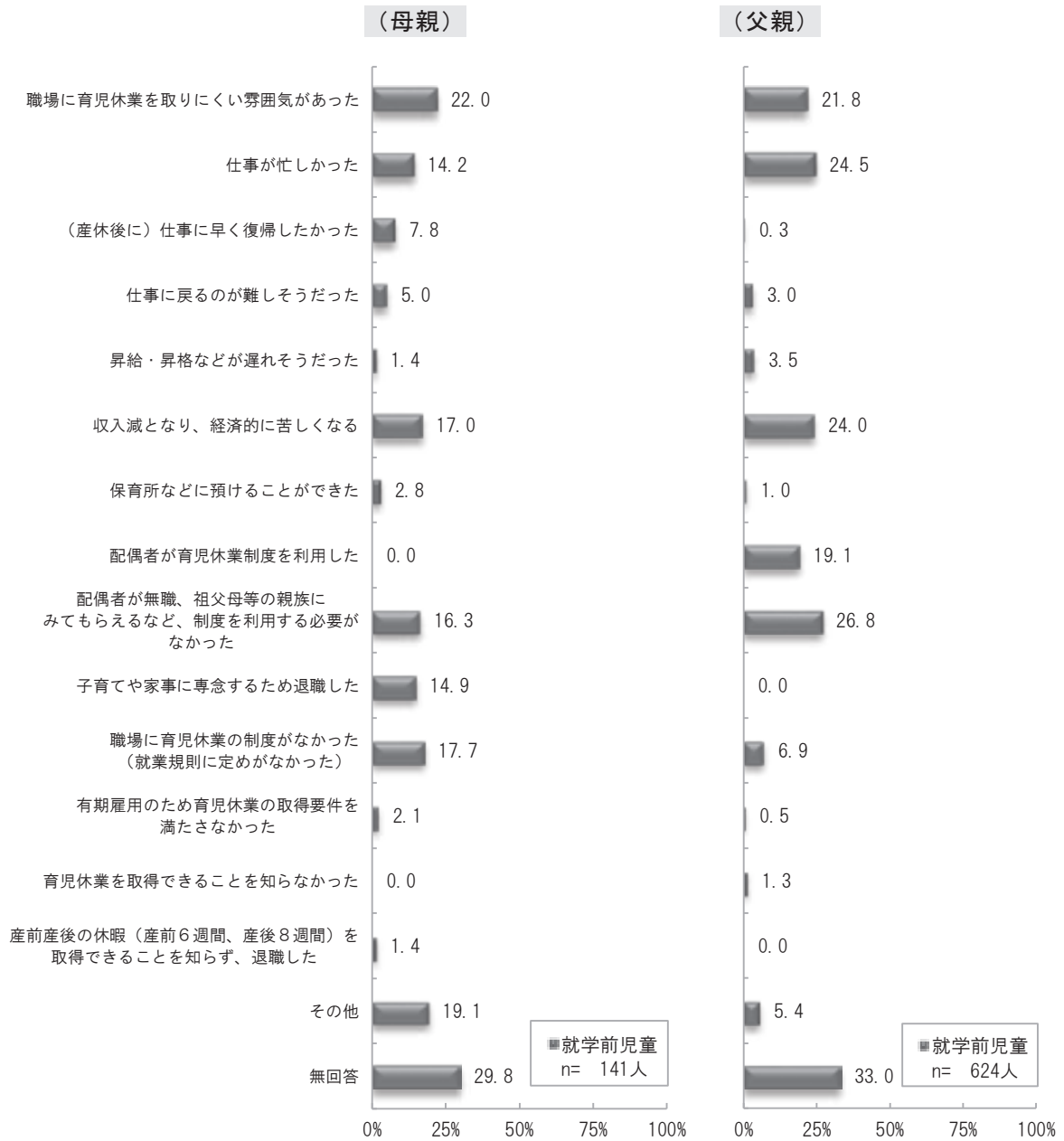
1 育児休業制度の利用状況

育児休業制度の利用状況を見ると、母親は「取得した(取得中である)」(41.0%)に対して、父親は「取得した(取得中である)」(0.8%)となり、父親が取得することの難しさがうかがえます。

また、育児休業を利用しない理由について、母親は「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(22.0%)、「職場に育児休業の制度がなかった」(17.7%)、「収入減となり、経済的に苦しくなる」(17.0%)の順となっています。一方、父親は「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」(26.8%)、「仕事が忙しかった」(24.5%)、「収入減となり、経済的に苦しくなる」(24.0%)など、母親の理由とは異なる状況がうかがえます。

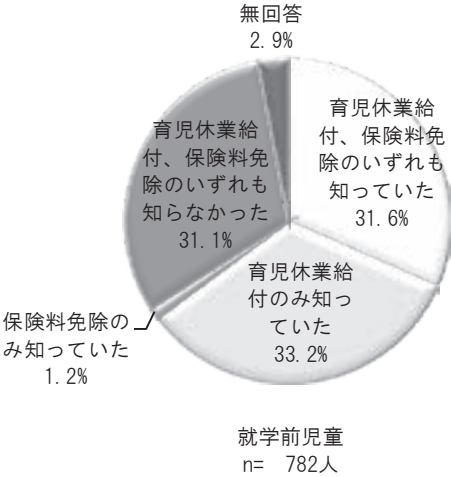


問 29 育児休業を利用しない理由



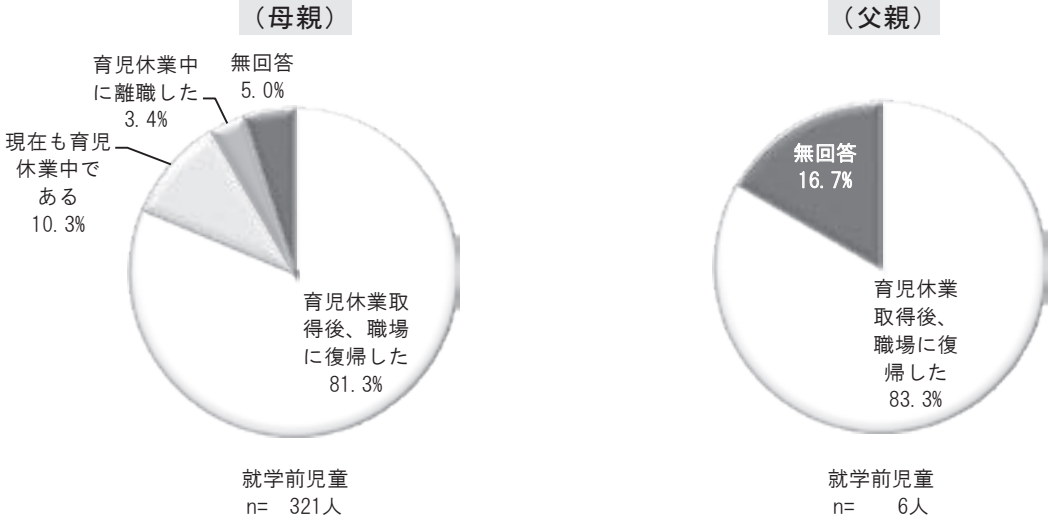
育児休業給付と社会保険料免除の仕組みの認知状況をみると、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」（31.6%）、「育児休業給付のみ知っていた」（33.2%）、「保険料免除のみ知っていた」（1.2%）となっている一方、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」（31.1%）という回答もまだ多い状況です。

問 29-1 育児休業給付の支給と健康保険・厚生年金保険料免除の仕組みを知っている



育児休業取得後の対処をみると、母親は「育児休業取得後、職場に復帰した」（81.3%）、「現在も育児休業中である」（10.3%）、「育児休業中に離職した」（3.4%）の順となっています。一方で父親は、「育児休業取得後、職場に復帰した」（83.3%）状況となっており、「現在も育児休業中である」「育児休業中に離職した」方はいませんでした。

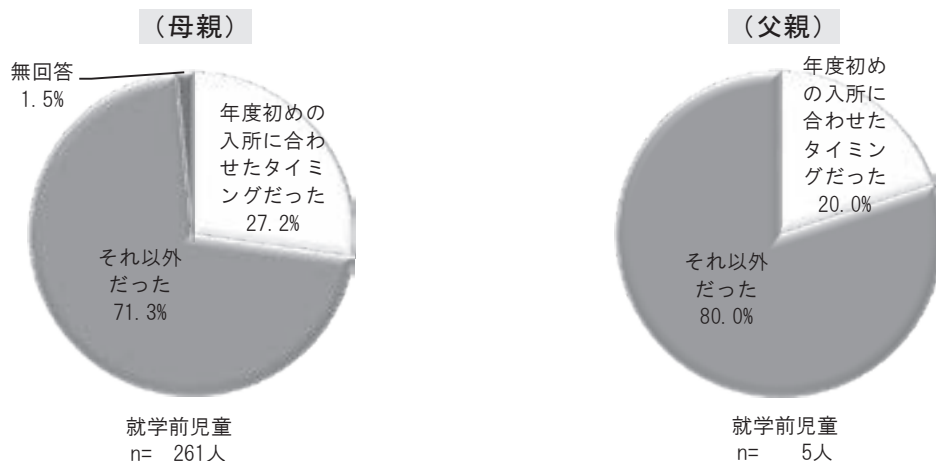
問 29-2 育児休業後の対処



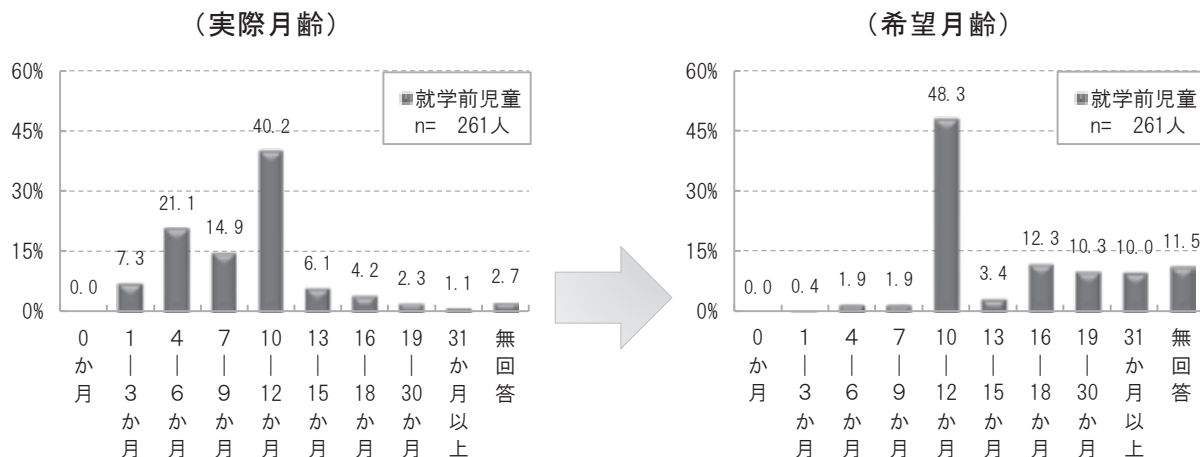
育児休業取得後に職場へ復帰した時期をみると、母親は「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」(27.2%)、「それ以外だった」(71.3%)となっています。父親についても、ほぼ同じ傾向がみられます。

育児休業から復帰したときの子どもの実年齢をみると、母親は希望月齢ともに「10—12か月」が最も多くなっています。父親は実際月齢と希望月齢ともに「1—3か月」が最も多くなっています。

問 29-3 育児休業後に職場へ復帰した時期

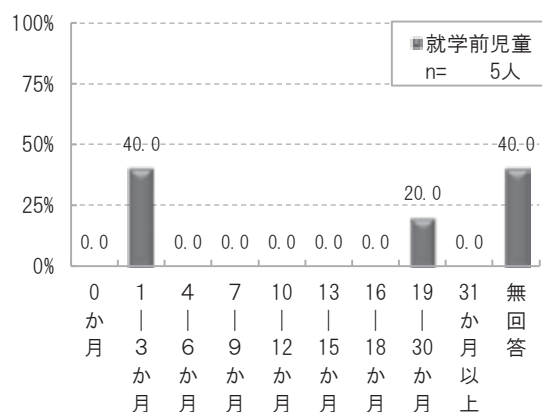


問 29-4(1) 育児休業から復帰したときの子どもの実年齢と希望月齢 (母親)

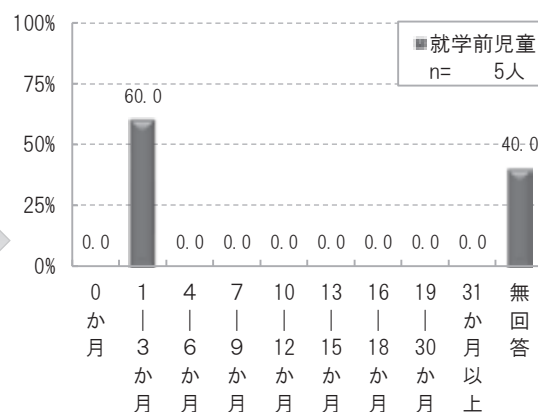


問 29-4(2) 育児休業から復帰したときの子どもの実年齢と希望月年齢（父親）

(実際月齢)



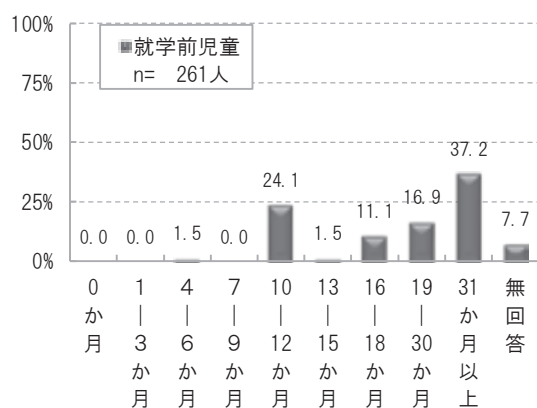
(希望月齢)



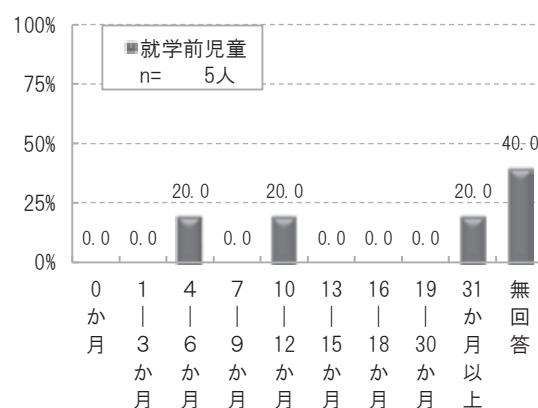
3歳までの育児休業制度があった場合の子どもの希望月齢をみると、母親は「31 か月以上」(37.2%)が4割近くを占め、父親は「4-6 か月」「10-12 か月」「31 か月以上」(各 20.0%)となっています。

問 29-5 3歳までの育児休業があった場合の子どもの希望月齢

(母親)



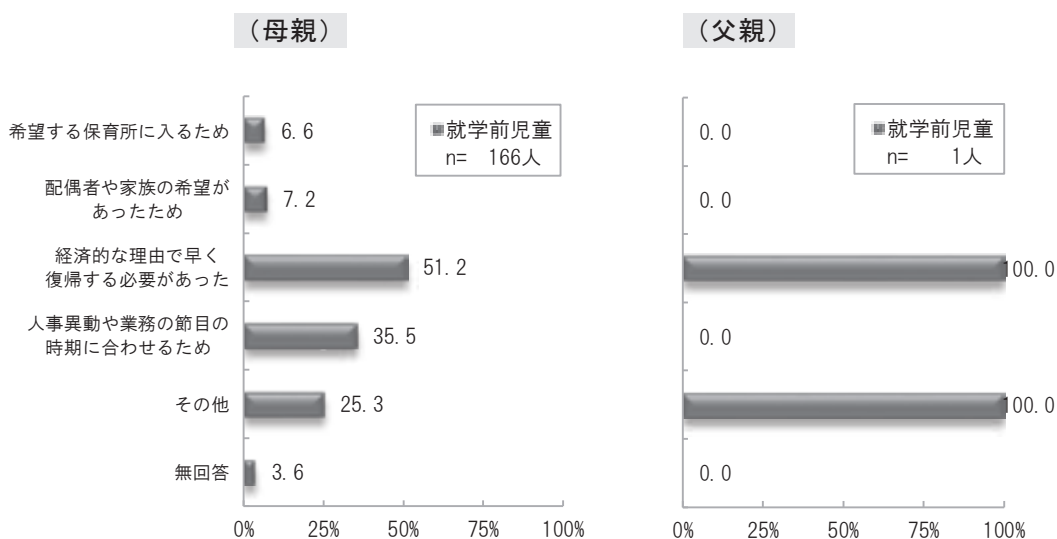
(父親)



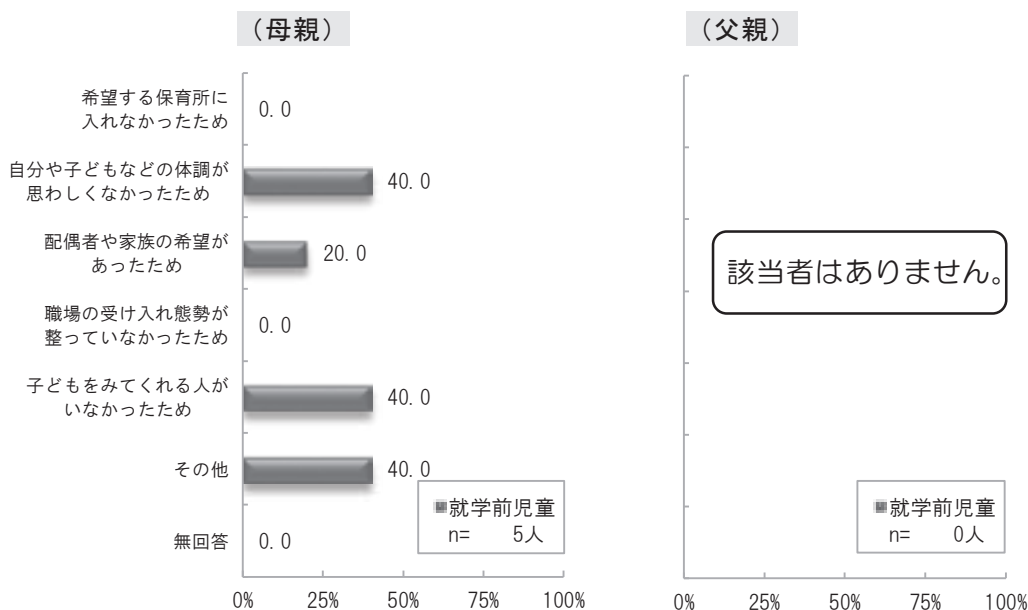
育児休業から「希望」より早く職場復帰した理由をみると、母親は「経済的な理由で早く復帰する必要があった」（51.2%）、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」（35.5%）、「配偶者や家族の希望があったため」（7.2%）の順となっています。父親は「経済的な理由で早く復帰する必要があった」と回答しています。

また、育児休業から「希望」より遅く職場復帰した理由をみると、母親は「自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため」「子どもをみてくれる人がいなかったため」（各 40.0%）という回答が多く、父親については、該当者がいませんでした。

問 29-6(1) 育児休業から「希望」より早く職場復帰した理由



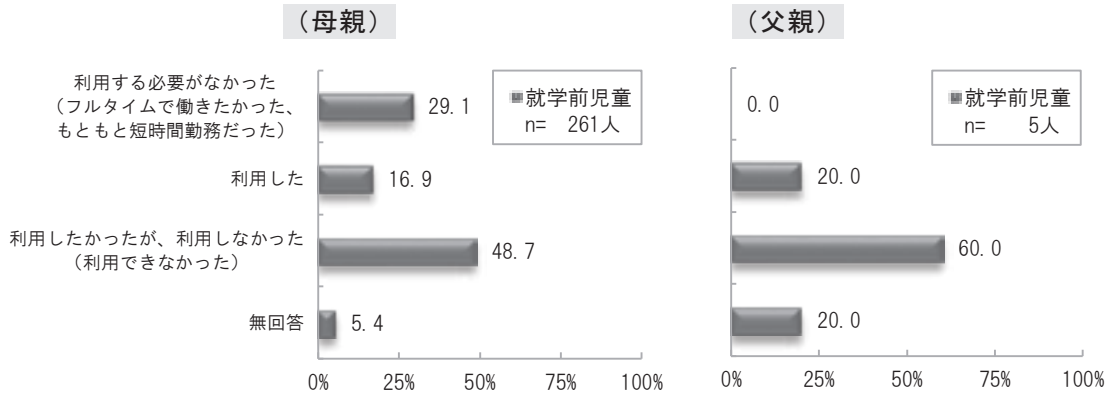
問 29-6(2) 育児休業から「希望」より遅く職場復帰した理由



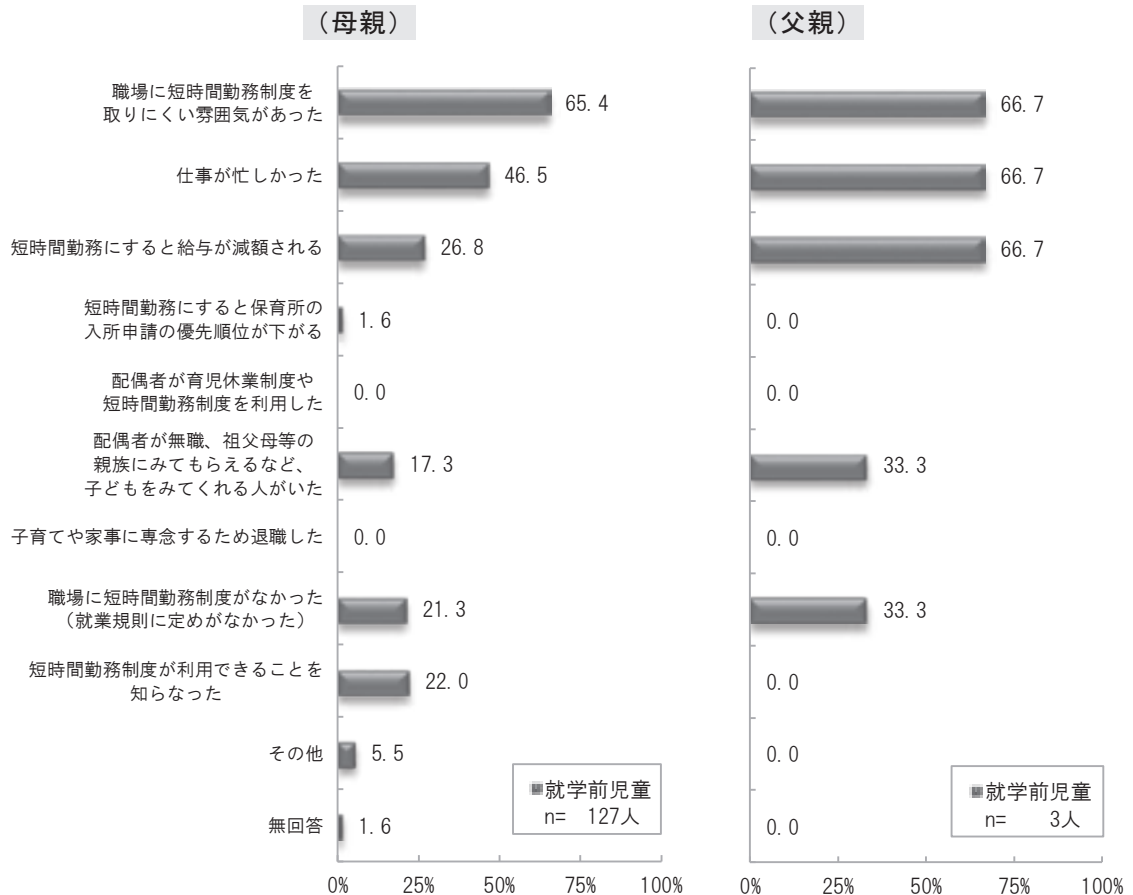
職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況をみると、母親は16.9%、父親は20.0%となっています。

職場復帰時に短時間勤務制度を利用しない理由は、母親は「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」(65.4%)が最も多くなっています。父親もほぼ同じ状況がうかがえます。

問 29-7 職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況

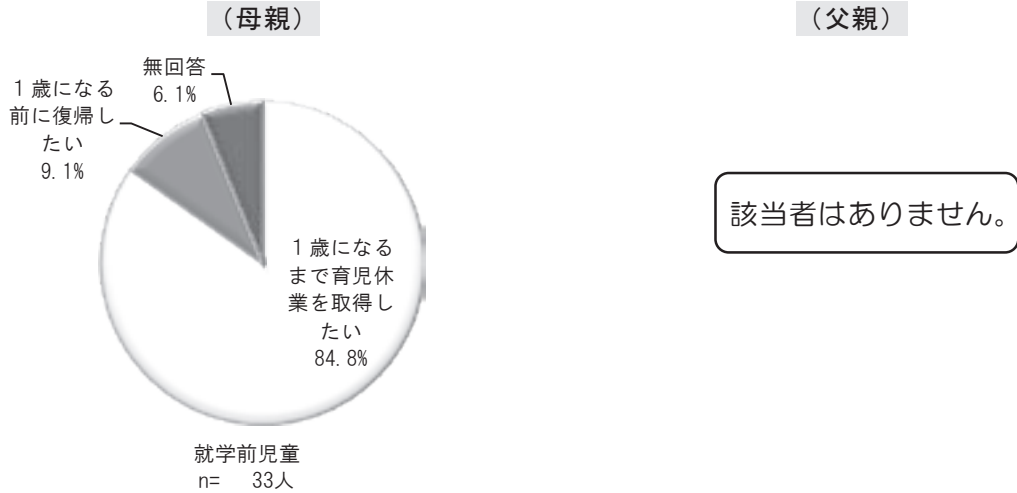


問 29-8 職場復帰時に短時間勤務制度を利用しない理由



1歳になった時に預け先が保障される場合の育児休業取得の希望をみると、母親は「1歳になるまで育児休業を取得したい」が8割を超えています。父親については、該当者がいませんでした。

問 29-9 1歳になった時に預け先が保障される場合の育児休業取得の希望



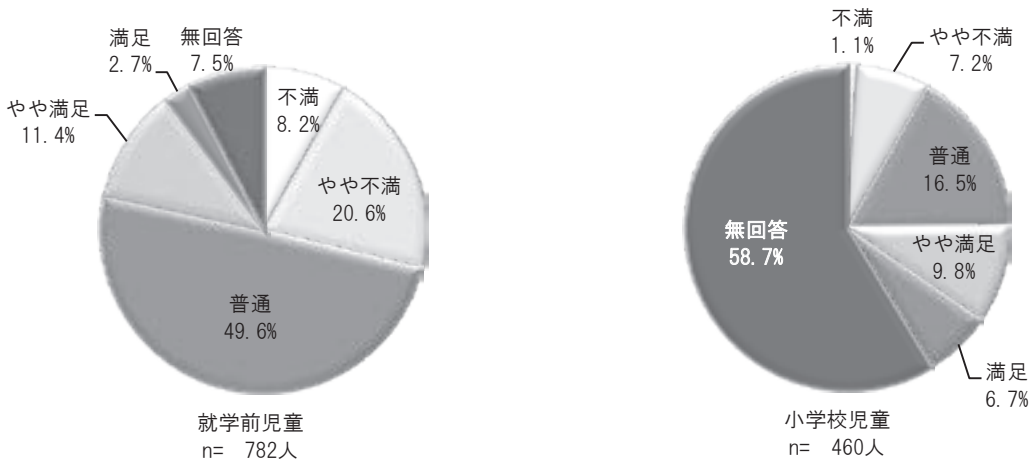
2 地域の子育て支援の環境や支援への満足度

地域の子育て支援の環境や支援に対する満足度の状況をみると、就学前児童では「普通」と「無回答」を除くと、「満足」と「やや満足」の計が14.1%、「やや不満」と「不満」の計が28.8%で後者が14.7ポイント上回っています。

一方、小学校児童は6割近くが「無回答」でしたが、「満足」と「やや満足」の計が16.5%、「やや不満」と「不満」の計が8.3%で前者が8.2ポイント上回っています。

また、満足度に対する回答者の平均点数をみると、就学前児童が2.78点、小学校児童が3.34点で、小学校児童は「普通（3点）」を上回っています。

問 30[問 14] 地域の子育て支援の環境や支援への満足度の状況



さがえっこ・すくすくプラン

寒河江市子ども・子育て支援事業計画／寒河江市母子保健計画

平成27年3月策定

平成30年3月一部改訂

発行 寒河江市

編集 寒河江市子育て推進課

〒991-0021 寒河江市中央2丁目2番1号

電話 0237-86-2111 (代表)

市ホームページ <http://www.city.sagae.yamagata.jp/>